

多賀城市市民活動サポートセンター
令和３年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

令和４年３月３１日

令和3年度運営業務成果報告書 目次

数字で見た令和3年度	1
令和3年度の主なトピック／出来事／新型コロナウイルス感染症への対応経過	2
I 令和3年度運営業務報告	
1 方針	
(1)3か年(令和2～4年度)の施設運営方針	8
(2)令和2～4年度ロードマップ	11
2 令和3年度成果・課題	
(1)令和3年度成果・課題	12
(2)令和3年度実施事業一覧	15
3 運営状況	
(1)利用状況集計	
1)総利用件数・貸室利用率	16
2)利用団体の活動分野	17
3)利用団体の属性	18
参考-1:主な項目の利用状況推移(平成20～令和3年度)	
参考-2:情報関連業務利用状況推移(平成20～令和3年度)	
(2)相談対応実績	21
参考-3:相談対応推移	
(3)情報提供	
1)団体情報ファイル	30
2)ウェブサイト・ブログ・ツイッター	34
3)たがさぼ文庫	35
(4)場の提供	
1)事務用ブース利用状況／事務用ブース入居団体インキュベート相談.....	36
2)フリースペース利用状況	37
(5)他団体・他機関との連携	
1)各会議・実行委員会への参加	40
2)他部署・他機関との連携事例	49
(6)スタッフの研修への参加	53
4 事業実施状況	
(1)地域の担い手育成事業	
1)雑貨市等	55
2)いちから塾等	63
3)NPO運営パワーアップ事業	73
4)「支える人材」との連携・育成事業	80
(2)自治会・町内会支援事業	
1)自治会・町内会支援事業	81
(3)連携による課題解決を進める事業	
1)連携による課題解決を進める事業	89
(4)情報発信事業	
1)フリーペーパー「tag」発行	102
2)コロナ禍における情報発信事業	109
II 令和4年度事業計画	
1 令和2～4年度ロードマップ修正版	113
2 令和4年度事業計画	114
III 添付資料	

数字で見た令和3年度

1. 総利用者数 のべ 18,893 人

前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったものの、前年度より3,373人の増加（前年度比121.7%）となった。貸室利用人数は前年度比121.4%、フリースペース利用人数は前年度比125.0%とともに増加しており、利用は戻りつつある。ただ、コロナ禍前の前々年度（平成31年度）と比較すると73.4%の利用にとどまっている。

そのような中でも、ウェブサイト訪問者数は前年度比118.5%、ブログ訪問者数は前年度比121.2%と、前年度を上回るだけでなくここ数年で最も多くなっており、コロナ禍でも市民による情報の受信、収集が行われていたことがうかがえる。

→詳細は16～20ページ「3 運営状況（1）利用状況集計」を参照

2. 相談対応件数 のべ 358 件

前年度と比較すると微減となっているが、1件あたりの平均対応時間は21.9分で、前年度より約5分長くなっている。

→詳細は21～29ページ「3 運営状況（2）相談対応実績」を参照

3. 配架情報総数 1,416 種類

→詳細は20ページ「3 運営状況（1）利用状況集計 参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成20～令和3年度）」を参照

4. 67本の企画を実施し、のべ1,098人、78団体が参加（共催事業も含む）

このうち、オンライン会議システム活用による企画は21本で、218人・36団体が参加

→詳細は55～112ページ「4 事業実施状況」を参照

5. TSCの支援であわせて7団体が立ち上げ・法人化に至る

→詳細は27ページ「3 運営状況（2）相談対応実績

<市民活動相談の内訳>●ステップ」を参照

6. 団体情報は 55 団体増えて 2,247 団体に

二市三町では 18 団体増えて 334 団体に

→詳細は30～33ページ「3 運営状況（3）情報提供 1）団体情報ファイル」を参照

令和 3 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、開館より 13 年が経過した。

令和 2 年度～4 年度 3 ヶ年の業務委託の 2 年目となる令和 3 年度を、主なトピックと出来事でふりかえる。

1. コロナ禍でも必要とされている情報を届け続ける

4 月 5 日～5 月 11 日、8 月 20 日～9 月 30 日の宮城県のまん延防止等重点措置期間や、市内での新型コロナウイルス感染拡大状況をふまえ、講座や情報交換会等の事業は延期や開催方法の変更を余儀なくされた。一方開催にあたってオンラインを併用したり、事業の様子を記録・編集し、参加者以外にも動画やブログで内容を共有できるよう発信を強化するなど、市民に活動のノウハウや情報共有の機会を提供することができた。雑貨市ではコロナ禍で規模を縮小したことが功を奏して、団体と来場者のコミュニケーションがまんべんなく図られ、そのことによって市民活動・社会課題の気づきや理解につながった。

2. 市民活動の多様な入口を示して活動につながる

ボランティア入門講座および、N P O いちから塾のステップアップ講座の開催等により、「活動を立ち上げる」「ボランティアで活動に参加する」「寄付や買い物で活動を応援する」など、市民活動に関わる多様な入口を示すことができた。このことで、講座参加者がボランティアとして活動したり、団体に寄付するなどのアクションにつながった。

3. 多様な主体による連携が広がる

平成 30 年度実施の T S R 会議 Vol. 2、平成 31 年度のまちあるき企画、令和 2 年度の市民活動団体・企業・市内公共施設等との連携による取り組みへとつながった多文化共生事業は、本年度の取り組みを経て、来年度以降も持続的な取り組みの見通しを立てることができた。また、「防災」をテーマにした本年度の T S R 会議をきっかけに、子どもの防災について市民活動団体・企業・自治会・行政等と一緒に考え、実践する活動につながることができた。

令和3年度の主な出来事

令和3年

4月

- 6日 視察 多賀城市新規採用職員研修「市民協働の取り組みについて」
- 11日 施設管理 コピー機ベンダー入替
- 17日 事業 出前いちから塾@七ヶ浜町
- ～26日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集
- ～26日 施設管理 事務用ロッカー・レターケース利用団体募集

5月

- 10日 事業 町内会なんでも相談会
- 15日 施設管理 事務用ブース入居審査会
- 21日 事業 町内会なんでも相談会
- 22日 事業 緊急企画！すえち少年になってまちを歩こう in 旭ヶ岡
- 29日 事業 おでかけミニ雑貨市出展団体説明会 *オンライン

6月

- 10日 事業 「tag」94号発行
- 15日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン
- 18日 事業 NPOいちから塾
- 20日 事業 YouTube「たがさぼチャンネル」アップ
「たがさぼニュース～ようこそ、多賀城市市民活動サポートセンターへ～（前編）」
- 29日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン

7月

- 3日 事業 おでかけミニ雑貨市@サークルフェア
- 3日 事業 市民活動相談会@サークルフェア
- 4日 事業 外国人技能実習生サポーター養成講座【共催】
- 6日 視察 NPO法人まちづくりスポット仙台
- 9日 事業 町内会活動どうする相談会 in 大代地区公民館
- 10日 事業 NPO・市民活動団体運営なんでも相談会
- 11日 事業 外国人技能実習生サポーター養成講座【共催】
- 13日 視察 NPO法人まちづくりスポット仙台
- 17日 事業 NPO・市民活動団体運営なんでも相談会
- 17日～10月28日 展示 豪雨災害支援情報
- 20日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン
- ～26日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集

- 27日 事業 NPO・市民活動団体運営なんでも相談会
- 29日 事業 出前いちから塾@桜木北区町内会
- 31日 事業 技能実習生とサポーターとの交流の場【共催】

8月

- 1日 施設管理 事務用ブース入居審査会
- 15日 事業 YouTube「たがさぼチャンネル」アップ
「たがさぼニュース～ようこそ、多賀城市市民活動サポートセンターへ～（後編）」
- 17日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン
- 20日 事業 町内会活動どうする相談会 in 山王地区公民館
- 25日 施設管理 消防訓練
- 26日 事業 NPO・市民活動団体運営なんでも相談会

9月

- 2日 事業 「tag」95号発行
- 18日 視察 みやぎNPOプラザ
- 25日 事業 Tagajo Sustainable Relationship 2021 会議 *オンライン

10月

- 3日 事業 はじめてみよう！ボランティア *オンライン
- 11日 事業 出前いちから塾@東北学院大学工学部講義 *オンライン
- 22日 事業 自治会・町内会情報交換会
- 30日 事業 NPOパワーアップ講座「想いが届く情報発信相談会」 *オンライン
- 31日 事業 水辺の防災SUP体験&ミニ防災まちあるき
- 10月～2月 事業 フードボックス設置

11月

- 1～21日 施設管理 利用者アンケート
- 2日 事業 NPOパワーアップ講座「想いが届く情報発信相談会」 *オンライン
- 5日 参加 地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会@山王小学校区
- 6日 事業 多賀城 みんなの防災ワークショップ
- 9日 参加 地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会@城南小学校区
- 16日 事業 出前いちから塾@多賀城高等学校
- 16日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン
- 17日 参加 地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会@天真小学校区
- 19日 参加 地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会@多賀城東小学校区
- 21日 事業 NPOいちから塾 *オンライン
- 23日 事業 NPOパワーアップ講座
「団体の運営力アップにつながる！生き生きと活動する仲間づくりのカギ」
*オンライン

- 25 日 参加 地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会@多賀城八幡小学校区
- 26 日 事業 こども防災の日をつくる会 会議
- 27 日 事業 クリスマス雑貨市決起集会 *オンライン
- 27 日 事業 おしえてくなるまちのひみつ 旭ヶ岡ってこんなところだったの
- 29 日 事業 YouTube「たがさぼチャンネル」アップ
事業紹介①「昭和初期の旭ヶ岡にタイムトラベル！」
- 29 日 事業 こども防災の日をつくる会 花植え【協力】
- 30 日 参加 地域コミュニティ課主催 町内会情報交換会@多賀城小学校区
- 11月～12月 事業 「はじめてみよう！ボランティア」受講者のボランティア体験

12 月

- 1～18 日 事業 たがさぼのクリスマス雑貨市プレゼント展示「雑貨とわたしとSDGs」
@市立図書館
- 2 日 事業 クリスマス雑貨市決起集会 *オンライン
- 5 日 事業 市民活動相談会@市立図書館
- 10 日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン
- 11 日 事業 たがさぼのクリスマス雑貨市
- 20 日 事業 こども防災の日をつくる会 防災訓練【協力】
- 23 日 事業 出前いちから塾@東北学院大学工学部講義
- 25 日 事業 「tag」96号発行

令和4年

1 月

- 10 日 事業 多文化共生事業「お正月遊び」【共催】
- ～15 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集
- 15 日 事業 事務用ブース入居団体インキュベート相談
- 16 日 施設管理 臨時休館（トンガ沖海底火山噴火による津波注意報発令のため）
- 23 日 施設管理 事務用ブース入居審査会
- 26 日 施設管理 消防訓練

2 月

- 6 日 事業 NPOこれから塾 *オンライン
- 11 日 事業 キラキラひかる防災バッグづくり【協力】 *オンライン
- 20 日 事業 事業紹介②「町内会情報交換会」配信
- 22 日 事業 事務用ブース入居団体インキュベート相談
- 26 日 事業 事務用ブース入居団体インキュベート相談
- 27 日 事業 団体紹介「団体紹介 in 雑貨市」配信

3 月

- 1 日～ 展示 「防災まちの掲示板」
- 4 日 事業 多文化共生について課題&アイデアを出し合う場 *オンライン
- 17 日 施設管理 臨時休館 (3/16 発生福島県沖地震のため)
- 21 日 事業 事業紹介③「町内会情報交換会」配信
- 25 日 事業 「tag」97 号発行
- 28 日 事業 事業紹介④「町内会情報交換会」配信

メディア掲載

令和 3 年

- 4 月 1 日 河北新報 (朝刊) 「3・11 の経験今に活かそう 多賀城・町内会役員ら座談会」
- 4 月 5 日 河北新報 (夕刊)
志民の輪 ふみだす info「動画で NPO を紹介 多賀城市サポセンが配信」
- 7 月 21 日 河北新報 (朝刊) 技能実習生と交流サポート
- 12 月 6 日 河北新報 (夕刊) 志民の輪 ふみだす info「手作り雑貨勢ぞろい」
- 12 月 7 日 河北新報 (夕刊) 杜のひろば「身近な地域の歴史学ぶ」
- 12 月 28 日 河北新報 (朝刊) 「社会支援団体 活動に光」多賀城 クリスマス雑貨市

令和 4 年

- 1 月 12 日 河北新報 (朝刊) 外国人実習生正月遊び体験 多賀城で交流イベント

新型コロナウイルス感染症への対応経過

新型コロナウイルス感染症の影響に関する宮城県や多賀城市の動き、T S Cの対応経過をまとめた。

	T S C	多賀城市	宮城県	国
前年度からの継続事項	令和2年11月1日より、3密の回避など、感染拡大を予防する対応を行いながら、一部利用制限を付して開館	3月26日、第33回市感染症対策本部会議を開催	令和3年3月18日より、独自の緊急事態宣言（～4月11日）	
令和3年4月2日（金）		第34回市感染症対策本部会議を開催		
4月3日（土）			独自の緊急事態宣言を5月5日まで延長決定	
4月5日（月）				宮城県にまん延防止等重点措置（～5月5日）
4月23日（金）				宮城県を含むまん延防止重点措置を5月11日までに延長決定
4月27日（火）		第35回市感染症対策本部会議を開催	独自の緊急事態宣言を5月11日まで延長決定	
5月7日（金）				まん延防止等重点措置から宮城県は12日以降解除決定
5月11日（火）				宮城県のまん延防止等重点措置解除
5月12日（水）			リバウンド防止徹底期間（～5月31日）	
5月28日（金）			独自の緊急事態宣言、リバウンド防止徹底期間を6月13日まで継続決定	
6月4日（金）		第36回市感染症対策本部会議を開催		
6月10日（木）			リバウンド防止徹底期間を7月11日まで延長	
6月16日（水）		第37回市感染症対策本部会議を開催		
7月7日（水）			7月11日が期限のリバウンド防止徹底期間を8月31日まで延長することを決定。	
8月12日（木）			宮城県・仙台市緊急事態宣言（～8月31日）	
8月17日（火）				
8月18日（水）	市感染症対策本部会議の決定を受け、8月20日～9月12日の期間の貸室・フリースペース利用を20時までに短縮決定。	第38回市感染症対策本部会議を開催	まん延防止等重点措置適用を受け、宮城県・仙台市独自の緊急事態宣言を9月12日まで延長決定	
8月19日（木）	館内および貸室予約団体へのアナウンス開始			
8月20日（金）				宮城県にまん延防止等重点措置（～9月12日）
8月26日（木）	市感染症対策本部会議の決定を受け、8月27日～9月12日の期間の貸室の新規申込停止、フリースペース利用不可とした。	第39回市感染症対策本部会議を開催		
9月1日（水）		第40回市感染症対策本部会議を開催		
9月9日（木）				宮城県を含むまん延防止重点措置を9月30日までに延長決定
9月10日（金）	市感染症対策本部会議の決定を受け、9月13日～30日の期間の貸室・フリースペース利用を20時までに短縮決定。	第41回市感染症対策本部会議を開催		
9月30日（木）	まん延防止等重点措置期間の終了に伴い、10月1日（金）～利用時間は通常通り。	第42回市感染症対策本部会議を開催		まん延防止等重点措置解除
11月22日（月）		第43回市感染症対策本部会議を開催		
12月8日（水）		第44回市感染症対策本部会議を開催		
12月14日（火）		第45回市感染症対策本部会議を開催		
令和4年1月4日（火）		第46回市感染症対策本部会議を開催		
1月14日（金）			感染症対策本部会議にて県内の感染状況をレベル2に引き上げ	
1月18日（火）		第47回市感染症対策本部会議を開催		
1月30日（日）			感染症対策本部会議にて県内の感染状況をレベル2+に引き上げ	
2月1日（火）			県独自の緊急特別要請（～2月28日）	
2月10日（木）		第48回市感染症対策本部会議を開催		
2月16日（水）		第49回市感染症対策本部会議を開催		
2月25日（金）			県独自の緊急特別要請延長決定（～3月21日）	
3月8日（火）		第50回市感染症対策本部会議を開催		
3月21日（月）			緊急特別要請終了	
3月22日（火）			再拡大防止期間（～4月10日）	

- T S Cの対応
- ・手指消毒用アルコールの設置
 - ・非接触型体温計の設置
 - ・換気の徹底
 - ・定期的な消毒

- 令和4年3月末時点での利用者へのお願い
- 利用制限について
- ・不特定多数が参加するイベントでの利用はご遠慮いただく
 - ・フリースペースは利用前に1階で受付してから利用
- 感染拡大の防止のために
- T S Cへの来館や各団体で活動を行う際は、感染拡大防止のために下記へのご協力のお願い
- ・マスク着用の徹底
 - ・手の消毒（入口にアルコール消毒液を設置している）
 - ・体調不良や熱がある際の利用はご遠慮いただく
 - ・密閉・密集・密接を避けた活動（換気を行い、人と人の間隔を空け、間近での会話を避ける）
 - ・主催団体の方は、不特定な方の利用とならないよう、参加者の連絡先等の把握
 - ・館内で飲食する場合は、対面を避け、周囲との距離をとること ※電気ポットや茶器等の貸出は休止

I

令和 3 年度運営業務報告

I -1 方針

(1) 3ヵ年（令和2年度～4年度）の施設運営方針 ※前年度より変更なし

令和2年度～4年度の3ヵ年の業務委託に際し、施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

TSCが目指す多賀城のまちの姿

- ・ 共通する課題や手段ごとに、自治会・町内会、NPO、企業、学校、行政等のさまざまな主体が連携している。
 - ・ さまざまな年代の方が、多様な方法で地域に関わっている。
- それによって、防災、高齢者、障がい者、子育てなど、地域のさまざまな課題が自治の力によって解決されている。

3年後（令和4年度末）の姿

5つ程度の現状の枠を超えた動きが出ている。

複数の動きでは、成果が見え始めていることにより、新たな連携が生まれたり、成果が出ている動きに他の主体も参加し始めたりしている。

TSCの役割

地域の自治力を高めること

取り組み

(1) 地域の担い手の育成

○市民

- ・ 社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ市民を増やす。
- ・ 想いを持つ人が活動に踏み出せるようにする。

→【事業案】

- ・ 市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。
- ・ 地域の課題に見える化し発見する力を育成し、担い手となる人たちを掘り起こす。
- ・ 雑貨市
- ・ NPOいちから塾

○NPO

- ・自団体の強みを知る
- ・取り組んでいる課題のことを企業等に伝えられる
- ・課題設定、課題解決のプロセスが描ける

→【事業案】

- ・情報発信力強化
- ・NPO自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。

○自治会・町内会

- ・運営課題解決のためのサポート
- ・住民の関わり開発のサポート

→【事業案】

- ・各自治会・町内会が持つ課題やノウハウを共有する場をつくる。
- ・自治会・町内会自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。
- ・事例ポイント集の作成
- ・地区の話し合いのサポート

○企業

- ・地域を知る
- ・NPOを知る
- ・地域貢献活動に取り組む

→【事業案】

- ・NPOいちから塾
- ・市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。

○支える人材（行政等）

- ・行政、地区公民館、地域包括支援センターなど、市民の活動に関わるスタッフの支援力を高め、支援の環境を強化する。

→【事業案】

- ・自治力を高めるために必要なスキルを学んだり、お互いに協力できるような関係づくり
- ・NPOいちから塾

(2)連携による課題解決を進める

- ・自治会・町内会だけでなく、地域を構成する一員である企業（事業者）やテーマごとに専門性を持って活動するNPOをつなぎ、連携を生み出す。

→【事業案】

- ・連携を促す場づくり

- ・伴走型支援

(３)情報発信

- ・上記内容を発信する。

→【事業案】

- ・月刊フリーペーパー「tag」発行

(４)運営主体をひろげる

- ・他主体との連携を進める。

運営上の工夫

- 主催事業において要約筆記や託児が受けられたり、多言語で対応できる状況を整備し、あらゆる方への参加の機会の保障を進める。
- T S Cの役割を広めるために、市内外のイベントへの出展は積極的に行う。イベントの特性にあわせたプログラム開発に努め、よりわかりやすく市民活動を伝えていく。
- 限られたスタッフ数で効果を最大限に発揮するために、事務の効率化を図る。

(2) 令和2年度～4年度多賀城市市民活動サポートセンターロードマップ

2020年3月

※前年度報告書より転載

大項目	対象	現状(○)と課題(●)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和4年度末に 目指す姿
地域の 担い手の 育成	市民	○市民活動やボランティアを体験する場をつくることができた ○事業参加をきっかけに、課題解決につながるアクションを起こした人が増加し、またコミュニティも生まれた ○市内外のイベントに出展し、市民活動への理解を広めることができた ●TSCの認知度が低く、また市民活動に興味関心のない人の割合が高い	・地域課題を考える場に参加する ・現在活動している方の事例から学び、活動の入り口を見つける			◎社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ人が増えている ◎多くの市民が、何らかの形で地域での活動に関わっている
	NPO	○情報発信の支援に重点を置き、講座などの成果を活かした団体が多かった ○団体運営に関する相談が高い割合を占めるようになっている ●担い手不足、資金調達などの課題を持つ団体が多い	・自団体の強み、弱みを分析する力を高め、実際に分析を行う	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・団体運営力のアップを図る		◎団体の強み、弱みを自己分析し、発信できている ◎連携の対象として、信頼感が増している
	自治会・町内会	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ●自治会・町内会活動の担い手が不足している	・自分の自治会、町内会の現状を知る ・地域の現状や未来について、地域の多くの人が参加できる体制を整える ※TSCとして制度改革後の地域の現状を把握している、関わり方が見えてきている	・勉強会を通して、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につなげる	・これまで考えたこと、学んだことを実践に移し、課題の解決につなげる ・他の主体と連携してのアクションやプロジェクトを実施する	◎多様な関わり方による事業が生まれている ◎いろいろな人の小さな力を集めて課題に向かっている ◎運営課題を解決できている
	企業	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ○調査をベースにTSCとの接点が増えた	・知る機会、連携に加わる機会をつくる			◎地域の課題解決の場面に参加している
	支える人材 ※包括支援センター、公民館、行政など		・自治会、町内会支援の方向性を共有する ・自治とは？を見つめ直す ・地域の取り組みに伴走する	・伴走を行うにあたって足りないスキルや知識に気づく	・伴走に必要なスキルや知識を学び、実践の場で活かす	◎自治支援の方向性が共有され、連携ができている ◎支援者が、地域や市民からの相談に応じることができている
連携による 課題解決を 進める		○さまざまな主体が設定したテーマについて一緒に考え、課題解決に向けた基盤づくりができた ○企業とNPOとのマッチング事例が生まれた ○第六次総合計画の基本的姿勢の中に、「市民協働を推進する」ための計画であると明記されている	・地域の今(特に自治体・町内会から出るテーマ)を多様な主体で共有し考える ※可能であれば、「TSR Vol.3」の実施も視野に入る	・地域の今(特にNPOの取り組み)を多様な主体で共有し考える	・連携事例の報告および今後の取り組みを多様な主体で考え、発信する ・取り組みのまとめ冊子作成？	◎多様な主体による連携が進んでいる ◎各主体が、連携のよさを感じている
情報発信		○「tag」紙面をリニューアルした ○ウェブサイト、ブログの月平均訪問者数が増えている	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う			◎地域づくりについて知る機会が設けられている
TSC 運営主体を 広げる			・他主体との連携を進める			
備考			・区長制度廃止、新たな自治会・町内会運営へ ・小学校新学習指導要領実施 ・国勢調査 ・東日本大震災から10年	・第六次総合計画の始まり(～令和12＝2030年度) ・中学校新学習指導要領実施 ・市制施行50周年	・高等学校新学習指導要領実施(2024＝令和6年度まで、年次進行で実施)	・東北学院大学工学部が移転(2023＝令和5年) ・多賀城創建1300年(2024＝令和6年)

I-2 令和3年度成果・課題

（１）令和3年度成果・課題

＜施設運営方針に沿った成果・課題＞

3ヵ年（令和2年度～4年度）の施設運営方針に沿って、事業実施（15ページの「（2）令和3年度実施事業一覧」参照）も含めた令和3年度のTSC運営全体の成果・課題は以下のとおりである。

1）地域の担い手育成

【成果】

- クリスマス雑貨市では、初めて来館した方がアンケート回答（119人）の34%を占めた。また、市内公共施設で実施したおでかけミニ雑貨市や展示も含め、多くの市民に市民活動や社会課題にアプローチする機会を設けることができ、市民の興味喚起や理解促進につながった。
- NPOいちから塾、ボランティア講座、NPOこれから塾、出前いちから塾等を通して、市民活動に参加するステップや入口を多く示すことができ、参加者の次の行動につながった。
- NPOパワーアップ事業では、講座等への参加によって、情報発信、会員拡大等の団体の運営課題の改善に向けて具体的な動きにつながった。
- 町内会の課題となっているテーマをもとに交流し考える場をもつことにより、好事例を地域に共有し、今後の取り組みにつなげるタネをまくことができた。そこから市民活動団体や学生などセクターを越えた交流の機会をつくることもできた。また、新聞づくりやまちあるきなど具体的なアクションが生まれた。
- ボランティア講座参加者が雑貨市でボランティアとして活動したり、町内会向け情報交換会で出た好事例を連携事業の場で共有するなど、事業を越えての取り組みを効果的にできた。

【課題】

- 市民活動や課題を知る・興味を持った市民に、何らかのアクションを起こすなどのステップアップにつなげていくこと。
- オンライン・対面それぞれのメリットを活かしつつ、参加者同士で話すことによって団体や活動について知ったり、仲間づくりや団体間の連携へと発展していくような工夫が必要。
- 担い手不足の解消のひとつの手段として、参加する入口や関わりしるをさらに多く示していくこと。

2) 連携による課題解決を進める

【成果】

- これまでの取り組みをきっかけに、多文化共生や防災の取り組みなど多様な主体の関係性をつくり、実践することができた。また、T S Cが主体となって取り組むだけでなく団体間のコーディネートを行い、団体が中心となって活動を進める事例も出てきた。

【課題】

- 連携のメリットを市民活動団体や自治会・町内会、企業や行政、学校などに知ってもらい、各団体の実践につなげるために取り組みのポイントの整理や、発信の強化に努める。

3) 情報発信

【成果】

- 「tag」掲載団体から「活動の幅を広げることができた」「団体や活動について多くの人に知ってもらえた」という声があったほか、記事の内容を参考にして活動している団体もあった。
- 動画でT S Cの利用方法や事業に参加した団体の活動事例などを紹介することで、事業に参加しなかった層に対して情報を提供することができた。

【課題】

- YouTube をうまく活用し、ブログ閲覧者よりも幅広い年齢層・市民への情報発信を進める。

＜各属性への支援＞

各属性の特徴や現状に合わせて、以下のような支援を行った。

【市民活動団体】

- コロナ禍が長引く中でも、T S C利用状況や活動に関する情報収集などにより活動を継続・再開する団体が多くなってきたのを把握できた。オンライン活用の工夫や、イベントなど団体の事業に関して相談対応を行い安心安全に運営できるようなアドバイスを行った。
- なんでも相談会で団体運営に関する課題を明らかにした上で、今必要とされているテーマで講座や個別相談会を行うことで、広報ツールの開発・改善や運営に関わる人材の確保につながった。
- 相談対応を通して団体の立ち上げ支援に取り組み、本年度は6団体が活動を開始した。

【自治会・町内会】

- コロナ禍で町内会活動が停止しているところも多く、何ができるのかを考えている段階だった。その中で3つのテーマに関する情報交換会を実施し、好事例を共有することで各町内会の今後の取り組みにつながるタネをまくことができた。
- 公民館を会場にした相談会をきっかけに、新聞づくりなどのアクションが起きた地区があった。

【企業】

- 連携事業のテーマである共生社会に関連する事業所を訪問し、取り組みについて聞き取りを行った。またT S R会議等の事業への参加につながった。

【学校・学生】

- 出前いちから塾を高校・大学で実施し、N P Oの基礎や活動を知る機会を提供した。また、クリスマス雑貨市の運営ボランティアとして活動の場や、自治会・町内会関係者との情報交換の機会を設けるなど、講義だけでは得られない経験・学びを提供できた。
- T S R会議では、災害について学ぶ高校生の協力のもと、当事者と一緒に、また、まちあるきの中から防災を考えることで、地域での学びの実践の機会を提供できた。

【行政】

- 地域福祉など行政各課が実施するネットワーク型会議や実行委員会に参加し、各課、市内活動者などの各主体と連携して地域課題について考えることができた。

【生涯学習団体】

- 活動の再開や新規メンバーの募集にあたっての広報の方法についてアドバイスを行った。

[illegible]

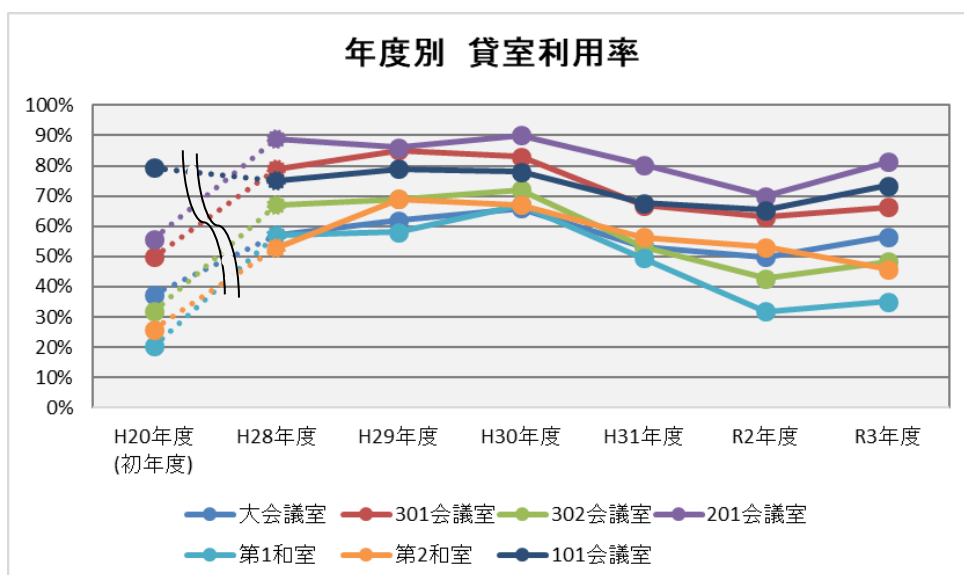
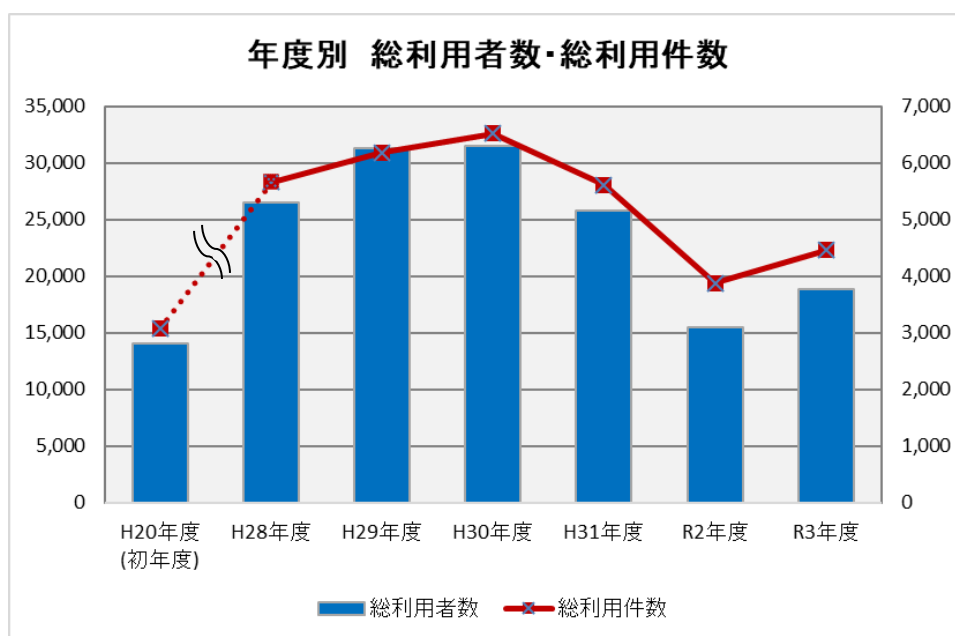
I -3 運営状況

(1) 利用状況集計

1) 総利用件数・貸室利用率

本年度は総利用者数 18,893 人(前年度比 121.7%)、総利用件数 4,462 件(前年度比 115.1%)となり、ともに前年度より増加した。その理由として、前年度は新型コロナウイルス感染症の影響でTSCの一部休館や、活動を休止・縮小する団体、活動参加者の減少があったが、本年度はコロナ禍でも工夫して元のペースでの活動を再開した団体も多くなってきたことが挙げられる。実際、前年度比で貸室利用の件数は 247 件増(118.2%)、人数が 2,976 人増(121.4%)となった。

しかし、利用状況はコロナ禍前(前々年度)の数値には戻っていない。上記の通り活動を休止・縮小している団体がまだあることや、オンライン会議システムへのハードルが下がりTSCに集まらなくとも会議やイベントに参加できるようになったことが理由と考えられる。またTSC主催事業においても、オンラインでの企画や参加人数を制限するなどコロナ禍も踏まえての実施となったため、TSCに来館しての事業参加はこれまでと比較して減少している。このようなオンラインの活用に関しては、今後ますます増加していくと思われる。



2) 利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー

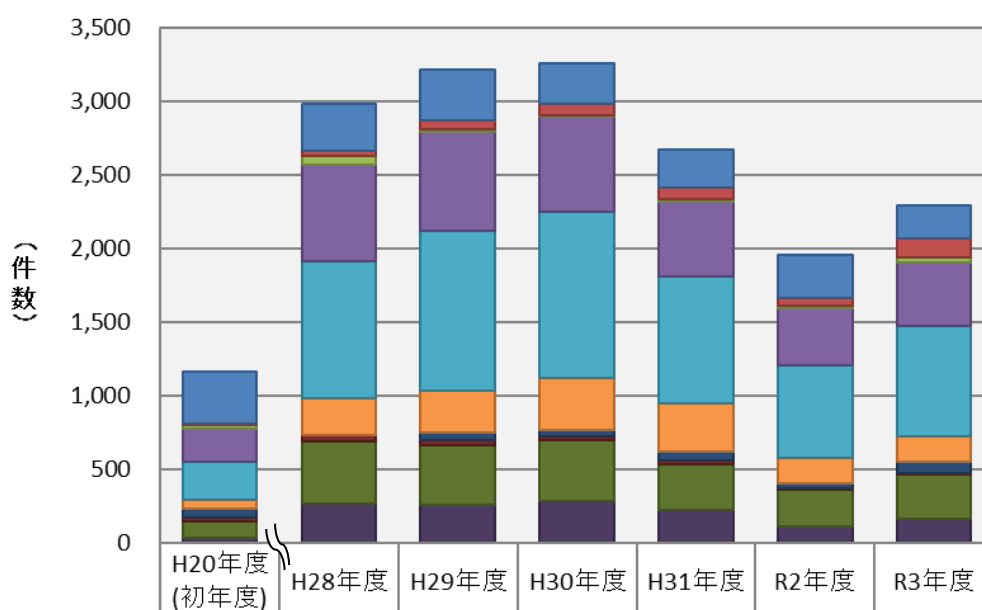
事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

利用団体の総数は、2,292件と前年度より340件増加した（前年度比117.4%）。前記の通り、コロナ禍においても活動を再開している団体が多くあったためと考えられる。

利用の多い分野は順に「子ども・社会教育」、「文化・芸術」、「まちづくり」、「医療・健康・スポーツ」「福祉」となっており、この傾向はここ数年変わっていない。「子ども・社会教育」「文化・芸術」には生涯学習活動やサークル活動の多くが含まれており、TSCの分野別利用の中で多くなる傾向がある。それとともに子育てや子ども支援の団体・サークルの利用も一定数あり、このことも「子ども・社会教育」の件数が多い一因となっている。また、「まちづくり」については、自治会・町内会の印刷機利用によるものも含まれている。

本年度は「人権・ジェンダー」の利用が125件と、初めて100件を超えた（前年度比235.8%）。労働組合や女性団体、LGBTの啓蒙団体や就職支援の活動をする団体がこの分野に当てはまり、生活の向上を目指す活動や個の尊重に関する活動を支える場としてもTSCは機能していた。

年度別 利用団体の活動分野利用状況



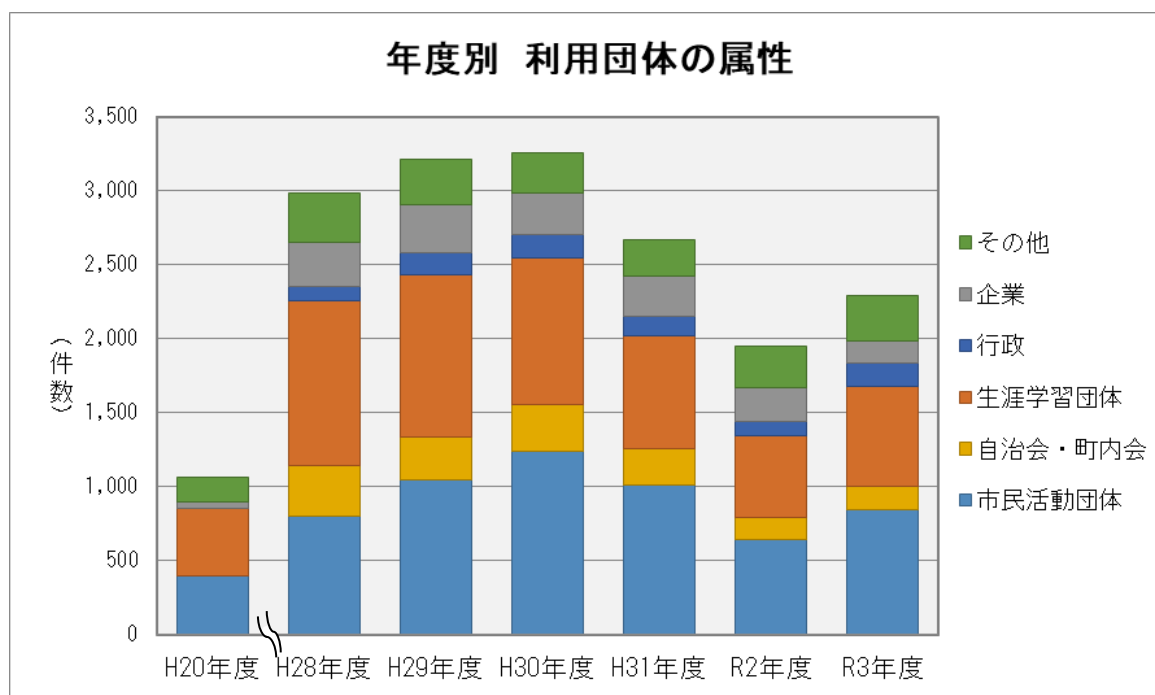
■その他	355	319	342	270	258	288	225
■人権・ジェンダー	13	36	58	76	78	53	125
■環境	25	60	22	11	15	15	40
■文化・芸術	221	654	673	644	506	388	429
■子ども・社会教育	263	927	1,081	1,131	861	629	751
■医療・健康・スポーツ	56	250	284	353	331	172	174
■市民活動支援	58	3	51	42	61	35	71
■国際交流・協力	32	39	35	30	25	8	13
■まちづくり	107	428	409	411	304	254	298
■福祉	37	264	257	285	229	110	166

3) 利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、共同事務室の利用票及び印刷機利用に基づく利用団体属性

市民活動団体 : 844 件 生涯学習団体 : 675 件 企 業 : 148 件
自治会・町内会 : 160 件 行 政 : 154 件 その他(個人など) : 311 件

属性別内訳では、前年度に続き「市民活動団体」が最も多く 36.8 %、次いで「生涯学習団体」が 29.5%の順となっている。コロナ禍による団体数の増減はあるものの、この割合はほぼ一定であり市民活動団体の活動の拠点として機能していることがうかがえる。また「企業」の利用が2年連続で減少しており（前年度比 65.8%、最も多い年度の約半数）、利用目的として多い会議がコロナ禍により減少していると推定される。



■年度別利用団体の属性（単位：件）

	H20 年度 (初年度)	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度
その他	365	333	304	265	244	283	311
企 業	244	295	326	285	276	225	148
行 政	127	99	152	157	126	100	154
生涯学習団体	961	1112	1,091	989	769	553	675
自治会・町内会	70	339	292	317	243	145	160
市民活動団体	418	802	1,047	1,240	1,010	646	844
合 計	2,185	2,980	3,212	3,253	2,668	1,952	2,292

参考-1：主な項目の利用状況推移（平成20～令和3年度）

		貸室		フリースペース			印刷機	情報掲示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
		利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウンタ数	利用件数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
		件	人	件	人	人	件	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度		972	13,170	125	404	959	378	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度		1,366	18,992	90	220	1,337	551	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度		1,242	16,229	87	251	1,168	619	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度		1,971	26,769	149	539	1,596	801	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度		1,889	22,922	229	597	1,646	918	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度		1,442	16,488	143	410	1,137	807	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度		2,069	24,170	113	591	1,921	814	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
平成27年度		2,213	26,178	228	794	2,273	838	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524
平成28年度		2,044	24,209	310	930	2,409	625	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507
平成29年度		2,260	28,674	349	1,278	3,293	603	2,033	89	328	401	511	6,182	31,299
平成30年度		2,256	28,583	371	1,368	3,169	626	2,070	126	465	536	594	6,515	31,502
平成31年度		1,849	23,314	291	1,030	2,742	527	1,800	147	414	504	585	5,614	25,734
令和2年度		1,354	13,899	311	685	631	287	1,224	104	363	408	229	3,878	15,520
令和3年度	4月	131	1,365	31	67	64	52	122	20	32	36	6	395	1,606
	5月	110	1,179	25	56	79	31	126	23	30	34	13	358	1,333
	6月	129	1,329	33	95	89	28	88	15	32	40	23	348	1,513
	7月	156	1,757	28	70	121	24	165	14	35	42	22	446	1,922
	8月	113	1,210	26	56	73	22	104	19	23	44	8	315	1,356
	9月	117	1,025	36	58	38	21	135	12	30	47	20	372	1,170
	10月	147	1,449	42	77	70	31	135	12	35	37	8	410	1,607
	11月	169	1,857	25	75	56	25	133	18	34	35	14	418	2,014
	12月	134	1,533	23	85	49	25	104	17	33	44	3	339	1,707
	1月	123	1,339	27	79	85	22	114	28	22	26	23	359	1,500
	2月	126	1,319	23	57	56	17	74	25	23	26	10	298	1,453
	3月	146	1,513	36	81	89	39	116	23	29	34	15	404	1,712
令和3年度計		1,601	16,875	355	856	869	337	1,416	226	358	445	165	4,462	18,893
前年度比		118%	121%	114%	125%	138%	117%	116%	217%	99%	109%	72%	115%	122%
平成20年度～令和3年度総計		24,528	300,472	3,151	9,953	25,150	8,731	21,465	2,098	4,903	5,936	5,615	70,663	324,194
各年度の平均		1,752	22,135	225	711	1,796	624	1,533	150	350	424	401	5,047	23,157

※フリースペースの利用件数・人数は利用票提出分

※フリースペースのカウンタ数はスタッフによる定時見回り時のべ人数

※平成29年度より、TSC事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数として集計

※平成26年度より、印刷機・パソコンの利用人数も集計

※新型コロナウイルス感染症の拡大により、多賀城市感染症災害対策本部会議にて以下の措置が決定された。

- ・8月20日～8月26日・9月13日～30日；貸室・フリースペースの利用を20時まで短縮
- ・8月27日～9月12日；貸室の新規申込停止、フリースペース利用不可

参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成20～令和3年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニュースレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
平成29年度		602	435,167	9,520	89	953	147	286	647	2,033	11	60	87
平成30年度		626	452,528	9,634	126	1,024	114	281	651	2,070	10	75	102
平成31年度		527	460,836	5,799	147	879	119	226	576	1,800	10	63	95
令和2年度		287	288,941	2,494	104	500	86	103	535	1,224	14	63	94
令和3年度	4月	52	76,757	213	20	51	17	11	43	122	7	8	11
	5月	31	25,213	263	23	56	13	17	40	126	2	10	12
	6月	28	23,443	223	15	36	8	12	32	88	1	10	13
	7月	24	29,453	514	14	74	13	14	64	165	4	12	18
	8月	22	16,531	359	19	43	13	10	38	104	0	2	4
	9月	21	14,180	166	12	68	4	17	46	135	2	10	14
	10月	31	26,102	231	12	68	3	23	41	135	0	2	3
	11月	25	21,349	625	18	62	7	11	53	133	0	5	7
	12月	25	12,950	367	17	45	8	7	44	104	2	10	15
	1月	22	16,120	179	28	57	4	15	38	114	0	4	6
	2月	17	13,639	451	25	37	2	6	29	74	1	5	8
	3月	39	50,182	205	23	45	6	5	60	116	1	7	10
令和3年度計		337	325,919	3,796	226	642	98	148	528	1,416	20	85	121
前年度比		117%	113%	152%	217%	128%	114%	144%	99%	116%	143%	135%	129%
平成20年度～令和3年度総計		8,730	6,344,064	84,951	2,098	10,074	1,164	2,464	7,763	21,465	232	1,252	1,702
各年度の平均		624	453,147	6,068	150	720	116	176	555	1,533	18	96	131

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。
※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※平成21年6月開設

※新型コロナウイルス感染症の拡大により、多賀城市感染症災害対策本部会議にて以下の措置が決定された。

- ・8月20日～8月26日・9月13日～30日；貸室・フリースペースの利用を20時までに短縮
- ・8月27日～9月12日；貸室の新規申込停止、フリースペース利用不可

(2) 相談対応実績

<相談対応の流れ> ※前年度より変更なし

●相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

●記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPOなどのサービスを求めている方からの相談

その他の他：TSCの運営についての問い合わせなど

↓

●共有

- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあつては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善などにつなげている。
- ・ 相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言などを行っている。

＜相談件数 令和3年度比較＞

総件数 358件（月平均 29.8件）

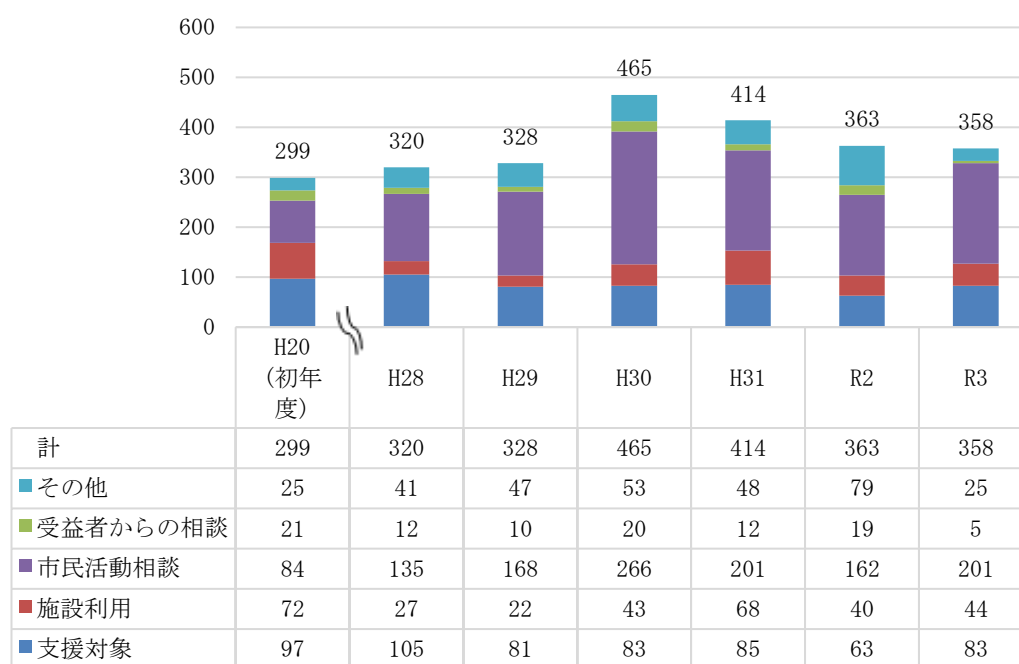
総対応時間 7,851分（1件平均 21.9分）

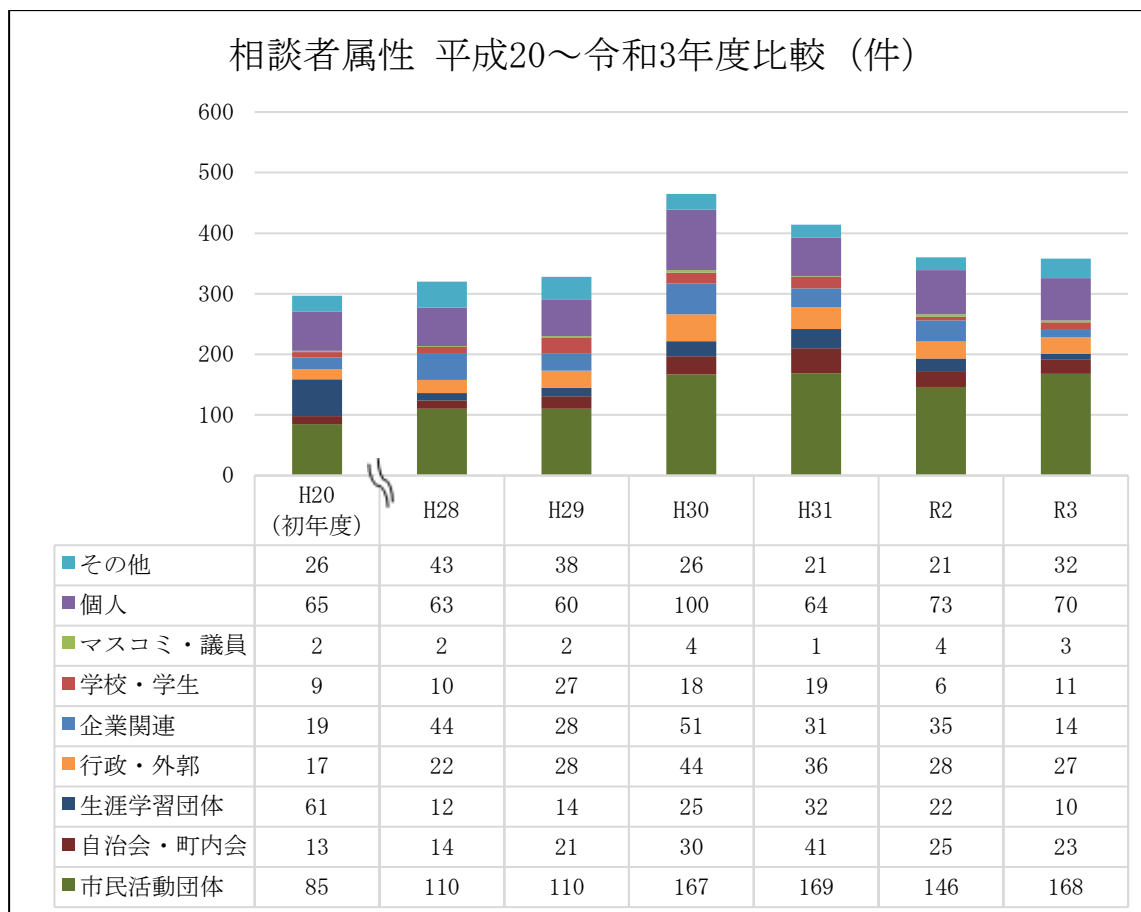
本年度は、年間の相談件数は前年度より5件減少しているが、相談対応時間は総計7,851分で1件平均約22分の対応となり、前年度の平均対応時間より約5分増加した。

また、市民活動相談が39件増加、支援対象についての相談も20件増加した。これらから新たな利用団体が多かったこともうかがえる。一方、受益者からの相談はここ数年では最も少なく、コロナ禍により外出を控えたり、支援団体・機関へ直接相談に行ったケースも多いと思われる。

これらのことから、コロナ禍においても新しい活動が生まれていること、市民活動に関する情報発信が受益者にも届きやすくなっていることが推測される。

相談件数 平成20～令和3年度比較（件）



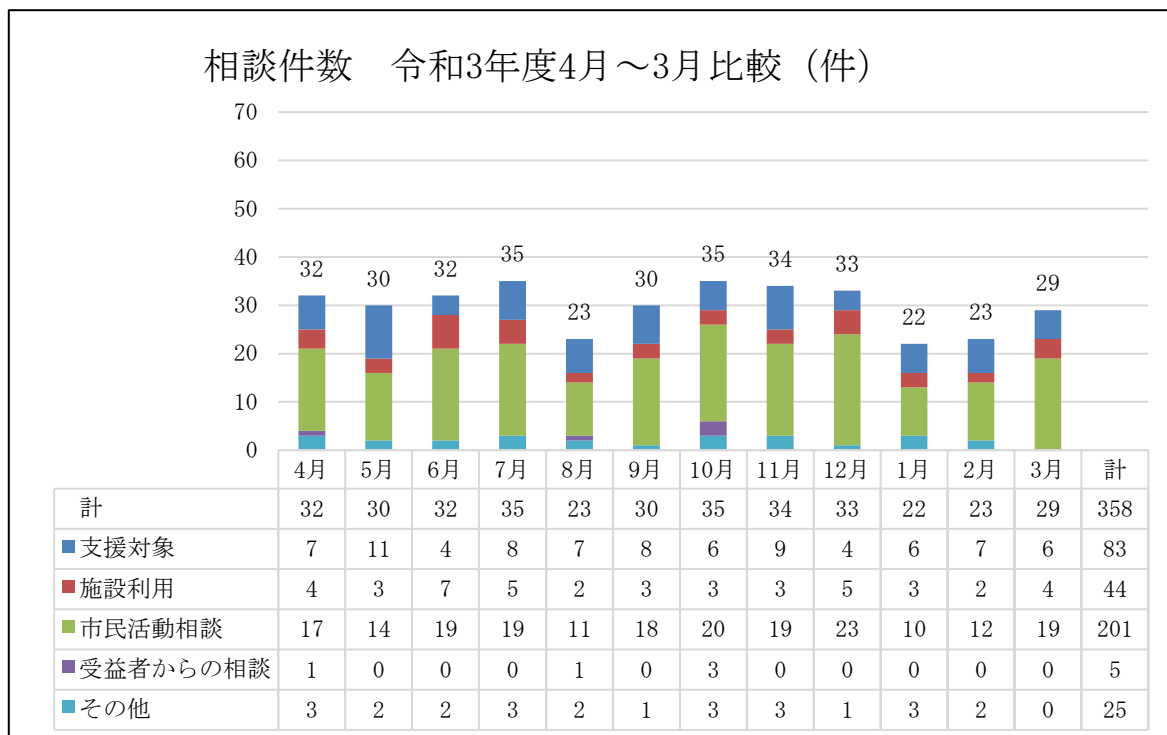


相談者属性は、例年通り市民活動団体が最も多く、ついで個人からの相談が多かった。コロナ禍による活動の自粛などから、自治会・町内会、生涯学習団体からの相談は減少している。また企業は地域との関わりを自粛していた面もあり、T S Cからもアプローチをしづらかったことも要因と考えられる。

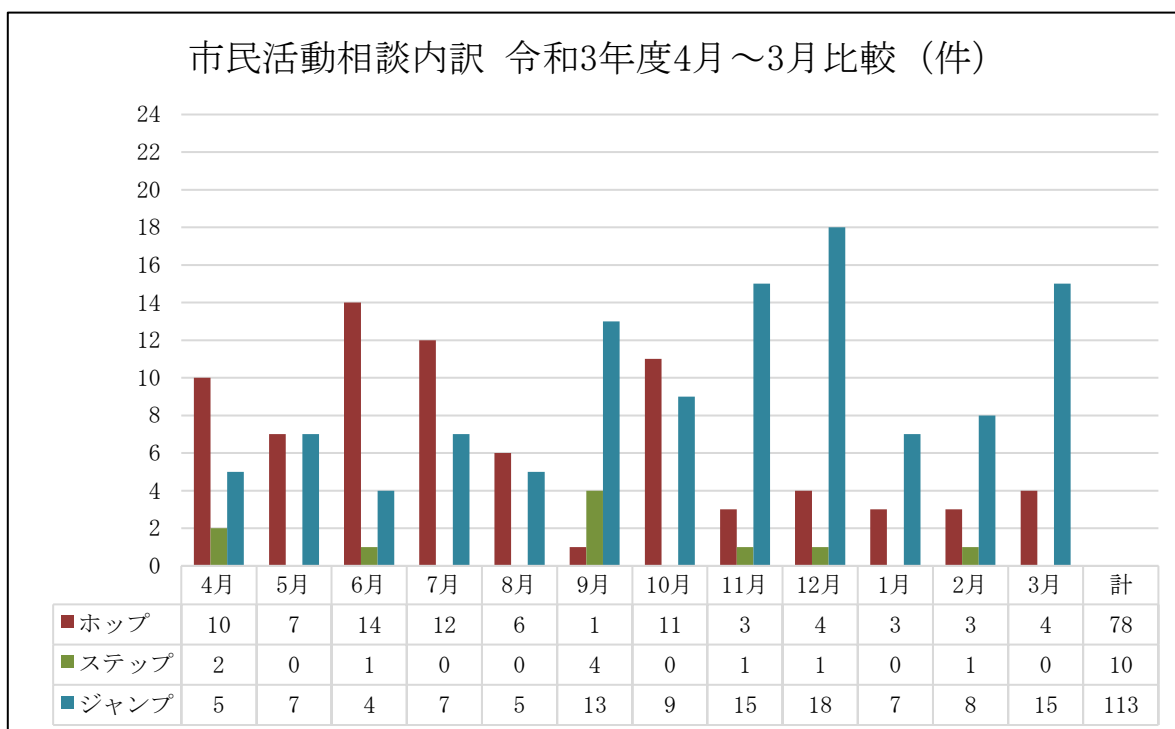
市民活動団体からは、広報や資金調達、仲間づくりや人材育成など、団体運営に関する相談が多かった。また、団体の立ち上げや法人化に関する相談もあった（詳細は「市民活動相談の内訳」参照）。

個人からの相談については、ボランティアや寄付に関する問い合わせが多く寄せられた。

<相談件数 月別比較>

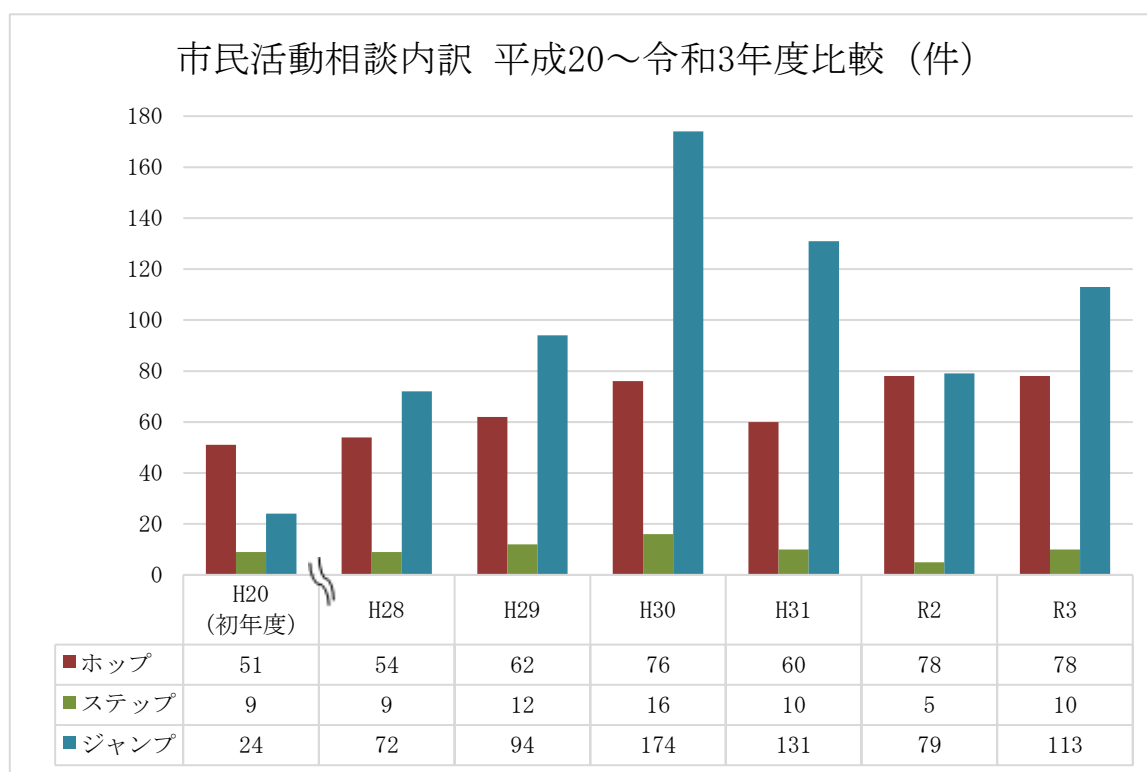


本年度は1年を通じて相談件数はほぼ一定していた。上半期は8月以外相談件数が30件以上となり、下半期の1～3月がそれぞれ30件を割る相談件数だった。また、各種相談会やいちから塾、TSR会議などTSC事業の後に相談件数が多くっており、継続しての相談につながるケースもあった。



市民活動相談に関しては上半期に団体情報の問い合わせなどの「ホップ」の相談が多く、下半期に団体運営に関する「ジャンプ」の相談が増加している。トータルで見ると10月～12月までの相談が多くなっている。これは相談会などTSC事業後の継続した相談が増加したためと考えられる。

＜市民活動相談の内訳＞



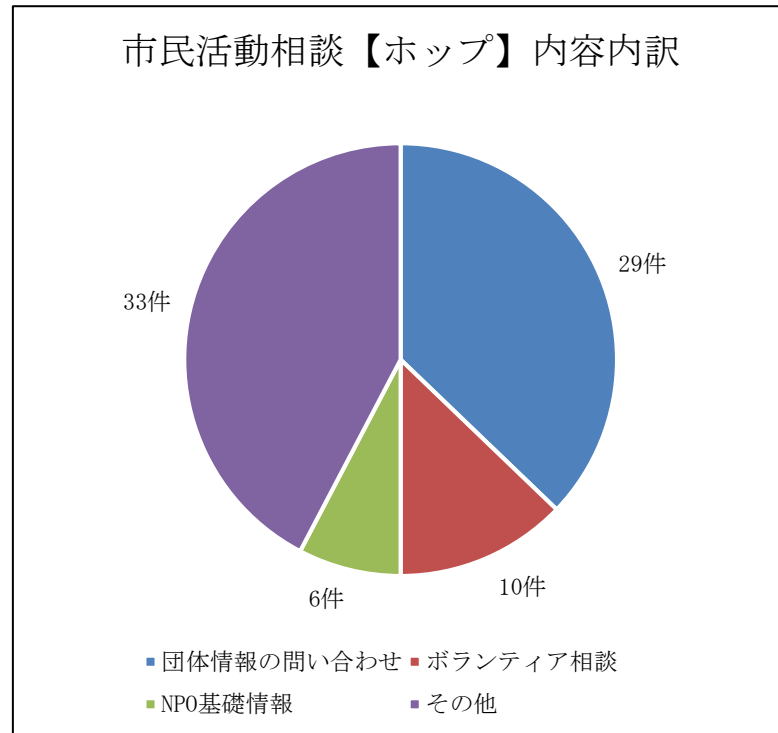
市民活動相談の段階別件数は、「ホップ」はほぼ例年並み、団体立ち上げや法人設立などの相談の「ステップ」は前年度の約2倍、「ジャンプ」は、前年度の約1.5倍となっている。この理由として、コロナ禍の中で新たに団体を立ち上げようとしたり、既存の団体でも新規事業や運営の工夫を考える団体が多かったことが挙げられる。

次ページ以降、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

●ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

市民活動相談 201 件の内、ホップ 78 件（38.8%）



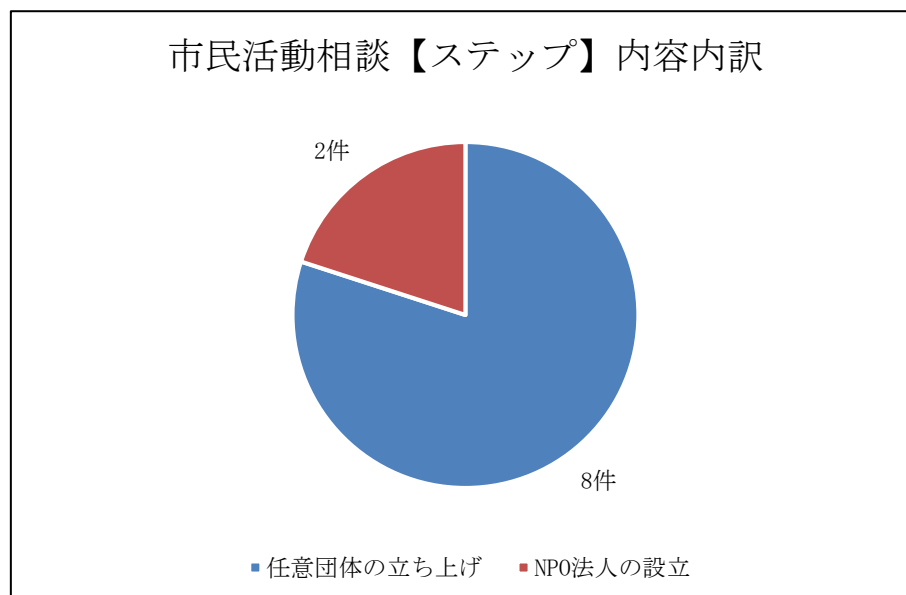
「ホップ」の相談は、前年度とほぼ同数であった。コロナ禍で個人としてできることを考えた
い、ボランティアや寄付の相談など支援したい人からの問い合わせが多かった。

最も多かった「その他」については、大学の他、多様なセクターからの相談が寄せられた。継
続しての相談対応や、その取り組みにTSCが協力にするケースもあった。

●ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

市民活動相談 201 件の内、ステップ 10 件（5.0%）



「ステップ」の立ち上げ相談内容は、「子ども」に関する内容が多かった。自ら持つ資源を活用し、子どもの居場所づくりや「こども食堂」などの活動を目指す相談が多かった。

継続して相談に訪れる人も多く、相談内容も「ステップ」から「ジャンプ」に移行している団体もあった。

令和3年度 立ち上げ相談を行った団体・活動（6団体／活動）

団体・活動名	活動内容	備考
Dream Catcher	脱毛症の当事者に対するサポート活動	来館しての相談
地球子屋（てらこや）	地域の子どもの居場所づくり	来館しての相談
しおかぜホーム	こども食堂	H29 いちから塾に参加 来館しての相談
個人	空き家を活用した子どもの居場所づくり	電話での相談
いきいき楽校	こども食堂	市議経由 来館しての相談
個人	添加物・農薬の危険性を普及する活動	生活支援課経由 来館しての相談

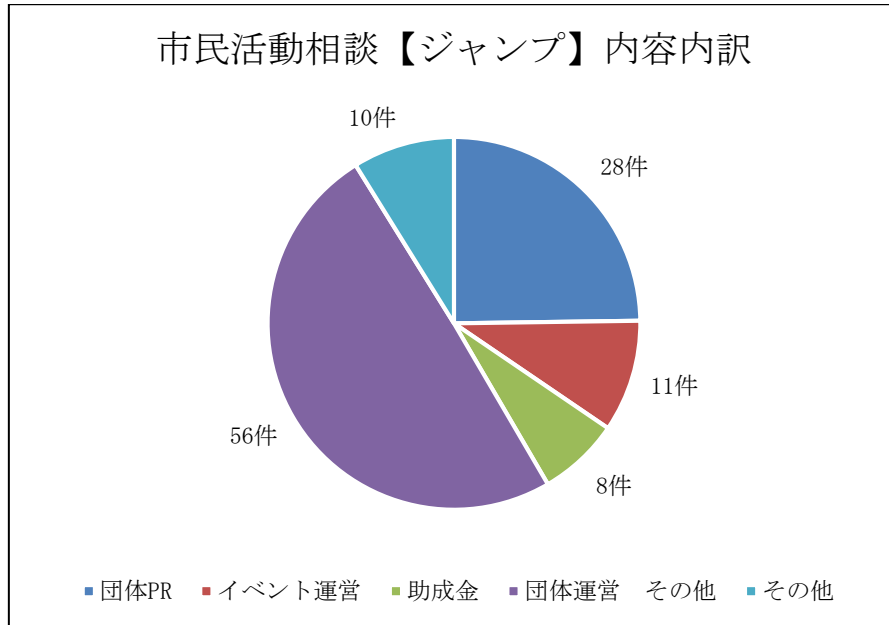
令和3年度 団体の法人化のサポート（2団体）

団体・活動名	活動内容	備考
しおかぜホーム	こども食堂・ファミリーホームの運営	NPO法人化の相談
宮城ユーストラブルライン	子どもの勉強サポート・居場所づくり	一般社団法人化の相談

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 201 件の内、ジャンプ 113 件（56.2%）



NPO運営パワーアップ事業のアフターフォローや継続しての相談対応により、前年度より 30 件以上増加した。相談内訳は「団体運営その他」が 56 件で半数を占め、次に団体PRと助成金の相談が多かった。

「団体運営 その他」では、コロナ禍での団体の集まりについての相談やSNS等での情報発信、団体内部の人材育成など多岐にわたった。

また情報発信の必要性を感じてはいるが、団体内の体制が整っていないという新たな課題も見つかり、継続して相談対応を行った団体もあった。

参考-3:相談対応推移

1. 件数、人数、属性など

属性など		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3															総計
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計			
対面	相談件数(件)	299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	465	414	363	32	30	32	35	23	30	35	34	33	22	23	29	358	4,906		
	開館日(日/月)	253	305	289	306	306	304	306	306	307	305	306	307	305	26	27	25	27	27	25	27	26	23	22	24	25	304	4,209		
	件数平均(件/日)	1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	1.5	1.3	1.2	1.2	1.11	1.28	1.296	0.852	1.2	1.3	1.308	1.435	1	0.958	1.16	1.2	16		
	人数(人)	348	374	386	645	375	307	377	357	421	401	536	504	408	36	34	40	42	44	47	37	35	44	26	26	34	445	5,884		
	対応時間月計(分)	5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	8,499	11,110	9,334	6,513	747	393	470	1,130	531	908	535	480	965	275	642	775	7,851	109,180		
	対応時間平均(分/日)	22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	27.9	36.3	30.4	21.4	28.7	14.6	18.8	41.9	19.7	36.3	19.8	18.5	42	12.5	26.8	31	25.8	362		
	対応時間平均(分/件)	18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	25.9	23.9	22.5	17.9	23.3	13.1	14.7	32.3	23.1	30.3	15.3	14.1	29.2	12.5	27.9	26.7	21.9	312		
	件数(件)	235	235	267	322	187	152	213	224	224	211	303	275	220	19	16	18	24	14	19	21	18	24	13	17	18	221	3,289		
電話	対応時間月計(分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	7,279	9,055	7,535	5,256	572	228	340	1,035	460	715	340	345	855	180	502	600	6,172	90,489		
	対応時間平均(分/件)	20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	34.5	29.9	27.4	23.9	30.1	14.3	18.9	43.1	32.9	37.6	16.2	19.2	35.6	13.8	29.5	33.3	27.9	389		
	件数(件)	58	67	81	195	87	72	119	99	88	105	137	115	126	12	14	14	11	9	8	12	16	7	8	6	9	126	1,475		
	対応時間月計(分)	605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	1,076	1,875	1,399	1,096	155	165	130	95	71	63	95	135	55	65	140	105	1,274	16,565		
その他	対応時間平均(分/件)	10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	10.2	13.7	12.2	8.7	12.9	11.8	9.3	8.6	7.9	7.9	7.9	8.4	7.9	8.1	23.3	11.7	8.7	157		
	件数(件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	12	25	24	17	1	0	0	0	0	3	2	0	2	1	0	2	10	147		
相談者属性	対応時間月計(分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	133	180	400	161	20	0	0	0	0	130	100	0	55	30	0	70	405	2,085		
	市民活動団体(件)	85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	167	169	146	14	16	19	11	9	17	11	11	19	10	12	19	168	1,676		
	自治会・町内会(件)	13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	30	41	25	1	0	3	2	4	1	3	3	3	1	1	1	23	328		
	生涯学習団体(件)	61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	25	32	22	2	0	1	2	0	1	1	1	0	1	0	1	10	370		
	行政・外郭(件)	17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	44	36	28	3	1	0	4	2	3	2	3	4	1	2	2	27	375		
	企業関連(件)	19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	51	31	35	0	0	3	1	0	0	1	0	3	2	3	0	1	14	414	
	学校・学生(件)	9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	18	19	6	2	0	2	1	1	0	1	2	0	0	2	0	11	164		
	マスコミ・議員(件)	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	4	1	4	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	37		
	個人(件)	65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	100	64	73	7	7	4	10	6	5	12	7	3	2	5	2	70	1,058		
	その他(件)	26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	26	21	21	3	2	2	4	1	2	5	4	1	4	1	3	32	467		
初来館	初来館者(人)	126	97	99	165	88	79	96	64	88	70	76	76	43	6	7	6	7	3	5	3	7	2	4	4	5	59	1,226		
	どこで知ったか	公共施設(人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	17	15	13	4	0	1	1	2	0	0	1	2	1	3	0	1	12	292	
		口コミ(人)	14	15	8	24	18	14	25	9	18	27	22	20	9	2	0	0	0	1	2	0	2	0	0	0	1	8	231	
		SCホームページ(人)	11	15	24	29	21	19	25	16	24	6	9	8	12	2	2	2	2	0	0	2	1	0	1	3	3	18	237	
		その他(人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	20	30	35	18	2	4	3	3	2	3	0	2	1	0	1	0	21	466	

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

相談件数(件)		97	99	94	163	73	57	100	76	105	81	83	85	63	7	11	4	8	7	8	6	9	4	6	7	6	83	1,259	
対応時間(分)		1,217	1,185	1,003	1,857	855	727	1,221	860	1,354	1,113	1,065	1,097	615	110	125	30	90	50	55	60	120	30	55	95	85	905	15,074	
対応時間平均(分/件)		12.5	12.0	10.7	11.4	11.7	12.8	12.2	11.3	12.9	13.7	12.8	12.9	9.8	15.7	11.4	7.5	11.3	7.1	6.9	10	13.3	7.5	9.2	13.6	14.2	10.9	168	
利用目的	貸室(件)	77	69	62	116	59	37	71	56	81	62	53	58	49	7	6	2	8	6	6	5	8	3	6	6	6	69	919	
	印刷室(件)	9	16	27	19	5	10	15	6	9	6	5	3	3	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4	137	
	チラシ(件)	6	10	4	9	6	6	10	11	14	5	21	21	11	0	4	2	0	0	1	0	1	0	0	1	0	9	143	
	ポスター(件)	2	0	1	4	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	
	その他(件)	3	4	0	5	3	4	2	3	2	8	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	40	

(2) 施設利用相談

施設利用相談(件)		72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	43	68	40	4	3	7	5	2	3	3	5	3	2	4	44	542	
対応時間(分)		866	270	599	643	136	170	296	655	415	270	545	920	550	27	50	95	90	75	18	20	30	55	15	15	35	525	6,860
対応時間平均(分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	12.3	12.7	13.5	13.8	6.8	16.7	13.6	18	37.5	6	6.7	10	11	5	7.5	8.8	11.9	178
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	7	15	13	7	3	1	4	1	0	2	1	2	3	3	0	2	22	224
	フリースペース(件)	2	1	1	1	2	1	5	7	1	1	3	13	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	44
	ロッカー(件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
	レターケース(件)	3	1	2	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	15
	共同事務室(件)	2	4	1	6	2	0	1	4	5	3	3	4	4	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	41
	展示スペース(件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	駐車場(件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	16
	備品(件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	2	5	9	14	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	43
	その他(件)	3	2	6	9	2	1	2	4	1	0	4	3	3	0	0	0	1	0	0	0	2	1	1	0	0	5	45
情報関係	PC(件)	2	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	インターネット(件)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	コピー機・印刷機(件)	6	2	7	2	0	1	1	1	1	2	0	6	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3	34
	チラシ・ポスター(件)	13	2	4	0	1	0	0	0	0	0	3	2	2	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4	42
	サポートセンターH.P.(件)	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	サポートセンター情報誌(件)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	その他(件)	2	3	1	1	1	0	0	1	3	1	3	6	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	34

(3) 情報提供

1) 団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート(※)、パンフレット、チラシ、定款・会則、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合や、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用できる。

団体情報ファイルは、全国の活動団体の情報を「二市三町」「県内」「県外」のジャンルごとに分けてファイリングしており、利用者は館内で自由に閲覧できる。

本年度、ファイリングされている総団体数は2,247団体(前年度比102.5%)とほぼ横ばいだった。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、オンラインなど新しい形をとりながら活動が続ける団体が多かったが、対面でのイベントも少しずつ増え、活動者と対話しながら団体の情報を入手することに努めた。

「二市三町」の団体数は、334団体(前年度比105.7%)。相談対応を経て始まった新しい取り組みや、コロナ禍での課題解決のために立ち上がった団体も見受けられた。以前より活動していた団体の新たな情報も加わり情報の増加につながった。

分野別の特徴としては、コロナ禍でなくなりつつある居場所づくりを目的とした団体や当事者の情報交換を行う団体などの福祉分野、多賀城を拠点に多様な人々がともに楽しめるスポーツのイベントを行う団体などの子どもの育成・支援分野の増加が目立った。

次年度以降も、多賀城の新しい団体の情報収集により力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信していく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援するTSC独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、TSCのウェブサイト上で公開している。本年度末現在、126団体の団体紹介シートを公開している。

令和３年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

①団体情報ファイル数（単位：団体） ※二市三町：多賀城市・塩竈市・七ヶ浜町・利府町・松島町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	26	148	63	237	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	14	56	94	164	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	27	22	4	53	スポーツ振興
人権・ジェンダー	10	53	53	116	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	52	119	91	262	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	16	17	22	55	生涯学習
環境	11	108	95	214	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	56	170	123	349	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	5	29	29	63	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	9	37	63	109	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	76	141	53	270	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	2	14	5	21	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	27	199	228	市民活動団体支援、助成活動
その他	2	32	36	70	オンブズマン（行政監視）、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	26	7	3	36	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合 計	334	980	933	2,247	

②分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 分野	H20 (初年度)	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R2→R3 増減	
福祉	52	199	214	221	226	227	237	+10	
医療・保健・健康	34	171	160	161	162	162	164	+2	※平成 29 年度より 分離
スポーツ			49	49	50	51	53	+2	
人権・ジェンダー	20	88	106	108	112	112	116	+4	
子どもの育成・支援	57	257	211	242	252	255	262	+7	※平成 29 年度より 分離
社会教育			49	54	55	55	55	±0	
環境	32	183	193	203	209	209	214	+5	
まちづくり	47	354	309	331	340	342	349	+7	※平成 29 年度より 分離
災害救援・地域安全			54	55	57	58	63	+5	
国際交流・協力	19	104	103	105	106	108	109	+1	
文化・芸術	22	190	226	251	265	267	270	+3	
シニア	8	21	20	20	20	20	21	+1	
市民活動支援	47	209	210	222	225	225	228	+3	
その他	19	60	58	68	68	68	70	+2	
地域組織		11	25	30	33	33	36	+3	※平成 22 年度より 集計開始
合計	357	1,847	1,987	2,120	2,180	2,192	2,247 前年度比： 102.5%	+55	

③二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

年度 分野	H20 (初年度)	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R2→R3 増減	
福祉	4	16	18	19	21	21	26	+5	
医療・保健・健康	3	22	14	13	13	13	14	+1	※平成 29 年度 より分離
スポーツ			25	24	24	25	27	+2	
人権・ジェンダー	0	4	6	7	8	8	10	+2	
子どもの育成・支援	6	46	38	43	48	49	52	+3	※平成 29 年度 より分離
社会教育			13	15	16	16	16	±0	
環境	6	12	10	10	10	10	11	+1	
まちづくり	8	43	44	48	52	53	56	+3	※平成 29 年度 より分離
災害救援・地域安全			4	4	4	4	5	+1	
国際交流・協力	5	8	7	8	8	9	9	±0	
文化・芸術	1	50	59	70	73	74	76	+2	
シニア	0	1	2	2	2	2	2	±0	
市民活動支援	1	2	2	2	2	2	2	±0	
その他	0	0	1	2	2	2	2	±0	
地域組織		11	16	20	23	28	26	-2	※平成 22 年度 より集計開始
合計	34	215	259	287	306	316	334 前年度比： 105.7%	+18	

④エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）（単位：団体）

年度 エリア	H20 (初年度)	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R2→R3 増減
二市三町	34	215	259	287	306	316	334 前年度比:105.7%	+18
県内	188	826	879	926	959	961	980 前年度比:102.0%	+19
県外	135	806	849	907	915	915	933 前年度比:102.0%	+18
合 計	357	1,847	1,987	2,120	2,180	2,192	2,247 前年度比:102.5%	+55

2) ウェブサイト・ブログ・ツイッター

①ウェブサイト・ブログについて

		ウェブサイト	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
平成21年度(初年度)		9,777	15,889	74
平成28年度		14,328	23,906	236
平成29年度		8,758	28,869	225
平成30年度		13,920	35,412	261
平成31年度		14,662	45,661	237
令和2年度		12,693	38,204	214
令和3年度	4月	1,470	3,565	15
	5月	1,162	3,540	17
	6月	1,332	3,770	18
	7月	1,297	3,651	15
	8月	1,221	3,817	21
	9月	1,436	5,482	21
	10月	1,337	3,357	18
	11月	1,339	3,974	20
	12月	1,280	3,875	22
	1月	1,109	3,910	20
	2月	964	3,689	14
	3月	1,091	3,691	24
令和3年度計		15,038	46,321	225

ウェブサイト：平成21年12月25日開設

ブログ：平成20年7月19日開設

※平成28年5月にセキュリティ対策としてウェブサイトの訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。

※平成30年4月、ウェブサイトリニューアルに伴い訪問者測定ソフト・方法を変更。これまでは同一人が1ヵ月に何度訪問しても1件とカウントされていたが、同一人が訪問した回数だけカウントされるようになった。

ウェブサイトは主にTSCの機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

※訪問者数比較

前年度比：ウェブサイト 118.5%

ブログ 121.2%

前年度は、コロナ禍でTSC事業や多賀城市内のイベントが実施できない時期もあったために発信内容も少なく、結果として記事数・訪問者数ともに減少していた。本年度はその反省を生かし、積極的な情報発信を心がけたことからウェブサイト、ブログともに前年度より訪問者が増加した。ここ数年でも最も多い訪問数であり、ブログに関しては東日本大震災関連の情報発信により閲覧数が急増した平成23年度(76,607件)につぐ2番目に多い数を記録している。

ブログ訪問者の8~9割はブックマークをしている人であり、TSC事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民であると考えられる。

実際、閲覧数が多いのは、TSCの事業の告知や報告の記事であった。

- ・2位：9月投稿 TSC会議告知 (388 ページビュー)
- ・3位：11月投稿 雑貨市告知 (268 ページビュー)
- ・4位：12月投稿 町内会事業報告 (246 ページビュー)

なお、1位は、1月投稿の地域猫に関する本のブックレビューであった (495 ページビュー)。

今後も時勢に沿った情報を発信することを心掛けていきたい。

②ツイッターについて 平成23年9月1日開設

ブログ更新やTSC事業の告知で活用し、フォロワーに対して広くTSCの情報を届けることができた。今後も継続して各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信など、多様な地域の情報の発信に努めていきたい。

	フォロワー数
令和2年3月	1,946 人
令和3年3月	1,962 人 (+16)

3) たがさぼ文庫

たがさぼ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成21年6月1日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、NPOに関する絵本や震災関連の資料なども収集している。

<蔵書数>（令和4年3月現在）

- ・1,276冊 登録者数計232人

<概要> ・事前登録により、貸出カードを発行

- ・1人2冊まで、貸出期間は2週間



令和3年度書籍貸出件数（令和3年4月～令和4年3月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成21年度(初年度)		37	100	132
平成28年度		7	138	209
平成29年度		11	60	87
平成30年度		10	75	102
平成31年度		10	63	95
令和2年度		14	63	94
令和3年度	4月	7	8	11
	5月	2	10	12
	6月	1	10	13
	7月	4	12	18
	8月	0	2	4
	9月	2	10	14
	10月	0	2	3
	11月	0	5	7
	12月	2	10	15
	1月	0	4	6
	2月	1	5	8
	3月	1	7	10
令和3年度計		20	85	121

前年度と比較して、貸出図書の登録者数、貸出件数がともに増加した。

要因としては、1階フリースペースで新刊図書のレビュー展示を行ったことや「たがさぼ文庫」のTSC事業での活用などがあげられる。TSC事業の会場に新規登録の受付を設置し、文庫についてこれまで以上の発信に努めた結果、イベントや講座終了後にその内容に関連した図書を借りるために登録する利用者が増えたこと、講座受講を機にTSCの来館頻度が上がり図書を借りる利用者が増えたことなどが挙げられる。ほかにも、活動の相談を受ける際に積極的に図書の活用や本の紹介を行った結果、相談団体のメンバーが活動の参考のために図書を借りていくことも多くなった。

本年度はNPO法の改正などにより改訂された図書を購入したことで情報の更新を行い、より多くの市民活動団体にヒントを促せる形にした。

次年度も地域・社会課題の解決のヒントとなる資料を揃え、より市民に活用を促したい。

(4) 場の提供

1) 事務用ブース利用状況／事務用ブース入居団体インキュベート相談

○事務用ブース入居状況（令和4年3月31日現在）

ブース1) 空き

ブース2) 空き

ブース3) ハッピーピース（令和4年2月入居、再入居1年目）

ブース4) 多賀城イングリッシュ・サポーターズ（令和3年6月入居、再入居2年目）

ブース5) 宮城県学童保育連絡協議会（令和3年9月入居、再入居1年目）

ブース6) 一般社団法人子どもアドボカシーセンターみやぎ（令和4年2月入居、1年目）

ブース7) 傾聴の会多賀城（令和4年2月入居、2年目）

ブース8) 生涯学習100年構想実践委員会（令和3年9月入居、再々入居3年目）

○事務用ブース入居団体インキュベート相談会について

事務用ブース入居6ヵ月後に、団体の代表者や事務局を担うスタッフとTSCスタッフで個別相談会を実施している。1団体あたり1時間程度で、団体の活動の現状把握、団体の運営課題の整理、課題解決に向けた情報提供やアドバイスなどを行った。

本年度の相談会では、新規会員や運営の担い手など、「仲間づくり」に関する相談が共通して出てきた。団体の運営状況を洗い出した上でどのような人に新たに会員や担い手になってほしいかをあらためて考えてもらい、その対象に合った広報の方法も考えていった。また、コロナ禍で通常の活動ができなくなったことによる課題や、オンラインの活用など新たな方策で得られた成果の報告もあり、課題に関してはどのように克服して次の段階に進めていくかについても一緒に考えた。

○インキュベート相談会実施状況

①団体名：傾聴の会多賀城（参加：3名）

日 時：令和3年8月26日（木）14:00～14:55

②団体名：多賀城イングリッシュ・サポーターズ（参加：1名）

日 時：令和4年1月15日（土）13:00～13:50

③団体名：生涯学習100年構想実践委員会（参加：4名）

日 時：令和4年2月22日（火）13:30～14:30

④団体名：宮城県学童保育連絡協議会（参加：2名）

日 時：令和4年2月26日（土）14:00～15:00

○①～④すべて、「NPO運営パワーアップ事業」の一環で相談対応を担当した。



事務用ブース

2) フリースペース利用状況

①フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成27年5月、2階ギャラリーにWi-Fiが設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネット接続ができ、情報収集・発信が可能となった。また令和2年度から全館Wi-Fiの利用が可能となった。

前年度より新型コロナウイルス感染予防対策のため、テーブル・イスの数を減らし、利用人数・利用時間に制限を設けながら運営している（右写真参照）。事前の申込制とし、利用を1時間とした（利用人数などは、本報告書19ページ「参考-1：主な項目の利用状況推移（平成20～令和3年度）」を参照）。

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用できる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

本年度は4団体計4回の利用があった。詳細は次ページ以降に記載。

※参考：前年度は3団体計3回の利用

○TSCからの情報発信活用

1Fフリースペースは、たがさぼ文庫などのTSCの機能や災害時の募金情報、フードボックスの設置、防災・減災関連やボランティア情報など、まちのことを考えるきっかけとなる情報を発信する場として活用している。

	企画タイトル	期間
1	たがさぼ文庫新刊図書展示	5/8～7/17
2	令和3年夏 大雨・台風被害	7/17～10/28
3	NPO法人いのちのパンを通じて フードボックスで食品を届けよう	10/1～1/31
4	防災まちの掲示板	3/1～3/31



1階フリースペース



2階ギャラリー



3階交流サロン

②企画利用内容

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	第63回水道週間	多賀城市上下水道部企業経営課	6/1～6/7	水道の理解・関心を高めるため	水道施設の紹介や水質検査についてのパネル、耐震管の模型などの展示	2階 ギャラリー	-
2	多賀城中学校美術部展覧会	多賀城中学校美術部	7/25～8/5	保護者・地域の方に美術部の作品を見てもらうため	美術部の作品の展示	2階 ギャラリー 3階 交流サロン	50名
3	市制施行50周年パネル展	多賀城市総務部地域コミュニティ課	10/18～10/29	市制施行50周年を広く市民に周知し、市民とともに盛り上げるため	市制施行50年間の振り返るパネルの展示	2階 ギャラリー	-
4	さをり織り作品展&ワークショップ	さをりひろば余暇よか	1/8～1/10	さをり織りの普及のため	作品の展示と織機を使ったワークショップ	3階 交流サロン	40名

③企画利用の様子



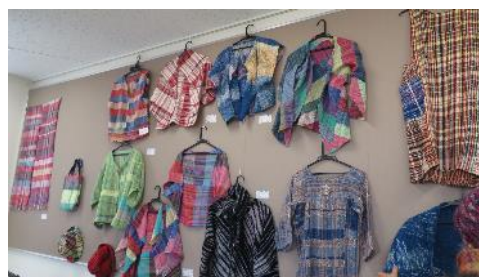
1. 第63回水道週間
(多賀城市上下水道部企業経営課)



2. 多賀城中学校美術部展覧会
(多賀城中学校美術部)



3. 市制施行50周年パネル展
(多賀城市総務部地域コミュニティ課)



4. さをり織り作品展&ワークショップ
(さをりひろば余暇よか)

④TSC事業での利用の様子



1. たがさば文庫新刊図書展示

1階 (5/8～7/17)



2. 令和3年夏 大雨・台風災害

1階 (7/17～10/28)



3. NPO法人いのちのパンを通じて
フードボックスで食品を届けよう

1階 (10/1～1/31)



4. 防災まちの掲示板

1階 (3月1日～3月31日)

(5) 他団体・他機関との連携

1) 各会議・実行委員会への参加

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。本年度、T S Cでは多賀城市の課や施設を横断しての情報交換や取り組みの場に参加した。

①町内会情報交換会

町内会の活動内容や、地域課題につながる情報を共有し、小学校区での団体間連携体制構築のきっかけをつくるための情報交換の場として本年度から実施。

○参加団体・機関

- ・多賀城市地域コミュニティ課（主管）
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会（町内会長連絡協議会事務局）

○T S Cの役割

- ・自治会・町内会の情報交換会での地域課題の洗い出しのサポート
- ・自治会町内会の運営に関する相談対応

○実施状況

	実施日	対象の自治会町内会・会場	参加
第1回	11月5日 (金)	山王小学校区（会場：高橋地区生活センター） 新田一区町内会、新田二区町内会、新田三区、 高橋東一区町内会、高橋東二区町内会、高橋南区町内会、 高橋北区町内会、山王自治会、南宮自治会	小笠原
第2回	11月9日 (火)	城南小学校区（会場：高崎集会所） 市川区、浮島地区自治会、城南自治会、高崎自治会、 志引町内会	川口
第3回	11月17日 (水)	天真小学校区（会場：鶴ヶ谷集会所） 鶴ヶ谷親和会、丸山町内会、黒石崎町内会、 下馬東自治会、下馬南自治会、下馬北区自治会、 桜木東区町内会、桜木中区町内会、桜木北区町内会	川口
第4回	11月19日 (金)	多賀城東小学校区（会場：大代地区公民館） 笠神自治会、大代東町内会、大代中区町内会、 大代西町内会、大代北区町内会、大代南区町内会	中津
第5回	11月25日 (木)	多賀城八幡小学校区（会場：八幡上二集会所） 東田中南自治会、桜木南区町内会、八幡上一町内会、 八幡上二区町内会、八幡下二町内会、沖区振興会	渡辺
第6回	11月30日 (火)	多賀城小学校区（会場：多賀城市文化センター） 東田中親交会、新田中区親交会、旭ヶ岡町内会、 留ヶ谷自治会、伝上山親和会、隅田会、向山町内会、 東能ヶ田尚和会、西能ヶ田町内会、下馬西自治会、 八幡下二町内会	小林

○成果

- ・学校区での自治会・町内会での情報交換を通じて、地域ごとの課題などを知ることができ、自治会・町内会支援事業や相談対応につなげることができた。
- ・自治会・町内会の役員の課題等の声を聞くことにより、ほかの会議等で活動事例や現状を伝えることができた。

○課題

- ・それぞれの学校区での情報交換会の中で、多賀城市で共通する課題が見えてきたが、解決に向けたアプローチ構築には至らなかった。次年度は、課題解決に向けたはたらきかけを各自治会・町内会にできるよう、さらに情報収集を行っていきたい。

②地域と共に事業を進める課等の情報交換会

各部署・関係課が地域住民・団体に対して行う事業の計画や進捗状況を随時共有し、円滑な事業の遂行と地域住民の負担軽減、場合によっては連携することを目的に開催。

○参加団体・機関

- ・多賀城市地域コミュニティ課（主管） ・多賀城市社会福祉課 ・多賀城市介護福祉課
- ・多賀城市教育委員会教育総務課 ・多賀城市教育委員会生涯学習課
- ・多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会

○TSCの役割

- ・TSCの自治会・町内会支援事業や連携事業などの目的や進行状況を共有し、地域課題解決に向けて連携し取り組んでいく。
- ・TSCのスキルや情報を共有し、各部署や他機関との連携体制を構築する。

○実施状況

実施日	内容	参加
1月28日 (金)	事業目的の共有 令和3年度の事業進捗と令和4年度の計画の進捗	川口

○成果

- ・コロナ禍のため1回だけの会議であったが、各部署・各課の住民対象の事業の目的や進行状況がわかり、よい連携体制の土台となった。

○課題

- ・今後も継続して、進捗状況など情報共有の場が必要である。また、各課の目的を共有したうえで連携できるような会の進行を促したい。

③被災地域関係課ミーティング

本年度はコロナ禍のため実施されなかったが、地域住民との会議等に役立つファシリテーション技術やワークショップに関する講座を開催した。

○参加団体・機関

- ・多賀城市地域コミュニティ課（主管） ・多賀城市都市計画課 ・多賀城市介護福祉課
- ・多賀城市自立相談支援窓口 ・多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会 ・社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

○ＴＳＣの役割

- ・地域を支える人材として、より良いスキルを持ち、地域住民に還元していく。
- ・ファシリテーションなど地域で求められる場で得たスキルを活かしていく。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第１回	11月19日 (金)	地域づくりに活かす～ファシリテーション研修 「参画と協働のまちづくり（意見しやすい会議の開き方）」	小笠原
第２回	12月３日 (金)	地域づくりに活かす～ファシリテーション研修 「地域の合意形成をとる技術とは（議論を見える化する）」	小笠原
第３回	12月13日 (月)	地域づくりに活かす～ファシリテーション研修 「地域の未来を話し合う場をうまくこなすには（ワークショップのデザイン）」	西條 小笠原

○成果

- ・研修を通して、ファシリテーターの役割、会議の円滑な進行や合意形成までのプロセスといったファシリテーションスキルを学ぶことができた。

○課題

- ・各機関・各課が得たスキルを今後の住民対象に行われる会議等で活かし、より合意形成に役立てていく。

④令和３年度住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会

地域の自然な支えあいの取り組みに価値を見出し、事例として地域に発信していくことを目的に実施された。ＴＳＣは平成２９年度より参加。

○参加団体・機関

- ・多賀城市介護福祉課（主管） ・多賀城市社会福祉課 ・多賀城市生活支援課
- ・多賀城市健康課 ・多賀城市地域コミュニティ課 ・多賀城市農政課
- ・多賀城市教育委員会生涯学習課 ・多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）
- ・多賀城市自立相談支援窓口（一般社団法人パーソナルサポートセンター）
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・ＮＰＯ法人全国コミュニティライフサポートセンター

○ＴＳＣの役割

- ・自治会・町内会をはじめとした住民同士の支えあい事例の情報を提供する。
- ・各分野で活動する市民活動の情報を提供する。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第１回	6月４日 (金)	実行委員自己紹介 これまでの取り組みと地域資源の紹介	西條 鈴木
臨時	6月24日 (金)	本年度からの参画者向けの追加研修 (前年度までの実施内容などの共有)	西條 鈴木

第２回	６月２８日 (月)	お互いの活動を知る 新たな活動の発見	西條 鈴木
第３回	７月１４日 (水)	講座開催方法等の検討	——
第４回	８月１９日 (木)	講座役割分担	西條 鈴木
企画	１０月 １日 (金)	企画名：みんなが主役！「輪」～探そう地域の輪見つけ よう地域の和～地域支え合い講座（中部会場） 内 容：地域の身近な人同士が気になかけあう「つながり」を持つことの大切さを様々な事例と一緒に学ぶ。	—
企画	１０月１１日 (月)	企画名：みんなが主役！「輪」～探そう地域の輪見つけ よう地域の和～地域支え合い講座（東部会場） 内 容：第１回企画と同じ	西條 鈴木
企画	１０月１５日 (金)	企画名：みんなが主役！「輪」～探そう地域の輪見つけ よう地域の和～地域支え合い講座（西部会場） 内 容：第１回企画と同じ	西條 鈴木
第５回	１０月２１日 (木)	地域支え合い講座の振り返り 取材分担など	西條 鈴木
第６回	１１月１５日 (日)	地域支え合い講座「お宝事例発表会」に向けて 発表会役割分担など	西條 鈴木
臨時	１月 ７日 (火)	地域支え合い講座「お宝事例発表会」に向けて 作成動画の確認、発表口述練習、打ち合わせ	西條 鈴木
企画	１月２１日 (金)	発表会会場設営 リハーサル	西條 鈴木
企画	１月２２日 (土)	企画名：みんなが主役！「輪」～探そう地域の輪見つけ よう地域の和～ 地域支え合い講座 お宝事 例発表会 内 容：３つの地域の講座で発掘したお宝を紹介し、 地域の支え合いの輪を広げる	西條 鈴木
第７回	２月 ４日 (金)	事業評価、課題等の振り返り	西條 鈴木

○成果

- ・ＴＳＣが把握している自治会・町内会の活動事例や市民活動の情報を提供することができた。
- ・各地域で行われている住民同士の支え合い事例を収集し、ＴＳＣの運営や事業実施の参考とすることができた。
- ・ＴＳＣに来館した方に講座や発表会への参加を促し、地域で支え合うことの意義を再度確認してもらえた。

○課題

- ・地域支え合いは、地域に広めるためか深めるためのものか。見つけて終わりではなく、各分野の市民活動団体や、市内施設、若い世代の活動者の参画を促し、より多様な支え合いを広げていく。

⑤施設情報交換会

市内の施設が連携して事業を実施し、各種対応について意見交換できるよう情報交換の場を設けている。平成30年度より始まった。

○参加団体・機関

- ・多賀城市文化センター（中央公民館・市民会館） ・山王地区公民館
- ・大代地区公民館 ・多賀城市総合体育館 ・多賀城市立図書館
- ・多賀城市地域コミュニティ課 ・多賀城市市長公室（市民文化創造担当） ・蔦屋書店

○TSCの役割

- ・TSCの取り組みや視点を各施設へ共有する。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第1回	4月27日 (火)	新型コロナウイルスへの対応についての共有 本年度事業の共有	川口 金子
第2回	1月25日 (月)	1～3月の事業の共有 事業サポーター制度、Peatix導入についての提案	渡辺 金子
第3回	3月18日 (金)	※3/16（水）発生の地震により延期	—

○成果

- ・各施設の取り組みを共有することができた。
- ・TSCの持つ市民活動や課題解決の視点から情報共有することができた。

○課題

- ・来年度以降も情報交換にとどまらず、互いに連携して課題解決に取り組む場としていく。

⑥中央地区生活支援体制整備協議体「ちゅうおう盛り上げ隊 たが和っか」

中央地区における見守り体制やコミュニティ支援について情報共有をしていくための協議体。

○参加団体・機関

- ・多賀城市中央地域包括支援センター ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・多賀城市介護福祉課 ・多賀城市シルバー人材センター ・せいふう多賀城駅前
- ・アースサポート多賀城 ・デイサービスヒマワリ ・みんなで食べよう会（こども食堂）
- ・八幡下二区町内会 ・向山地区民生委員 ・多賀城市多賀モリ会 ・中央地区住民

○TSCの役割

- ・市民活動団体等の取り組みの共有。
- ・多様性を持った視点での情報共有。
- ・中央地区の活動者や活動を知り、事業などに活かす。

○実施状況

	実施日	内容	参加
第1回	5月26日（水）	本年度のたが和っかの検討	—
第2回	6月28日（月）	NPO法人全国コミュニティライフサポートセンターによる講話、参加者の最近の話を共有	川口
第3回	7月20日（火）	前回の講話をふまえて身近な出来事を共有	川口
		※8月は中止	—
第4回	9月22日（水）	メンバー間での気になる話題などを共有、発表	—
第5回	10月12日（火）	これまでの話題から深掘りするテーマを考える	—
第6回	11月18日（木）	デイサービスヒマワリの動画鑑賞、前回の振り返り	川口
第7回	12月24日（金）	身近に頼れる存在について メンバーからの情報共有	川口
第8回	1月28日（金）	本年度の振り返り、たが和っかの役割について	—
第9回	2月21日（月）	※新型コロナウイルス感染拡大により中止	—
第10回	3月17日（木）	※新型コロナウイルス感染拡大により中止	—

○成果

- ・TSCの事業の紹介を通して、地域の取り組みや市民の多様性を示すことができた。

○課題

- ・協議体の意味の確認、他の協議体との役割分担、より市民に開かれた協議体の構築などが今後必要となるため、TSCからも視点やアイデアを提供していく。

⑦東部地区生活支援体制整備協議体「あすなろう会」

東部地区における見守り体制やコミュニティ支援について情報共有をしていくための協議体。

○参加団体・機関

- ・多賀城市東部地域包括支援センター ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
- ・多賀城市介護福祉課 ・多賀城市教育委員会生涯学習課 ・黒石崎町内会
- ・下馬南自治会 ・笠神自治会 ・桜木南区町内会 ・桜木北区町内会
- ・さくらビレッジ ・NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター

○TSCの役割

- ・市民活動団体等の取り組みの共有。
- ・多様性を持った視点での情報共有。
- ・東部地区の活動者や活動を知り、事業などに活かす。

○実施状況

実施日	内容	参加
12月7日（火）	「地域協働教育」って何だろう？	川口

○成果

- ・TSCの事業の紹介を通して、地域の取り組みや市民の多様性を示すことができた。

○課題

- ・協議体の意味の確認、他の協議体との役割分担、より市民に開かれた協議体の構築などが今後必要となるため、TSCからも視点やアイデアを提供していく。

⑧多賀城市社会福祉協議会地域福祉活動計画推進委員会

「第1期地域福祉活動計画」の効果的な計画推進を目的に設置し、計画の進捗を管理するために開催。TSCからは、中津センター長が委員に委嘱されている。

○構成メンバー

- ・学識経験者 ・民生委員 ・住民組織代表 ・福祉関係者 ・ボランティア団体
- ・関係行政機関 ・社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

○TSCの役割

- ・市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画進捗管理・評価に反映させる。

○実施状況

実施日	内容	参加
11月17日（水）	計画の進捗管理に係る評価指標の設定について	中津

⑨多賀城市環境審議会

「第三次多賀城市環境基本計画」の各年度のふりかえりとトピックの報告を行う。TSCからは、中津センター長が委員に委嘱されている（任期：令和3年3月20日～令和5年3月19日）。

○構成メンバー

- ・学識経験者 ・関係行政機関 ・市長が必要と認めた者

○TSCの役割

- ・市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画進捗管理・評価に反映させる。

○実施状況

実施日	内容	参加
3月17日（木）	※3/16（水）発生の地震により、書面開催	中津

⑩多賀城市都市計画審議会

市が決定する都市計画について調査審議するための諮問機関。TSCからは、中津センター長が委員に委嘱されている。（任期：令和2年8月1日～令和4年7月31日）

○構成メンバー

- ・学識経験者 ・市議会議員 ・関係行政機関 ・本市市民

○TSCの役割

- ・市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画づくりに反映させる。

○実施状況

- ・令和3年度は実施なし。

⑪とうほくNPOフォーラム in 南相馬 2020 実行委員会

岩手・宮城・福島の被災地の復興の先を見据えて、NPOの役割や、市民、企業、行政などの地域の多様な担い手の役割について考える場。

○参加団体・機関

- ・NPO法人おおふなと市民活動センター
- ・NPO法人陸前高田まちづくり協働センター ・NPO法人いわてNPOフォーラム 21
- ・NPO法人いわて連携復興センター ・一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター
- ・気仙沼まち大学運営協議会 ・NPO法人いしのまきNPOセンター
- ・一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム ・NPO法人杜の伝言板ゆるる
- ・NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター ・南相馬市市民活動サポートセンター
- ・NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター
- ・NPO法人アットマーククリアスNPOサポートセンター
- ・NPO法人日本NPOセンター

○TSCの役割

- ・被災沿岸市町の支援センターの一員として、復興の先の地域づくりについて考える場をつくる。

○実施状況

実施日	内容	参加
	※令和2年度までに実行委員会を7回実施	
4月5日(月)	第8回実行委員会	中津
4月23日(金)	打ち合わせ	中津
5月7日(月)	打ち合わせ	中津
5月19日(水)	フォーラムリハーサル	中津
5月21日(金)	打ち合わせ	中津
5月25日(火)	フォーラムリハーサル	中津
5月26日(水)	フォーラム当日運営	中津

○成果

- ・NPOと地域のさまざまな主体との連携事例を通して、これからの地域に必要な連携のポイントを共有することができた。

○課題

- ・多賀城周辺の多様な主体への声掛けが不足し、参加に結びつかなかった。

⑫NPOサポートリンク

被災地の県域・市町村域を超えた支援組織のネットワーク化を行うことで、持続可能な地域復興の支え手となることを目的とする。

○参加団体・機関

- ・NPO法人おおふなと市民活動センター
- ・NPO法人陸前高田まちづくり協働センター ・NPO法人みやこらぼ
- ・NPO法人いわてNPOフォーラム 21 ・NPO法人いわて連携復興センター
- ・一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター ・気仙沼まち大学運営協議会

- ・ NPO 法人いしのまき NPO センター
- ・ 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム ・ NPO 法人杜の伝言板ゆるる
- ・ NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター ・ NPO 法人地星社
- ・ 南相馬市市民活動サポートセンター
- ・ NPO 法人ふくしま NPO ネットワークセンター
- ・ NPO 法人アットマークリアス NPO サポートセンター
- ・ NPO 法人日本 NPO センター

○ T S C の役割

- ・ 被災沿岸市町の支援センターの一員として、復興の先の地域づくりについて考える場をつくる。

○実施状況

実施日	内容	参加
	※令和 2 年度までにリンクアップ会議を 11 回実施	
6 月 23 日 (水)	第 12 回リンクアップ会議 ・ とうほく NPO フォーラム in 南相馬 2020 ふりかえり ・ NPO サポートリンクの在り方について	中津
11 月 8 日 (月)	NPO サポートリンク 2021 キックオフミーティング	中津
12 月 16 日 (木)	第 13 回リンクアップ会議 ・ 本事業の進め方と今後のスケジュールについて	中津
1 月 27 日 (木)	事業進捗共有ミーティング	中津
2 月 21 日 (月)	事業進捗共有ミーティング	中津
3 月 15 日 (火)	事業進捗共有ミーティング	中津

○成果

- ・ 被災沿岸市町の支援センターとの情報共有の中で、今後の地域づくりに必要な視点を再確認するとともに、事業展開のヒントを得ることができた。

○課題

- ・ NPO サポートリンクとして実施する事業への関わり度合いの検討が必要。

2) 他部署・他機関との連携事例

①セクター連携による、深掘りした課題やアイデアを実践する場づくりのサポート

〈協力〉

ア) 子どもの防災

○「第2回こども防災の日をつくる会」会議

【企画について】

◇日時：令和3年11月26日（金）10:00～12:00

◇会場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

◇内容：震災時被災した幼稚園の対応の話を聞き、未就学児に関わる参加者同士で未就学児の避難訓練、未就学児を守るための情報交換・意見交換をした。

◇参加：26名（保育園、NPO、町内会、大学、企業、行政機関等）

【連携について】

◇概要：TSCは、未就学児に関わる多様な主体に声がけをして場を設定し、会議のサポートを行った。

◇連携団体：

- ・アイリンブループプロジェクト実行委員会（主催） ・まめまめ保育園
- ・さくらビレッジ ・志引保育所 ・桜木保育所
- ・社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会 ・多賀城市交通防災課
- ・多賀城市地域コミュニティ課 ・西園寺 ・大代地区郵便局 ・吉田浜郵便局
- ・利府郵便局 ・桜木北区町内会 ・下馬南自治会
- ・一般社団法人チガノウラカゼコミュニティ ・ともだち・カワン・コミュニティ
- ・のび塾 ・多賀城市家庭教育支援チームあんだんて ほか

◇成果：未就学児に関わる多様なセクターが一堂に会し、意見交換の場をつくることができ、新たなつながりを生むことができた。

○まめまめ保育園の避難訓練

【企画について】

◇日時：令和3年12月20日（月）9:30～11:00

◇場所：まめまめ保育園～うしちゃん公園多賀城緑地公園～一時避難場所

◇内容：散歩中の地震発生を想定し、公園近くの一時的避難場所である小野屋ホテル、株式会社共和電業への垂直避難訓練を行った。また、防災士の視点から散歩ルートの危険個所の確認をした。

◇参加：31名

【連携について】

◇概要：TSCはNPOと保育園をつなぎ、そこからつながった郵便局などの主体が訓練に参加した。この訓練の様子をTSCのブログや地元紙などを活用して発信し、広く取り組みを広めた。

◇連携団体：

- ・まめまめ保育園（主催） ・アイリンブループプロジェクト実行委員会

- ・ さくらビレッジ ・ 大代郵便局、利府郵便局ほか地域の郵便局
 - ・ 社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会 ・ 多賀城市交通防災課 ・ 小野屋ホテル
 - ・ 株式会社共和電業 ・ 多賀城市家庭教育支援チームあんだんて
- ◇成 果：郵便局や企業など新しいセクターと協働で、取り組みが生まれた。他セクターと未就学児の防災について互いの知識を共有し、アイデアを出せた。

〈共 催〉

イ) 大代地区をフィールドとした多文化共生事業

○外国人技能実習生との交流サポーター育成講座

【企画について】

- ◇日 時：令和3年7月4日（日）13:30～16:30
7月11日（日）13:30～16:30

◇会 場：大代地区公民館

◇内 容：

- ・ 地域の国際化の現状について
- ・ 外国人技能実習制度について
- ・ 企業の技能実習生の受け入れの状況について
- ・ 「やさしい日本語」について

◇参 加：50名（1回目23名 2回目27名）

【連携について】

◇概 要：TSCは主催団体と企業をつなぐとともに、運営のサポートを行った。また、各々の主体が持つ情報を発信した。

◇連携団体：

- ・ 大代地区コミュニティ推進協議会
- ・ ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場 ・ 多賀城市国際交流協会
- ・ 公益財団法人宮城県国際化協会

◇成 果：多賀城市民が外国人技能実習生の現状を知り、「やさしい日本語」をツールに外国人との交流を図る準備ができた。また、地域の多文化共生に想いのある人材を発掘できた。

○お正月あそび体験

【企画について】

◇日 時：令和4年1月10日（月）10:00～12:00

◇会 場：大代地区公民館

◇内 容：日本の正月文化の体験を通じて外国人技能実習生との交流・関係性づくりを行った。

◇参 加：40名（技能実習生、交流サポーター、宮城県多賀城高等学校、多賀城市国際交流協会など）

【連携について】

◇概 要：各々の主体やサポーターとなった市民と企業の技能実習生をつなぎ、場が

持続できるよう運営のサポートを行った。

◇連携団体：

- ・大代地区コミュニティ推進協議会
- ・ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場 ・多賀城市国際交流協会
- ・公益財団法人宮城県国際化協会 ・宮城県多賀城高等学校語学研究部

◇成 果：日本文化の体験を通して様々なセクターとの交流を生み、外国人技能実習生が住んでいる地域でのつながりができた。

②大学との連携

〈協 力〉

ア) 東北学院大学工学部講義「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」

【企画について】

◇日 時：令和３年 10 月 11 日（月）8:50～10:20（第 3 回講義）

11 月 8 日（月）8:50～10:20（第 7 回講義）

令和 4 年 1 月 24 日（月）8:50～10:20（第 15 回講義）

◇会 場：

- ・多賀城市市民活動サポートセンター（第 3、15 回講義）※学生はオンラインで受講
- ・東北学院大学多賀城キャンパス（第 7 回講義）

◇内 容：

- ・多賀城市の概要、町内会や地域コミュニティについて、T S C の紹介及び N P O ・市民活動について（第 3 回講義）
- ・地域のリーダー層（町内会長）や地域に住む若手世代の方へのヒアリング（第 7 回講義）
- ・学生による地域課題解決に向けた取り組み案の発表と、ゲストからの質疑やアドバイス（第 15 回講義）

◇参 加：7 名

【連携について】

◇概 要：T S C からは、T S C の設置目的や機能について、多賀城周辺で活動する N P O の紹介などを行った。また学生の発表に際しては質疑やアドバイスを行い、学生の更なる気づきを促した。

第 7 回講義にあたっては、多賀城市地域コミュニティ課と連携してヒアリング先を紹介した。

◇連携団体：

- ・東北学院大学地域連携センター（主催） ・多賀城市地域コミュニティ課
- ・東田中南自治会 ・城南自治会 ・大代地区コミュニティ推進協議会
- ・七ヶ浜町湊浜区

◇成 果：大学生が講義の中で N P O ・市民活動団体のことについて知り、地域課題の発見や解決のための取り組み案の作成の参考にした。

イ) 東北学院大学工学部特別講義「地域の課題とボランティア活動」

【企画について】

◇日 時：令和３年１２月１１日（土）

※「たがさぼのクリスマス雑貨市」へのボランティア参加

令和３年１２月１６日（木）１６：２０～１７：５０（第１２回講義）

令和３年１２月２３日（木）１６：２０～１７：５０（第１３回講義）

令和４年 １月１３日（木）１６：２０～１７：５０（第１４回講義）

◇会 場：多賀城市市民活動サポートセンター（学生はオンラインで受講）

◇内 容：地域の課題解決に向けたボランティア活動の役割を理解する講座

◇参 加：２名

【連携について】

◇概 要：ＴＳＣからは、多賀城市近隣での市民活動についての紹介と、自発的に活動に関わる意義について考える講座を行った。

◇連携団体：・東北学院大学地域連携センター（主催）

・多賀城市地域コミュニティ課

◇成 果：大学生が多賀城市のＮＰＯ・市民活動団体の目的について知ること、団体の活動に自分たちがどのように関わられるのかを考えるきっかけとなった。

ウ) 東北学院大学教養学部講義「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」

【企画について】

◇日 時：令和４年１月１７日（月）１４：２０～１６：１０（成果報告会）

◇会 場：オンライン

◇内 容：地域課題の解決策について発表を聞いて、コメントやアドバイスをを行った。

◇参 加：１４４名（２８グループ）

【連携について】

◇概 要：ＴＳＣは、学生が多賀城市各部署・各機関へのヒアリングを通じて考えた地域課題解決に向けてのグループ発表を聞き、特に地域福祉や地域防災をテーマとしたグループへコメントした。

◇連携団体：

- ・東北学院大学地域連携センター（主催）
- ・多賀城市地域コミュニティ課
- ・多賀城市商工観光課
- ・多賀城市教育委員会文化財課
- ・多賀城市観光協会

◇成 果：大学生が多賀城市の地域課題について考えたこと。コロナ禍で実践までは難しい時期ではあったが、今後連携し取り組めるポイントがあった。

(6) スタッフの研修への参加

1) 外部研修

各スタッフに外部研修への参加を促し、業務の参考としていくとともに、積極的に参加者や講師と交流も図った。

研修等名称	主催	日程	参加
NPO支援財団研究会 2021 WEBシンポジウム「ポスト・コロナ時代に向けた助成財団とNPOとのパートナーシップを考える」	NPO支援財団研究会	4月23日(金)	川口・小林 金子・鈴木
中間支援組織・支援センター役職員合同研修 2021「地域と市民の力を信じて引き出す。参加と事業の持続と成長を支えられる支援者であるために。」	中国5県中間支援組織連絡協議会	4月25日(日) 26日(月)	川口・勝井 小笠原
震災フォーラム「10年を節目にしない ここから始まる伝承の未来」	3.11メモリアルネットワーク	5月23日(日)	中津
とうほくNPOフォーラム in 南相馬 2020「復興の先を見据えて 変化する社会にNPOはどう対応する」	とうほくNPOフォーラム in 南相馬 2020 実行委員会	5月26日(水)	齋藤・小林 金子・勝井 小笠原・渡辺
「市民のための『法人格』研究」セミナー	社会福祉法人大阪ボランティア協会	6月4日(金)	渡辺
NPOと行政の対話を促進するための基礎講座	NPO法人日本NPOセンター	6月25日(金)	金子
行政職員のためのNPO理解講座	みやぎNPOプラザ	7月9日(金)	西條
Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs 20周年記念シンポジウム・ウィーク「NPO/NGOの組織基盤強化を考える4日間～社会変革を生み出せる組織へ」	パナソニック株式会社	7月12日(月) 13日(火) 15日(木)	中津・川口 勝井・小笠原 鈴木
NPOの知らせるカプロジェクト「書き手講座」	Yahoo! 基金	8月20日(金) 9月10日(金)	西條・小笠原
ボランティアコーディネーター研修「地域活動者やボランティアの想いを最大限に引き出すコーディネートの秘訣」	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	8月24日(火)	勝井・鈴木
災害ボランティアセンター応援スタッフ養成研修	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	9月21日(火)	小笠原
宮城県視覚障害者情報センター出前講座「視覚障害の基礎知識と支援について」	多賀城市文化センター	9月27日(月)	西條・金子
多賀城市社会福祉協議会法人化50周年記念講演会「単身化社会にむけた市民創造型の共生社会づくり」	社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会	9月28日(火)	渡辺
ボランティアコーディネーター研修「コロナ禍におけるボランティアコーディネーションの意義やファンドレイジングについて学ぶ」	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	10月12日(火)	鈴木
災害ボランティアセンター体験研修	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	10月14日(木)	西條
SDGs市民カレッジ特別講座	SDGs市民カレッジ特別講座実行委員会	10月21日(木) 25日(月)	川口
特定非営利活動法人日本NPOセンター25th アニバーサリー「未来へのメッセージ&シンポジウム」	NPO法人日本NPOセンター	11月23日(火)	中津
市民セクター全国会議 2021「変容する社会と市民活動の広がり」	市民セクター全国会議 2021 実行委員会	11月26日(金) 27日(土)	中津・西條
NPO法人Switch 10周年感謝祭	NPO法人Switch	11月27日(土)	金子
被災者支援アドバイザー研修	社会福祉法人宮城県社会福祉協議会	12月3日(金)	西條

みやぎNPOプラザ 20 周年記念フォーラム「みやぎのNPO～これまでの 20 年とこれからの歩み～」	みやぎNPOプラザ	12 月 5 日（日）	鈴木
NPO支援センター研修「with コロナ時代の市民活動支援に求められるチカラ」	みやぎNPOプラザ	12 月 16 日（木）	小林
NPO支援施設フォローアップ事業人材育成研修「協働を成功に導くプロセスを学ぶ」	みやぎNPOプラザ	2 月 17 日（木）	川口
市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 2022	NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会	2 月 23 日（水） 26 日（土） 27 日（日）	勝井
宮城県プロボノ普及啓発セミナー～プロボノで見つけたもう一つの居場所～	宮城県	3 月 24 日（木）	金子

2）内部研修

各スタッフは研修会参加後に報告書を作成し、スタッフで回覧することで内容の共有を図っている。また、業務に深く関係するものについては内部で伝達研修も行った。

これ以外にも、相談対応、ファシリテーション、講座体験などの研修を随時行い、スタッフの資質向上に努めている。

実施日	研修	担当
6 月 23 日（水）	「市民のための『法人格』研究」セミナー（6/4（金）参加）研修	渡辺

I -4 事業実施状況

(1) 地域の担い手育成事業 1) 雑貨市等

目 的	○市民活動を知らない方、これまで市民活動に関わったことのない方に、市民活動団体（以下、団体）が販売する商品の購入、ワークショップへの参加、展示を通して「市民活動」に触れ、社会課題や団体の活動を知ってもらい、購入が団体への支援に繋がっていることに気付いてもらう。 ○団体の販売する商品の購入やワークショップへの参加を促すことで、市民活動に関わる人材を増やす。 ○気軽に足を運べる雑貨市を開催することでTSCへの新規来館者を生み、認知度を高め、イベント以外でも立ち寄りやすい施設である事を知ってもらう。
背 景	○市内で少しずつ認知度を高めている当事業は、無関心層が市民活動に関わる貴重な機会である。また、雑貨市を通してTSCの存在を知るという効果も出している。 ○前年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあったことから、市立図書館との同時開催というかたちで施設間の連携を図って実施した。しかし新型コロナウイルスの影響もあり参加団体数などの点で十分な実施とは言えなかった。本年度はTSCにて開催するが、密状態を避けるために参加団体を従来の半数以下にする。
対 象	○雑貨に関心を持つ20～40代 ・SNSを利用している学生など若年層 ・ボランティア活動など何か活動したいが、何をしたらよいか分からない層
成果目標	○雑貨類の購入やワークショップ、展示を通して、市民活動団体や活動、地域・社会課題を初めて知る、あるいは新たな気づきを得る人を来場者の5割以上獲得する。 ○これからも支援につながる雑貨類の購入をしたいという人を7割以上獲得する。 ○Instagramの雑貨市アカウントで、雑貨市開催時期のインタラクション数を平常時の5割以上獲得する。
成 果	○コロナ禍ではあったが、夏のおでかけ雑貨市や図書館展示も含め、多くの市民に市民活動や社会課題にアプローチする機会を設けることができ、市民の興味喚起や理解促進につながった。 ○団体同士のつながりも生まれ、団体間のコラボレーションなどの話につながった。 ○成果目標から見た成果 ・新たな気づきのあった市民81% ・今後も支援につながる買い物をしたい市民93% ※この2項目は、おでかけ雑貨市・クリスマス雑貨市の来場者アンケートの結果に基づく（回答者数：計149名） ・12月のインタラクション数（閲覧数・「いいね」・シェア数の総計）は前月比475%
次年度に 向けた課題	○雑貨市への参加から新たな気づきのあった市民は多かったが、アクションを起こすなど次の段階につなげることが難しかった。他事業との連携により雑貨市で得た知見を活かせる場を設けてアクションにつなげられるようにする。 ○市民活動や社会課題について知ってもらう・関心を持ってもらうという目的に向けて、雑貨市以外の場での動画やInstagramでのアプローチ方法を考えていく。

実施概況（１）地域の担い手育成事業 １）雑貨市等

１．小規模雑貨市（おでかけミニ雑貨市）

ロビーステージ&サークルフェア 2021（主催：多賀城市文化センター指定管理者）に参加

日 時：令和3年7月3日（土）10:00～15:30

会 場：多賀城市文化センター

内 容：市民活動団体・福祉事業所の雑貨販売、ワークショップ、市民活動相談会（いちから塾事業との連携）

出展団体：3団体

○障がい者支援

珈琲豆と手仕事のモノ kyuu／石巻

○島おこし

花薫る喫茶処 蕾／塩竈

○社会教育

多賀城イングリッシュ・サポーターズ／多賀城

参 加：のべ234名



１．ロビーステージ&サークルフェア 2021 出展の様子

２．多賀城市立図書館 展示

「たがさぼのクリスマス雑貨市プレゼンツ

雑貨とわたしとSDGs」

期 間：令和3年12月1日（水）～12月18日（土）

会 場：多賀城市立図書館 2階共有スペース

内 容：出展団体の情報とSDGsを合わせて紹介。

参 加：84名



１．販売している様子



２．図書館展示の様子

３．たがさぼのクリスマス雑貨市

（１）たがさぼのクリスマス雑貨市

日 時：令和3年12月11日（土）

第1部 10:00～11:30 第2部 12:00～13:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

内 容：市民活動団体の雑貨・食品の販売、ワークショップ

出展団体：15団体（販売・ワークショップ）

○障がい者支援・福祉

アトリエ・ソキウス（NPO法人ソキウスせんだい）

／仙台

コスモスホール（多賀城市地域活動支援センター）

／多賀城

コッペ（認定NPO法人麦の会）／仙台

珈琲豆と手しごとのモノ kyuu／石巻

非営利団体虹の橋／多賀城



３．（１）販売している様子

ぱれった・けやき宮城野（社会福祉法人ゆうゆう舎）

／仙台

緑ヶ丘病院デイケア×就労支援事業所メイプルガーデン

／塩竈

みどり工房長町（NPO法人みどり会）／仙台

メルヴェイユ仙台（NPO法人創の会）／仙台

○国際交流・協力

多賀城市国際交流協会・多賀城高等学校語学研究部

／多賀城

ともだち・カワン・コミュニティ／塩竈

本格遠赤焙煎珈琲まめ福／多賀城

NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ／仙台

○社会教育

多賀城イングリッシュ・サポーターズ／多賀城

生涯学習100年構想実践委員会／多賀城

参加：のべ265名（30分おきにカウント）、実人数231名

新規来場者40名（アンケートより）

（2）出展団体決起集会・交流会

【1回目】

日時：令和3年11月27日（土）10:00～11:00

会場：オンライン（Zoom使用）

対象：出展団体、ボランティア

内容：雑貨市概要・趣旨の説明、スケジュール説明、団体同士の交流。

参加：12団体、ボランティア1名

【2回目】

日時：令和3年12月2日（木）19:00～20:00

会場：オンライン（Zoom使用）

対象：1回目の決起集会に参加できなかった出展団体

内容：雑貨市概要・趣旨の説明、スケジュール説明、団体同士の交流。

参加：3団体



3.（1）ワークショップの様子



3.（1）受付の様子



3.（2）決起集会1回目の様子

アンケート集計結果

1. 小規模雑貨市（おでかけミニ雑貨市）

（1）来場者アンケート （30件回収／のべ234名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	3名	12名	8名	3名	3名	1名	0名
0%	10%	40%	27%	10%	10%	3%	0%

- ・ターゲットとした20代～40代の参加が全体の77%と半数以上を占めた。
- ・ワークショップに参加している子どもの保護者の回答が多かった。そのため、30～40代の割合が高かった。

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他	無回答
13名	1名	3名	1名	0名	9名	2名	1名

- ・多賀城市内からの来場が最も多く、次いで仙台市となっている。ロビーステージの参加者や家族が参加していたためと思われる。

③満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1	無回答
18名	7名	3名	0名	1名	1名

- ・4、5を合わせると8割以上の方の満足が得られた。

④出展団体について初めて知ったこと ※複数回答可

商品購入が支援につながる	商品がつけられた経緯	その他
15名	2名	3名

○「その他」の記述内容（抜粋）

- ・今まで知らなかった団体を知ることができた。
- ・店の人と話して経緯がわかった。
- ・多賀城でこのようなイベントをやっていると思わなかった。

⑤今後支援につながる買い物をしたいか

はい	いいえ	無回答
27名	1名	2名

⑥感想（抜粋）

- ・非常に良い時間をすごせたと思う。
- ・商品から団体のことが気になるようになり、そこから自分で聞いて知るということをした。

（2）出展団体アンケート （3件回収／3団体参加）

①売り上げについて

- ・数千円～3万円の売り上げがあった。

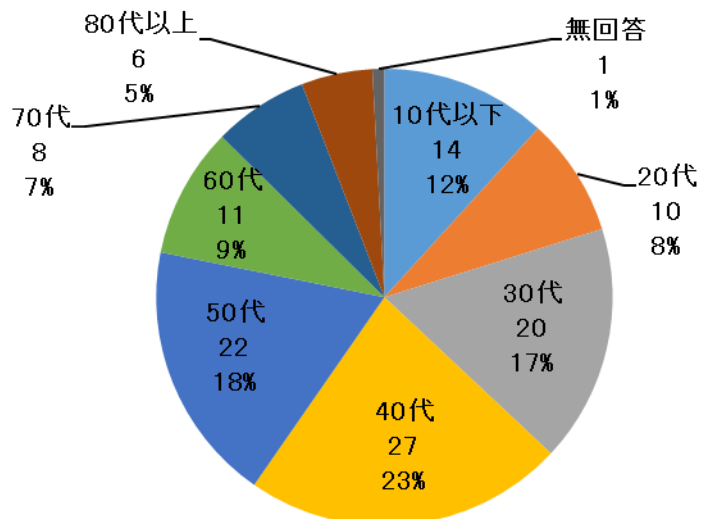
②その他気づいたこと、感想（抜粋）

- ・他の出展者と今後も何かの形で関わっていけそうで良いご縁があった。
- ・コロナ禍になってからイベントも減少していたので市外のイベントに参加できるのは本当に嬉しい。

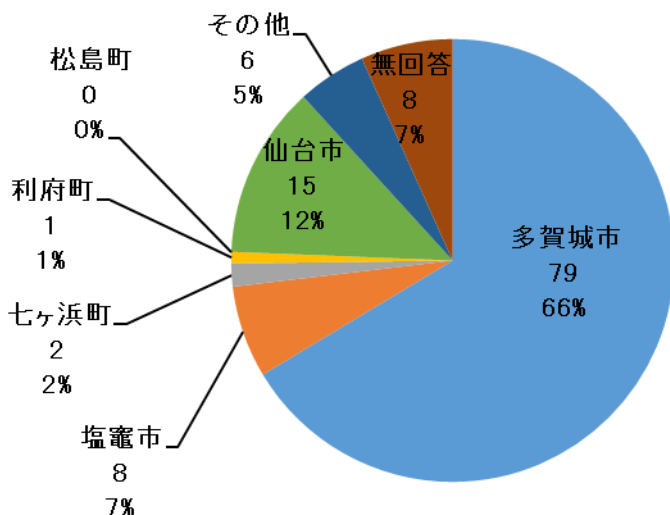
2. たがさぼのクリスマス雑貨市

(1) 来場者アンケート (119件回収/231人参加)

①年代



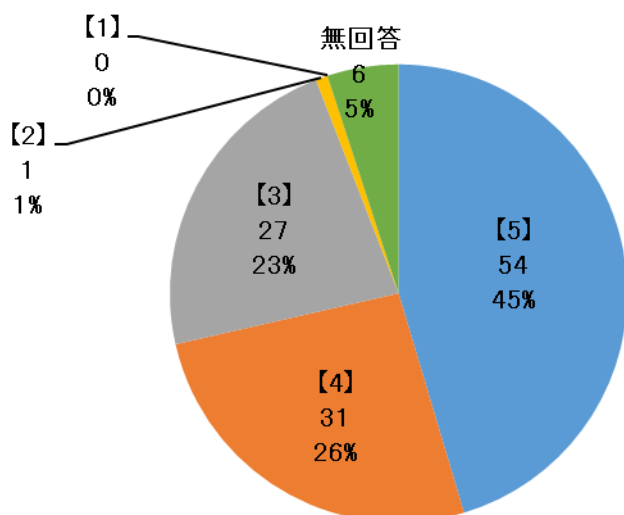
②住所



○「その他」の記述内容：

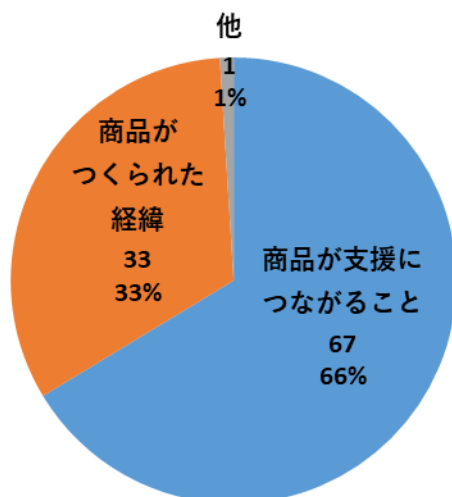
気仙沼市 (2)、東松島市、岩沼市、石巻市
県外

③満足度 (5段階評価)



・4、5を合わせると7割以上を占め、
全体的に満足度が高かった。

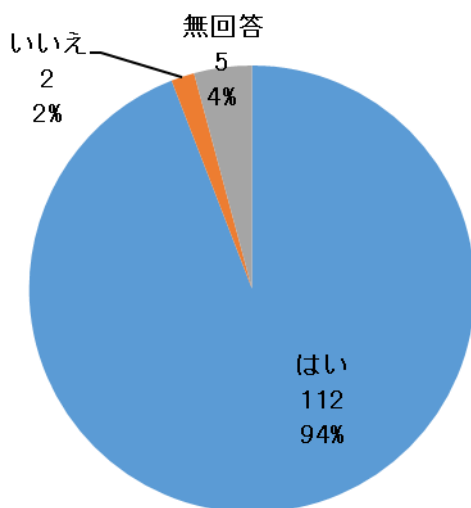
④出展団体について初めて知ったこと ※複数回答



○「その他」の記述内容：なし

・左記の集計から、購入が団体への貢献につながるという気づきの場をつくることができたと考えられる。

⑤今後も支援につながる買い物をしたいか



⑥感想（抜粋）

- ・雑貨市だけではなく実際に普段やっているお店にもぜひ行ってみたいと思った。
- ・出店されている方とお話することもでき、よい機会となった。

（2）出展団体アンケート （15 件回収／15 団体参加）

①売上について

よかった	いつもと同じくらい	よくなかった
10 団体	4 団体	1 団体

○理由（抜粋）

- ・すべてのお店を回れるようにルートがあったため、多くのお客様に見てもらうことができた。
- ・出展団体が少なかったのでゆっくり見ていただけた。
- ・事前登録制度もあったため、買う意欲のある人が来場された印象がある。

②販売商品について ※複数回答

説明できた	できなかった	売り上げの用途を説明した
15 団体	0 団体	1 団体

③団体の活動について

説明できた	できなかった
14 団体	1 団体

④来場者との会話ややりとりの内容について（抜粋）

- ・お客様から先にどういう人が作っているのと質問があった。
- ・パンフレットを置き、どんな活動をしているか説明できた。

⑤他の団体との交流

交流できた	できなかった
10 団体	5 団体

- ・常に来客がいて、スタッフの人数が少なかったブースなどでは、交流することが難しかったと推定される。

⑥自由記述（抜粋）

- ・2 部制になり時間が短いのかもと思っていたが、案外来場の皆さんはゆっくりなさっていた様子だった。
- ・順路が決まっていたので人が回ってきた。

（3）ボランティアアンケート （6 件回収／6 名参加）

①年代

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
1 名	2 名	0 名	1 名	1 名	1 名	0 名	0 名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
5 名	0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名

③参加動機 ※複数回答

クリスマスイベントに関心があった	1 名
雑貨に関心があった	0 名
団体の活動に関心があった	0 名
ボランティアがしたかった	3 名
知人に誘われた	1 名
学校の先生にすすめられた	2 名
自分の活動に役立てたかった	0 名
NPOの手助けがしたかった	0 名
たがさぼのイベントだから	0 名
その他	0 名

④ボランティア活動の満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
2 名	2 名	1 名	1 名	0 名

○理由（抜粋）

- ・ 普段の生活ではなかなか知ることの出来ない団体さんのことを知る機会ができた。
- ・ 本年から多賀城市に住むようになって、地域の方々との交流の場が無かったため、多賀城市民の市民性を感じることができた。

⑤感想・気付いたこと（抜粋）

- ・ 今回のボランティア活動の経験を周りの友達にボランティア活動の楽しさなどを伝えていきたい。

* 添付資料 ☐チラシ ☐当日配付資料

（１）地域の担い手育成事業 ２）いちから塾等

目 的	○ＮＰＯについての知識を深め、想いを整理することで、地域課題に気づくための視野を広げていき一歩踏み出す状態をつくる。 ○市民活動に参加する入口をより多く示すことで、活動に関わる人が増え、市民活動が身近なものであることを知る。
背 景	○令和３年２月に実施した「多賀城市まちづくりアンケート」では、「市民活動、ＮＰＯ活動、ボランティア活動などに関する状況」の設問に対し「今後参加してみたい」と答えた市民は35.3%と前年度よりも5.4%減となった。その結果を踏まえ、多様な参加方法があることを認識し、市民が活動に関わる機会を生み出すことが大切である。 ○市民活動へ踏み出す一歩をさらに後押しするために基礎講座より一段階進んだ講座を行うことで、知識を深め想いを整理することができる。個人それぞれの課題を抽出し、何かしらのアクションにつなげることが必要である。 ○上記から、市民活動やボランティアに関心がある層がきっかけやタイミングを逃すことのないよう、市民活動について学びや想いを整理する場を設ける。そこで地域課題に気づいたり市民活動に関心を持ってもらうことで、活動者の増加につなげたいと考える。
対 象	○市民活動に関心があるが、具体的な活動方法などがわからない方 ○地域や社会で役に立ちたいと感じているが何をしたらよいかわからない方 ○市民活動やボランティアに関心があるが、ハードルが高いと感じている方
成果目標	○事業への参加を通して市民が何らかのアクションを３件以上起こす。 ・これまでボランティア活動を行ったことがない方が、ボランティア活動を行う ・市民活動への参加に迷いを感じていた方が、活動に参加する ・任意団体設立のための情報収集をする、など
成 果	○講座後、市民のアクションが６件起きた。 ・ボランティア活動への参加３件、ＮＰＯへの寄付１件、活動を始めるための相談情報収集１件 ・町内会がフードボックス設置を行い、寄付先のＮＰＯとつながりを持った ○市民活動の入口となる機会を多く作ることで、タイミングを逃さず受講につながり活動にもつながった。
次年度に向けた課題	○ボランティアをしたい方・必要としている団体、両方のニーズのさらなる掘り起こしが必要。 ○講座後、参加者が関心を持っている分野の情報提供や他団体とつながる場が不足と感じるため、さらなる参加者のフォローアップ体制を構築することが必要。

実施概況（１）地域の担い手育成事業 ２）いちから塾等

1. NPOいちから塾（1回目）

日 時：令和3年6月18日（金）19:00～20:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 302 会議室

プログラム：

- ①オープニング
- ②NPO基礎講座（塾長：スタッフ齋藤）
- ③たがさぼガイドツアー（担当：スタッフ鈴木）
- ④質疑応答
- ⑤エンディング（お知らせ・アンケート記入など）

参 加：6名



1. NPOいちから塾1回目/講座の様子

2. NPOいちから塾（2回目）

日 時：令和3年11月21日（日）14:00～16:00

会 場：オンライン（Zoom 使用）

プログラム：

- ①オープニング
- ②たがさぼの機能紹介（担当：スタッフ鈴木）
- ③NPO基礎講座（塾長：スタッフ西條）
- ④質疑応答
- ⑤エンディング（お知らせ・アンケートのお願いなど）

参 加：2名



1. たがさぼガイドツアー



2. NPOいちから塾2回目/事例紹介

3. たがさぼの市民活動相談会

（１）おでかけ雑貨市 in ロビーステージ&サークルフェア 2021

日 時：令和3年7月3日（土）10:00～15:30

会 場：多賀城市民会館大ホールホワイエ

参 加：2名

（２）「たがさぼのクリスマス雑貨市プレゼント」

雑貨とわたしとSDGs」

日 時：令和3年12月5日（日）

会 場：多賀城市立図書館2階共有スペース

参 加：なし



3. 相談会でヒアリングの様子

4. はじめてみよう！ボランティア

日 時：令和3年10月3日（日）13:30～15:30

会 場：オンライン（Zoom 使用）

プログラム：

- ①オープニング
- ②ボランティア入門講座（講師：スタッフ西條）



4. ボランティア入門講座

③活動事例紹介

ゲスト：大友幸証氏（NPO法人いのちのパン）

鈴木若子氏（SEVEN BEACH PROJECT）

④質疑応答

⑤エンディング（お知らせ・アンケートのお願いなど）

参加：9名

5. ボランティア体験（ボランティア講座参加者）

日時：ボランティア先による（11月～12月）

参加：学び処しおがま（マナシオ）

/学習支援ボランティア（1名）

TAP多賀城/電球装飾ボランティア（1名）

クリスマス雑貨市/装飾・運営ボランティア（3名）

NPO法人いのちのパン/寄付（1名）

6. NPOこれから塾

日時：令和4年2月6日（日）13:30～15:30

会場：オンライン開催（Zoom使用）

プログラム：

①オープニング

②想いを整理するワークシートの使い方（講師：スタッフ渡辺）

③団体設立の際の事例紹介

ゲスト：本郷佳江氏（ハッピーピース）

石木田裕子氏（地球子屋）

④市民活動のはじめ方・団体の立ち上げ方講座

（講師：スタッフ渡辺）

⑤質疑応答

⑥エンディング（お知らせ・アンケートのお願いなど）

参加：5名



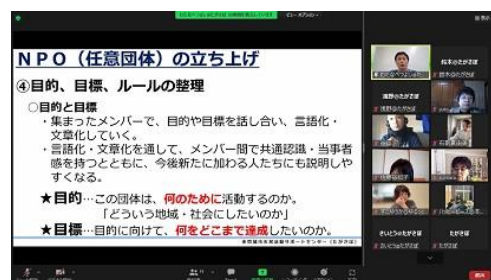
4. 事例紹介と募集ボランティアについて



5. 雑貨市での館内装飾



5. 雑貨市で出展団体の補助



6. 市民活動のはじめ方・団体の立ち上げ方



6. 立ち上げ時のポイント（ハッピーピース）

7. 出前いちから塾

(1) 個人（七ヶ浜町）

日 時：令和3年4月17日（土）18:30～20:30
 会 場：SEA SAW（七ヶ浜町）
 内 容：NPO基礎講座、子育て関連団体事例紹介
 講 師：スタッフ渡辺
 参 加：4名

(2) 桜木北区町内会

日 時：令和3年7月29日（木）10:00～11:30
 会 場：桜木北区町内会集会所
 内 容：NPO基礎講座、身近なNPO事例紹介
 講 師：スタッフ齋藤
 参 加：12名

(3) 東北学院大学工学部講義「地域の課題Ⅱ」第3回講義

日 時：令和3年10月11日（月）8:50～10:20
 会 場：オンライン開催（Zoom 使用）
 内 容：多賀城における地域コミュニティや市民活動についての講話
 講 師：スタッフ渡辺
 参 加：5名

(4) 多賀城高等学校キャリアセミナー

日 時：令和3年11月16日（火）12:50～16:10
 会 場：多賀城高等学校
 内 容：
 ・NPOやTSCについて
 ・講師のこれまでのキャリアや、仕事をする上で大事にしていることなど
 講 師：スタッフ渡辺
 参 加：9名（1年生）

(5) 東北学院大学工学部講義「地域の課題とボランティア活動」

日 時：令和3年12月23日（木）16:20～17:50
 会 場：多賀城市民活動サポートセンター 302 会議室
 内 容：多賀城市内と近隣の市民活動について
 講 師：スタッフ西條
 参 加：2名（1年生1名 2年生1名）



7. (1) SEA SAW での出前講座の様子



7. (2) 桜木北区町内会での出前講座の様子



7. (2) 集会所に設置されたフードボックス



7. (5) 講座後のワークショップ

アンケート集計結果

1. NPOいちから塾（1回目）（6件回収／6名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1名	1名	1名	0名	2名	1名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
2名	0名	0名	0名	0名	4名	0名

③講座をどこで知ったか

TSCスタッフ	知人・友人	チラシ	その他
1名	1名	2名	2名

・その他：大学からの紹介、メール（フェアトレードa m o登録アドレスからみつける）

④満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
3名	2名	1名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・NPOの基礎知識を学ぶことができたから。施設の紹介をしていただいて、活動のイメージがわいた。
- ・実際に多賀城市でどのような活動が行われているのか、また、たがさぼについて知ることができ利用したいと思えたため。
- ・非営利団体とはいえ、お給料は利益の分配にはならないということがハッキリした。

○「4」を選んだ理由

- ・何となく理解はできた。あとは自分での勉強、また機会があれば来たいと思う。

⑤講座で学んだことや質問・感想

- ・NPOに興味がある人たちと関わり、少し存在を知ったことで、自分の力になった。「ボランティアが普通」の社会になったら理想的だと感じた。
- ・スタッフさんの得意分野のおはなしをもっとお聞きしたかった。
- ・もう少し、調べたりして知識を増やしたいと思った。
- ・NPOは何名から活動できるのか。

⑥始めてみたい活動やもっと詳しく知りたいこと

- ・子ども食堂
- ・今、始めようとしている人たちの興味を知ること、コロナで活動がどのように変化したのか、コロナの中での活動紹介一覧。
- ・教育系のNPOについてもっと詳しく知りたい。
- ・脱毛症コミュニティを定期的に実行したい。
- ・こどもたちに何ができるのか、立ち上げるときに必要となるもの。

2. NPOいちから塾（2回目）（2件回収／2名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
2名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

③講座をどこで知ったか

チラシ	多賀城市 Facebook
1名	1名

④参加の動機

- ・NPOってどんなんだろう？自分にできることがあればと思い参加。
- ・多賀城市の活動を知りたかった。

⑤満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
0名	2名	0名	0名	0名

○「4」を選んだ理由

- ・説明がわかりやすかった。
- ・初回にしてはよかった。

⑥講座で学んだことや質問・感想

- ・また参加します。

3. 市民活動相談会～NPOいちから塾出張編～（2件回収／2名参加）

（1）おでかけ雑貨市 in ロビーステージ&サークルフェア 2021

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	1名	0名	1名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
1名	0名	1名	0名	0名	0名	0名

③相談会をどこで知ったか

TSCスタッフ	その他
1名	1名

④満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
2名	0名	0名	0名	0名

○理由は記載なし

4. はじめてみよう！ボランティア (6件回収／9名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1名	0名	2名	1名	1名	1名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
4名	0名	0名	0名	0名	2名	0名

③講座をどこで知ったか

TSCスタッフ	HP・ブログ・ツイッター	広報多賀城	その他
1名	1名	2名	2名

○その他の記載内容：みやぎNPOプラザ、高校

④参加動機

- ・ 講座内容について学ばせていただきたいと思ったから。特に、ボランティア保険や、オンラインでできるボランティアについてお話を聞きたいと思い参加。
- ・ 以前から退職したら何かボランティアをしたいと思っていた。広報を見て、この講座に参加したら、何か分かるかなと思い参加。
- ・ 興味があった為。
- ・ 以前から関心があり、はじめたいと思っていた時に、講座のタイトルが目に入り、今の自分に当てはまると思って参加した。

⑤満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
3名	1名	2名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・ 神社にお参り！する感覚、普通の事ととらえて、行動すれば良いのかなと思えた！
- ・ ボランティアを募集している方の意見を聞くことができ、これからのボランティア活動に役に立つのではと思った。

○「4」を選んだ理由

- ・ 今の時期仕方がないのですが、Zoomだったのが残念。対面の方が質疑応答等しやすかったのかなと思う。

○「3」を選んだ理由

- ・ オンラインだったのでドキドキした。

⑥今回の講座でボランティアをはじめようと思ったか

これから始める または、はじめたい	迷っている	はじめようとは 思わない	その他
3名	2名	0名	1名

⑦講座で学んだことや質問・感想

- ・ 自分がしたい活動とは違うと感じた。
- ・ ボランティアは会員になって情報が送られて来るのかと思ったりしていた。
- ・ 私にとってこの講座に参加したことが「ほんの少しの勇気で一歩」だった。私の第二歩目は、情報の収集方法を教えていただいたので、自分にあったボランティアを探すことだと思う。
- ・ 講座内容や、ゲストの方とのやり取りなど、大変勉強になった。

⑧活動団体のお話を聞いて感じたこと・感想

- ・情報が大切だと思った。
- ・活動する中で色々なアイデアが生まれ、実践していることに感動しました。SEA SAWには何度か食事に行っているが、ビーチクリーンの集積所には気付かなかった。今度、孫とビーチクリーン活動をしたいと思った。
- ・SEVEN BEACH PROJECTの鈴木さんのお話ではビーチクリーンに参加しやすい環境（大勢での活動や、1人での活動できるビーチクリーン集積所）があることで、多くの方が気軽に参加しやすくなり団体の活動への共感を得ることや団体の活性化につながっていると感じた。
- ・NPO法人いのちのパンの大友さんのお話では、コロナ対策をしながら支援者の方と顔を合わせてお話しすることで食料支援だけではなく、心のサポートにも繋がっていると感じた。

5. NPOこれから塾（5件回収／5名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	1名	2名	2名	0名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
2名	0名	0名	1名	0名	2名	0名

③講座をどこで知ったか

TSCスタッフ	知人・友人	チラシ	広報多賀城	その他
2名	1名	0名	1名	1名

○その他の記載内容：ハッピーピース

④満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
2名	2名	0名	1名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・立ち上げまでの流れがつかめた。詳細は相談しながらできるというのも分かった。

○「4」を選んだ理由

- ・社会的状況で仕方がないが、対面でお会いしたかった気持ちもある。内容はとてもためになった。
- ・色々な方の体験談を聞くことができたから。

○「2」を選んだ理由

- ・「3つの輪」全て準備していたのでシェアできる場が無く残念。他の団体の方が「3つの輪」についてどう考えてるのか知りたかった。オンラインとはいえ、他の団体とのコミュニケーションがほとんど取れなかったのも残念だった。

⑤講座で学んだことや質問・感想

- ・すでに活動されている団体の、実体験した話を聞いたこと、とても貴重な体験だった。
- ・何かを始める時に1番大切なことは、本人の熱意と、目的を明確にすること。団体を運営するときに大切なのは決まりごとや役割分担を曖昧にせず明確にすること、それらを話し合いで常にブラッシュアップしていくこと。団体の立ち上げから運営まで、たがさぼさんのように行政側から支援はとても力強く有難いものだと学んだ。
- ・焦らず、諦めず、発信していく事を学んだ。

- ・団体としての内側の動きがよく分かり、とても参考になった。
- ・反応がなくても発信し続けることが大事である。紹介いただいた本など参考になった。

6. 出前いちから塾

(1) 個人（七ヶ浜町）（4件回収／4名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	2名	1名	1名	0名	0名	0名

②講座をどこで知ったか

知人・友人	チラシ
2名	2名

③満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
4名	0名	0名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・NPOのミッションがよくわかった。
- ・NPOについて詳しく知ることができた。地域をよくするために活動できるなんてとてもやりがいを感じた。七ヶ浜町のためにできることから始めたいと思う。
- ・改めてNPOの活動について考える機会になった。子供支援を行っていきたいと考えているし、これからもいろいろ教えてほしい。
- ・とてもいい時間を過ごすことができた。NPOって何だろうが、明確に知ることができました。資料もとてもわかりやすかった。

④講座で学んだことや質問・感想

- ・まずはリサーチからはじめたい。
- ・経験者から実例を聞いたのがとてもよかった。

(2) 桜木北区町内会（9件回収／12名参加）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	0名	0名	3名	5名	1名

②講座をどこで知ったか

TSCスタッフ	町内の回覧板	その他
1名	6名	2名

③満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1	無回答
2名	2名	2名	2名	0名	1名

○「5」を選んだ理由

- ・それぞれの活動内容について、詳しく話していただいた方がよかった。

○「4」を選んだ理由

- ・NPOの活動が少しわかったような気がする。

○「3」を選んだ理由

- ・NPOのことをもっと学びたいと思った。

○「2」の理由

- ・あんまりわからなかった。
- ・よく知らないので、少し理解出来た。

④町内会活動や身近なことで、困っていることや考えていること

- ・コロナ禍でいろんなことがなくなり、早く元のようになってほしいと思う。今は何も考えられない。

⑤講座で学んだことや質問・感想

- ・老人会でも皆さんにお話しただけか。
- ・NPOの活動が少しわかったような気がする。

* 添付資料 ☐チラシ ☐当日配付資料

(1) 地域の担い手育成事業 3) NPO運営パワーアップ事業

目 的	○地域で活動する団体が自団体の運営、活動の強み・弱みの分析ができ、その結果を踏まえての相談や研修を通して運営力や地域・社会の課題解決力をアップさせる。 ○団体やその活動、目指すものについて多くの人に分かりやすく知ってもらい、協力や共感・賛同を得られるような情報発信ができるようになる。 ※各団体が地域・社会の課題を解決し、より住みやすい地域・社会になっている。
背 景	○前年度のヒアリング、アンケートの結果、情報発信力をつけたい団体が多かった。情報発信力を向上させ、団体に合った方法で発信することが理解者や協力者の増加につながる他、運営課題にも良い影響をもたらすと考える。 ○団体の活動状況が新型コロナウイルスの影響を受け変化した。今後の活動継続に向けてタイムリーな情報提供など活動のモチベーションを保つ関わりが必要と思われる。 ○前年度より事務用ブース入居団体インキュベート相談会を含め、従来とは実施の対象と方法を変えたことで団体の課題がより明確になりその後のアクションにもつながった。団体運営、活動の強みの分析や、団体の目指す所と必要なアクションの再確認の場とするため相談会は引き続き実施し、継続したサポートができるようにする。 ○「市民活動お役立ち情報」の改訂版の作成を行い、活動の参考にしてもらう。
対 象	○事務用ブース入居団体／事務用ロッカー・レターケース利用団体 ○TSC利用団体（講座・相談会への参加、会議室利用など） ○多賀城周辺で活動する団体や、団体を立ち上げようと考えている既活動者
成果目標	○なんでも相談会参加団体が、運営課題の解決に向けて目標を1つ以上設定できている。 ○相談会・講座参加団体の運営課題のうち1つが、改善もしくは解決している。 ○情報発信力アップの結果、市民からの協力・共感・賛同などが増えている団体が3つ以上出ている（現時点より団体の会員やボランティアスタッフが増える、活動の場や支援者・寄付が増える、ウェブ媒体の閲覧数やフォロワー、「いいね！」の増加など）。 ※成果については随時ヒアリングを実施してはかるものとする。
成 果	○各団体とも課題解決に向けて目標を1つ以上設定し、取り組みをはじめている。 ○相談会で会員増加について相談した団体がアドバイスをもとにこれまでと違う方法で広報活動をした結果、新規会員獲得につなげることができた。 ○情報発信相談会で講師から受けたアドバイスを実践し、変化が現れた団体が出てきた。団体紹介の動画の作成・発信や、町内会新聞での写真の使い方や記事集めなどの参考になった、などの報告が団体からあった。 ○これまでと違う方法で情報を発信する団体が増えた。Facebook ページを立ち上げた団体からは、閲覧数や「いいね！」が増えてきたという報告があった。
次年度に向けた課題	○情報発信に関しては団体によって課題や知りたい内容が分かったが、多様であるがゆえに団体に合わせた対応が難しい場面もあった。団体がより効果的な情報発信ができるよう、相談会形式で団体のニーズに合った支援を続けていく。 ○より多くの人・団体から頼られる団体となるよう運営相談、課題解決のサポートを継続する。そのために相談対応、講座などを通して団体のニーズを拾えるようにする。

実施概況（１）地域の担い手育成事業 ３）NPO運営パワーアップ事業

1. NPO・市民活動団体 運営なんでも相談会

- ①日 時：令和3年7月10日（土）15:00～16:00
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 101 会議室
参 加：生涯学習 100 年構想実践委員会（参加：4 名）
- ②日 時：令和3年7月17日（土）13:55～15:30
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 201 会議室
参 加：高崎こども食堂らっこ広場（参加：1 名）
NPO法人ライトワーカー宮城（参加：1 名）
- ③日 時：令和3年7月27日（火）17:00～20:00
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室
参 加：ハッピーピース（参加：4 名）※オンライン
学び処しおがま（マナシオ）（参加：1 名）
スロコミ（参加：1 名）※相談会后NPO法人格を取得
- ④日 時：令和3年8月26日（木）14:00～15:00
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室
参 加：傾聴の会多賀城（参加：3 名）
※事務用ブース入居団体インキュベート相談を兼ねる
- ①～④共通
対 象：事務用ブース入居団体、多賀城およびその周辺で活動する団体
内 容：団体の活動内容の整理・運営課題の分析、課題解決の目標設定、解決に向けた検討
相談員：TSCスタッフ中津、渡辺、小林
参 加：7 団体／15 名（1 団体あたりおよそ1 時間）

2. 事務用ブース入居団体インキュベート相談会

- ①日 時：令和4年1月15日（土）13:00～14:00
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 201 会議室
参 加：多賀城イングリッシュ・サポーターズ（参加：1 名）
- ②日 時：令和4年2月22日（火）13:30～14:30
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室
参 加：生涯学習 100 年構想実践委員会（参加：4 名）
- ③日 時：令和4年2月26日（土）14:00～15:00
会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 201 会議室
参 加：宮城県学童保育連絡協議会（参加：2 名）
- ①～③共通
対 象：入居後6か月が経過した事務用ブース入居団体



1. 参加者と運営の課題と解決に向けたアクションについてオンラインで話し合う



1. 活動内容を整理し、運営課題を可視化した



2. コロナ禍で活動していくアイデア出しも行った

内 容：団体の活動内容の整理・運営課題の分析、課題解決の
目標設定、解決に向けた検討
相談員：TSCスタッフ渡辺、小林
参 加：3団体／7名

3. 想いが届く情報発信相談会

- ①日 時：令和3年10月30日（土）14:00～16:50
会 場：多賀城市民活動サポートセンター 201 会議室
参 加：桜木北区町内会（参加：2名）
多賀城市子育てサポートセンター（参加：2名）
※オンライン
Dream Catcher（参加：1名）
- ②日 時：令和3年11月2日（火）16:00～18:50
会 場：多賀城市民活動サポートセンター 101 会議室
参 加：障がい者サポーターズ Golazo！（参加：2名）
地球子屋（参加：4名）
NPO法人スロコミ（参加：2名）
※うち1名オンライン参加

○①、②共通

対 象：事務用ブース入居団体、多賀城やその周辺で活動して
いる団体
内 容：協力・共感を得るための団体の情報発信に関する相談
会
相談員：林田全弘さん（株式会社ガハハ）
参 加：6団体／13名（1団体あたりおよそ1時間の相談会）

4. 団体の運営力アップにつながる！

生き生きと活動する仲間づくりのカギ

日 時：令和3年11月23日（火）14:00～16:30
会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室
（講師および参加者2名はオンライン）
対 象：事務用ブース入居団体、多賀城やその周辺で活動してい
る団体、団体の立ち上げを考えている既活動者
内 容：団体の運営力アップにつながる強くあたたかい組織作り
のコツを学ぶ講座
講 師：杉山絢子さん（NPO法人CRファクトリーコミュニテ
ィマネジメント認定インストラクター／
一般社団法人CAN net 代表理事／腫瘍内科医師）



3. 相談員とオンラインでつなぎ、活発なアイデア出しの時間となった



3. 相談員林田さんのアドバイスを得心してさらに良いものに



4. 講師の方はオンラインで参加。仲間づくりのヒントを学んだ

参 加：11 団体／13 名（申込 15 名）

5.（新）市民活動お役立ち情報作成

- 作成テーマ：①活動資金のいろは（新規）
 ②報告書の作りかた（改訂）
 ③規約の作りかた（改訂）
 ④情報発信／プレスリリースの作りかた（新規）

○仕 様：A4 両面 カラー

※データ受取は ai と PDF ファイル

○デザイン：（株）ユニグラフィック

○活 用：館内配架、また相談対応での参考資料などで活用。
 ホームページへ掲載し閲覧、ダウンロード可能。



5.（新）お役立ち情報

市民活動を行ううえで参考になる資料

アンケート集計結果

1. NPO・市民活動団体 運営なんでも相談会 （15 件回収／7 団体・15 名参加）

①相談会を何で知ったか

TSC スタッフ	チラシ	TSC の HP、 ブログ・ツイッター	知人・友人
15 名	0 名	0 名	0 名

②参加者からの感想など

- ・現在抱えている課題が可視化でき、次に何をすればいいのかを考えることにつながった。
- ・コロナ禍でも感染症対策をしてイベントを開催できたことが活動の自信につながっている。
- ・これまで活動してきたことを振り返る時間となった。一人だけで考えるのではなく、代表と話し合いながら今後の活動を考えることが必要だと感じた。
- ・新しいスタッフが入ったことで、あらためてこれまでの活動内容を見直す必要があることに気づいた。
- ・TSC とのつながりで新しいボランティアスタッフが入ってよかった。
- ・相談会で NPO 法人を立ち上げるのに必要なことが整理できた。今後活動に役立つ講座などあれば知りたい。

2. 事務用ブースインキュベート相談会 （7 件回収／3 団体・7 名参加）

①相談会を何で知ったか

TSC スタッフ	チラシ	TSC の HP ブログ・ツイッター	知人・友人
7 名	0 名	0 名	0 名

②参加者からの感想など

- ・メンバーでコミュニケーションの取り方が団体運営に影響していることに気づいた。
- ・コロナ禍で事業ができていない中、団体情報の発信と会員を増加について悩んでいた。市役所の担当課の協力もあり公民館の事業に合わせてこちらから出かけていき、活動内容について発信できたことで会員の新規加入につながった。
- ・新たに Facebook ページを開設でき、情報発信の手段が広がった。

- ・行事の開催については従来通りにできないことも出てきたので、新しいやり方も模索していきたい。
- ・情報発信のツールのひとつ「日本の学童ほいく」の展示を考えている。展示場所についてアドバイスをいただき良かった。自分たちでは思いつかなかった。

3. 想いが届く情報発信相談会 (11件回収／6団体・13名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	2名	2名	4名	2名	1名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
5名	0名	4名	0名	0名	2名	0名

③相談会を何で知ったか

TSCスタッフ	チラシ	TSCのHP ブログ・ツイッター	知人・友人
7名	2名	1名	1名

④満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
8名	2名	1名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・知りたいことをそれ以上に教えて頂いたから。
- ・知りたかったことをピンポイントで知ることができた。
- ・気になっていることが聞けたうえに、気づかなかったことを気づかせてもらえたので良かったです。
- ・事前のヒアリングシートに沿ってすすめていただき、聞きたいことをもれなく知ることができたので良かった。
- ・とても的確にアドバイスしていただきました。
- ・チラシの内容に関してだけでなく、どうしたら施設に足を運びやすくなるかということまでアドバイスしていただきました。

○「4」を選んだ理由

- ・記載なし

○「3」を選んだ理由

- ・発言するタイミングが分からない（オンラインに不慣れなため）

⑤相談会に参加して得られたこと・感想

- ・特集記事を準備することの大切さと、行事の写真コンテストの事、いいアイデアだと思いました。
- ・色々な考え方、発想がある事が知ることができた
- ・リーフレットの活用方法は知らなかったので、勉強できて良かったです。
- ・チラシ作成について具体的に教えて頂き大変ためになりました。
- ・チラシの両面使い。1枚で2度・3度おいしい（良い）情報を掲載できる
- ・イベントを含む活動のリターンの方法
- ・ロゴマークの作り方

- ・より多くの人への周知法
- ・自分で探して考えてチラシなどを作ってみてもワンパターンになってしまうので、違う目線からアドバイスを頂けたので楽しかったです。
- ・素人では分からないことを教えていただき、これから作るものに自信をもって取り組めると感じました。新しい試みもやってみたいと思えました。ありがとうございます。
- ・リーフレットの作り方、フォント、見出しなど、細かく知ることができた。
- ・ツールから考えるのが誤り。支援者層の想定とアプローチが大事ということ
- ・自分たちで気づけないポイント（タイトルのつけ方や主催する側の情報を載せるといいこと）を教えて頂きました。アドバイスいただいたことを早速次回の作成のときにやってみたいと思います。
- ・パソコンできれいに仕上げられていないことが気になっていたのですが、手描きを褒めていただき嬉しかったです！

⑥今後開催してほしい相談会・講座のテーマ

- ・リーフレット作成講座
- ・寄付金集め
- ・手にとってもらえるチラシの作り方実践編
- ・広報手段のいろは(みたいな)
- ・設立年数が同じくらい、カテゴリーが同じくらいの方々との情報交換会
- ・SNS発信のやり方、宣伝の効果的なやり方
- ・また、引き続き林田さんに相談したいです。
- ・SNSの効果的な使い方
- ・子どもの（親子の）メディアとの付き合い方

4. 「団体の運営力アップにつながる！生き生きと活動する仲間づくりのカギ」 (13件回収／13名参加)

①属性

市民活動団体	自治会・町内会	個人
9名(8団体)	3名(3団体)	1名

②年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	1名	4名	3名	4名	1名

③住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
12名	0名	0名	0名	1名	0名	0名

④相談会を何で知ったか

TSCスタッフ	チラシ	TSCのHP ブログ・ツイッター	知人・友人
11名	1名	1名	1名

⑤満足度(5段階評価)

5	4	3	2	1
6名	7名	0名	0名	0名

○「5」を選んだ理由

- ・細かいところまでいろいろお話しいただきました
- ・他団体のお話を聞けたことや杉山さんのお話で勇気が出たからです

○「4」を選んだ理由

- ・講座の構成、組み立てが良かった
- ・基本的なことを学ぶことができ参考になった
- ・進行が早くてついていけない部分があった

⑥本日の講座に参加して得られたことや、感想など

- ・団体を運営していくに当たって、今後課題になることについて考えることができた
- ・団体で活動していくためのノウハウを知った
- ・NPOの維持方法のヒントがあったように感じた
- ・あらためて団体のあり方や新しい人へのアプローチのポイントも分かりました
- ・先生のお話で取り組んでいることの確認をしてみたい
- ・共有できる団体の話し合いは重要、町内の役員も参加させたい
- ・これから運営の参考にする
- ・お金によらない報酬
- ・ドリームミーティング
- ・上流から参画すること
- ・新しい事業を考案し会員一人ひとりに課題を与えて愛着を持ってもらう
- ・他団体の人と合同は難しいと感じた。個人の集まりか、イベントしての合同なら可能かも
- ・他団体とコミュニケーションが取れたことが良かったです
- ・参加者が積極的に活動していて参考になった
- ・大変参考になりました
- ・気づきになりました

⑦今後開催してほしい相談会や講座のテーマ

- ・年に1回交流会のような形
- ・他団体との交流が取れる企画があればぜひ参加してみたいです。
- ・NPO団体との交流会
- ・情報交換の場は重要
- ・各団体のマッチング
- ・対象を自治会活動にしたテーマで開いてほしい。具体的な取り組み事例の紹介（成功、失敗も）
- ・他地区の会長さんとの意見交換
- ・ホームページの作成やSNS、Facebook、Twitterなどにおける広報活動の指導を受けたいです

* 添付資料 ☐チラシ ☐当日配付資料 ☐市民活動お役立ち情報（前年度作成分も含め7種類）

(1) 地域の担い手育成事業 4)「支える人材」との連携・育成事業

目 的	○市内で市民に対してさまざまな支援を行ったり、地域やその活動を支えている公共施設や市役所各課など（以下、「支える人材」と総称する）とで、地域自治支援の方向性の共有を行い、これまで以上に連携して支援業務に当たれるようにする。 ○「支える人材」が上記の共有に基づいて、地域や市民からの相談に応じ解決を図れるようにする。
背 景	○T S Cではこれまでも、「住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会」「被災地域支援関係課ミーティング」「施設情報交換会」などに参加し、各所の「支える人材」との情報交換や各課題の解決に向けての協議・実践の一翼を担ってきた。また、T S Cと「支える人材」とのつながりを生かして講座・イベントを開催したり、相談対応にあたったこともあった。これらの取り組みを通して、それぞれの「支える人材」の強みを生かした地域支援やそれに伴う地域の変容などを知ることができ、講座・イベントをT S C単独で取り組むよりも成果が出たケースも出てきた。 ○そこでこれらの取り組みをさらに進めて、それぞれが行っている支援業務及び地域自治支援の方向性を共有することで、これまで以上に連携して支援に取り組み、より効果的な支援につながるのではないかと考え、本事業を設定した。 ○また、コロナ禍の現状も踏まえ、業務や活動にあたって立てている対策や支援の進め方での変化を知りT S Cの運営にも生かしていきたいと考えている。
対 象	○「支える人材」（市民に対してさまざまな支援を行い、地域やその活動を支えている公共施設や市役所各課）
成果目標	※設定せず
成 果	○各会議に参加し、T S Cならではの視点から情報収集及び発信を行うことができた。 ○各会議に参加することで得た情報や関係者とのつながりをT S Cの事業に生かし、参加者に新たな気づきを得てもらうことができた。
次年度に向けた課題	○新型コロナウイルス感染拡大の影響のため開催されなかったり、回数が減少した会議などもあり、情報交換や支援のあり方の検討が十分にできなかったこともあった。そのため、地域自治支援の方向性の共有までには至らないこともあった。

※各種会議への参加、情報交換及び連携に関しては、

本報告書内「3 運営状況（5）「他団体・他機関との連携 1）各会議・実行委員会への参加及び2）他部署・他機関との連携事例」（40～52 ページ）を参照。

(2) 自治会・町内会支援事業 1) 自治会・町内会支援事業

目 的	○現在の自治会・町内会の枠を超えて、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考えられるようになっている。 ○地域内の運営課題や地域課題を発信することで、活動への関わりが広がっている。 ○自治会・町内会に関わる人たちがこれからの町内会運営に必要なスキルや知識を学び、実践につながっている。
背 景	○令和 2 年 4 月の区長制度廃止に伴い、地域の課題解決の担い手は区長個人から自治会・町内会という組織へと移行する方向にある。一方で、平成 29 年度に T S C が実施した「多賀城市自治会課題・取り組み事例」調査では、自治会・町内会の 83% が困っていることとして「役員のなり手がいない」との回答をしており、担い手不足という課題が出ている。 ○令和 2 年度「多賀城市まちづくりアンケート」において、「地域自治活動（町内会、子ども会、老人会など）にどの程度参加しているか」という問いに、61.8% の人が地域活動にあまり参加していないと回答している。また、「町内会活動が課題解決につながり、暮らしやすい生活の場づくりに役立っていると感じていますか」という問いには、感じていない人が感じている人を若干上回っている。 ○これからの自治会・町内会のあり方について、これまでの取り組みが必要であるか否か、またこれまで通りの進め方では地域活動が維持できないことを認識し、将来目指すべき姿を考える場が必要となる。
対 象	○自治会・町内会の会長、役員等 ○これまで町内会にあまり関わっていなかった人・団体 ○若い世代（学生など）
成果目標	○各自治会・町内会の運営課題や地域の現状を知ることで、地域に関わる住民自ら課題解決の意識をもつようになる。(3 地域) ○これまで自治会・町内会に関わっていない人が多様な手段で自治会・町内会の活動に参加する意識をもつ。新しい手段方法での運営課題解決に取り組む事例が生まれる。(3 事例 5 人以上)
成 果	○他の自治会・町内会の好事例を知ることで、自らの地区の課題解決のヒントが得られた。全体で 23 地区の自治会・町内会が参加し、情報共有ができた。 ○連携事業の防災ワークショップや防災に関する会議、東北学院大学の地域課題の授業にも参加した地区があり、若い世代や多様なセクターとの課題共有を行い、これまで自治会・町内会に関わっていない人たちと考える機会を持つことができた。 ○旭ヶ岡町内会の新聞づくりからまちあるき、地域学への発表や、桜木北区町内会の新聞づくりなどのアクションが起きた。
次年度に向けた課題	○市内の約半数の自治会・町内会とはヒアリング・T S C のイベント参加などのコンタクトを取ることができなかった。 ○自治会・町内会活動の取り組みを細分化して考え、活動の必要性や役員の負担減少について外部と連携する可能性などを整理し考える。人手不足が課題であるならば、役員以外でも関わりが持てるような仕組みを作っていくことが必要である。

実施概況（2）自治会・町内会支援事業 1）自治会・町内会支援事業

1. まちの歩みと魅力を知り発信する事業

（1）まちの歩みと魅力を知るワークショップ

「すえち少年になってまちを歩こう in 旭ヶ岡」

日 時：令和3年5月22日（土）13:00～15:00

場 所：多賀城市民活動サポートセンター～

旭ヶ岡地区界限

内 容：地域に住む人が地域の魅力を伝えるまちあるき

参 加：18名

成 果：自分の住む地域を知り、魅力に気づくことができ、地域への愛着を醸成できた。地域の魅力を見る視点に気づいた。

（2）「多賀城 おしえてくれるまちのひみつ

旭ヶ岡ってこんなところだったの!？」

日 時：令和3年11月27日（土）13:30～15:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 301 会議室

内 容：地区の新聞づくりを通して見つけたまちの魅力を報告した。

ゲスト：NPO法人20世紀アーカイブ仙台

参 加：17名

成 果：自分の住む地域を調べ発表した。ほかの地域の方も自分たちの住む地域のことについて考えた。

2. 自治会・町内会の運営課題解決のための伴走支援事業

（1）町内会なんでも相談会/ヒアリング

①日 時：令和3年5月10日（月）・21日（金）

10:00～12:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター

※2日間で、計10地区にヒアリング

②日 時：令和3年7月9日（金）14:00～16:00

会 場：大代地区公民館

参 加：2地区3名

③日 時：令和3年8月20日（金）14:00～16:00

会 場：山王地区公民館

参 加：1地区1名

●①～③共通

内 容：自治会・町内会の運営課題の相談とコロナ禍での困りごとのヒアリング

成 果：運営相談を通して、自治会・町内会それぞれの課題



1.（1）旭ヶ岡町内会の案内で旭ヶ岡周辺を探索



1.（2）まちあるきの後情報交換を行った



1.（2）旭ヶ岡町内会新聞に掲載されたまちのひみつを解説した



2.（1）町内会なんでも相談会の様子

をサポートした。また、桜木北区町内会の新聞づくりをサポートした。

3. 運営課題解決のための自治会・町内会 情報交換会

「多賀城 自治会・町内会わがまち情報交換会

ーあなたの地区はどうしてますか?ー」

日 時：令和3年10月22日（金）14:00～16:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

テーマ：「水辺の防災」

鶴ヶ谷親和会/東田中南自治会/新田三区

「コロナ禍の情報発信」

旭ヶ岡町内会/七ヶ浜町湊浜区/高橋東二区町内会

「地域の人材発掘」

城南自治会/高橋北区町内会

内 容：8地区の好事例の発表。他地区の人からも情報提供や感想・質問を通じての交流

参 加：12地区18名

成 果：自治会・町内会の好事例を他の地区と共有できた。また3つのテーマについて、多方面から考える機会となった。

4. 自治会・町内会活動へ協力者を増やす取り組み事業

(1) 自治会・町内会ヒアリング

開催日：通年

内 容：自治会・町内会の現状を知り、関わりしるを増やす

①自治会・町内会対抗ソフトボール大会（7/18）

多世代交流のポイントを取材

②東田中南町内会（7/28）

草刈りと防災の取り組みをヒアリング

③八幡下二区（8/3）

ごみ置き場の問題と新旧住民問題をヒアリング

(2) 自治会町内会の取り組み発信事業（ブログ）

開催日：通年（ブログ数18本）

内 容：自治会・町内会の取り組みを知り、関わりしるをつくる

令和3年	記事タイトル
5/31	まち歩きイベント「すえち少年になってまちを歩こう」を開催しました！
7/23	スポーツで広がる地域の輪「市民スポーツ大会」



3. 情報交換会ではテーマごとに発表した



3. 参加した12地区からもそれぞれ情報共有があった



4. (1) ② 東田中南自治会の交流の場の土手の草刈り



4. (2) 新田地区で行った七北田川沿いを歩く紅葉狩り。子どもから高齢者まで参加

8/23	東田中南自治会の取り組み
8/30	桜木北区町内会の広報紙ができました！
9/ 9	旭ヶ岡町内会の広報紙
11/13	新田地区の土手歩き&紅葉狩りに参加しました！
11/15	鶴ヶ谷親和会「動ける体制づくり、いざという時どうする？」
11/19	東田中南自治会「マンションの防災/二次災害への取り組み」
12/ 5	新田三区「子どもや保護者を巻き込む夏祭り防災」
12/14	旭ヶ岡町内会「おしえてくなるまちのひみつ」
令和4年	
1/21	七ヶ浜町湊浜区「慣れないLINEを使った情報発信」
1/23	高橋東二区町内会「情報発信10年！ブログと町内会新聞でコミュニケーションづくり」
1/24	旭ヶ岡町内会「わが地域の歴史と魅力を再発見！」
1/30	「次世代の自治会・町内会の関わり方／分担」
2/ 1	高橋四区「得意を活かす場で人材発掘」
2/23	町内会「水辺の防災」動画を公開しました
3/21	町内会「コロナ禍の情報発信」動画を公開しました
3/28	町内会「人材発掘」動画を公開しました

(3) 連携事業や他機関との関わり

①多賀城 みんなの防災ワークショップ

日 時：令和3年11月6日（金）14:00～16:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：多賀城市の市民など様々なセクターで防災について考えた。

参 加：東田中南町内会、新田三区、高橋東二区町内会

②第2回 こども防災の日をつくる会 会議

日 時：11月26日（金）10:00～12:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：未就学児や防災に関わる様々なセクターが参加し、防災の取り組みや考え方を共有した。

参 加：桜木北区町内会、下馬南町内会



4. (2) 2021年に誕生した桜木北区町内会の町内会だより「さくら新聞」



4. (3) ① 多賀城みんなのワークショップの様子



4. (3) ② こども防災の日をつくる会の様子
いろいろな立場の地域に住む人たちの想いを
知った

アンケート集計結果

1. (1) 「すえち少年になってまちを歩こう」 (回収16件/18名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	1名	3名	7名	5名	0名

②参加のきっかけ

TSCスタッフ	チラシ	知人	町内会情報	その他
8名	2名	3名	2名	1名

③参加の理由 (複数回答)

まちあるきに 興味	当時の話を したい	テーマに興味 がある	町内会活動の 参考に	まちづくりの 話をしたい
11名	2名	6名	3名	2名

④参加目的の達成

達成された	達成されなかった	無回答
15名	0名	1名 ※途中参加のため

○主な理由

- ・より地域を知ることができた。
- ・昔の通り方を知った。
- ・見聞が広がった。
- ・旭ヶ岡地区の歴史が見えてきた。
- ・実際に現地を歩いたことで直接感じる良い点があった。
- ・県外出身で多賀城の歴史について知識がなく勉強になった。

⑤プログラム内容の満足度

	5	4	3	2	1
はじまりの話	10名	4名	2名	0名	0名
まちあるき	9名	6名	0名	1名	0名
妄想タイム	7名	6名	3名	0名	0名
その他	5名	0名	1名	0名	0名
開催日時	3名	2名	2名	0名	0名

○参加して興味をもったキーワードとその理由

- ・身近な土地なのでもっと詳しく知りたいと思う。
- ・実際に歩かないとわからない事があると感じた。
- ・知らない事が多く、もっと地元を理解していきたい。

○参加して感じたアイデアなど

- ・ほかの地域もめぐる全市的なウォークラリーがあっても良い。
- ・自分が住んでいるまちでも意外に知らないところがあるのではないかと思った。
- ・近所を注意して歩いてみようと思った。
- ・身近な歴史を語って伝えていくこと。

1. (2)「多賀城 おしえてくなるまちのひみつ 旭ヶ岡ってこんなところだったの!？」 (12件回収/17名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	1名	3名	1名	2名	5名

②住所

多賀城市	その他
10名	2名

③イベントを何で知ったか

TSCスタッフ	チラシ	広報多賀城	その他
3名	3名	3名	3名

○その他の記載内容：町内会だより、知り合いからの誘いなど

④満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
11名	1名	0名	0名	0名

○主な理由

- ・米倉さんの絵を実際見ることができて大満足。富田さんのバイタリティーを感じ自分たちの活動にも活かせたらと学ばせて頂きました。
- ・自分が住んでいる地区の歴史が良く分かった。

⑤感想

- ・お話も楽しく「教えたくなる!」の気持ちが伝わる時間でした。地域の世代を超えた交流もとてもあたたかく感じられました。他地域の方とも絵を通して楽しい会話が広がっているのも素敵なことだなと思いました。
- ・地域を知る、歴史をすることができた。
- ・米倉さんの絵は素晴らしいです。多賀城図書館に展示してほしいです。
- ・よく調べたものと感心しました。昔の多賀城の様子が知れておもしろかったです。
- ・米軍の施設が多く有ったこと。旭ヶ岡集会所がバスだったこと。塩竈線が明治20年には開業していたこと。
- ・「昔は未来を知っている」いい言葉を教えて頂きました。

3.「多賀城 自治会・町内会情報交換会—あなたの地区はどうしていますか?—」 (17件回収/21名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
0名	0名	1名	0名	0名	7名	7名	1名	1名

②住所

多賀城市	その他	無回答
13名	2名	2名

○多賀城市：新田三区 (2名)・大代中・旭ヶ岡 (2名)・高橋北・城南・鶴ヶ谷 (2名)・桜木北 (2名)

高橋東二区・東田中南

○その他：七ヶ浜町・仙台市

③イベントを何で知ったか

T S C スタッフ	チラシ	広報多賀城	その他
15 名	1 名	0 名	1 名

④イベント満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
8 名	6 名	2 名	1 名	0 名

○「5」を選んだ理由

- ・無事に発表でき、他の人の発表も参考になりました。
- ・地区の考えていることがよく分かった。

○「4」を選んだ理由

- ・内容には新しい発見やヒントがあり、役に立ちそうだから。時間の配分に課題。
- ・最後に希望テーマに分けて意見交換する場が必要かと思いました。

○「3」を選んだ理由

- ・1戸建てと公共住宅ではいろいろ違うことも多いと思う。

⑤参加した目的は達成されたか

達成された	達成されなかった	無回答
15 名	1 名	1 名

○「達成された」を選んだ理由

- ・目的をもった自治会である事が大切
- ・夏祭りに防災意識の啓発の取り組み、すごい!!発想が柔軟です。
- ・色々な町内会の様子を聞くことが出来た。
- ・各地域で努力されていること、困っていることを知ることができた。
- ・同じような悩みをかかえていること

⑥他地区での参考にしたいこと

- ・新田自主防災
- ・若い人の人材発掘
- ・ネットワーク拡充
- ・情報発信の大切さ
- ・防災の考え方

⑦感想

- ・このような交換会はこれからも必要だと思った。
- ・発表された自治会・町内会は意欲的で積極的に活動されて全てが参考になった。
- ・それぞれの課題をかかえながら努力されていることをお聞きして有意義だった。
- ・LINE の活用が進んでいることは理解できた。使い方を慎重さが必要と思った。
- ・「何の為」「必要かどうか」の話はおおいに参考になった。
- ・自治会の運用を考えた時、会長等（3 役）の進め方や考え方が大事である事を再確認できた。
- ・掘り下げたりする時間が欲しかった。こうした企画を地域（七ヶ浜）にも広めたい。
- ・会長さんたちにも今日の話は聞いていただいたら良かった。
- ・個人の特技をいかし、人の役に立てたいというアイデアがいいと思う。
- ・各町内会での活動状況が見え、参考になった。

⑧新たなアイデア・町内会でやってみたいこと

○交流

- ・大人たちの繋がりをつくる
- ・世代間交流となる事業
- ・サンデーモーニングカフェ
- ・コミュニティカフェ

○情報発信

- ・ LINE の繋がり ・ 次世代の自治会・町内会の関わり方／分担（人材発掘）
- ・ LINE の活用による役員への案内

○災害

- ・ 地域の災害危険度チェック ・ 防災訓練の在り方に見直し（新田を参考にしてみたい）

○人材発掘

- ・ 大工の会がすばらしい。 ・ 役員でないが、町内会に関わりたいという人が出てくるのが希望。
- ・ 企画が役員中心であるのはどこも同じようなので、もっと一般の人のアイデアや声をあげやすくするためにどうすればよいか。さまざまな年代の方が活躍できる場ができたらと思った。
- ・ 組織の役員でない役割も必要と思う。

○その他

- ・ イベント等取り組み際、理念も周知してもらう必要性を感じた。 ・ 理念をもつこと

●全体の事業を通じて参加いただいた自治会・町内会（23 自治会・町内会）

【東部】	1. 鶴ヶ谷親和会 2. 鶴ヶ谷住宅自治会 3. 下馬東区自治会 4. 下馬南自治会 5. 大代中区町内会 6. 桜木東区町内会 7. 桜木南区町内会 8. 桜木北区町内会
【西部】	9. 新田三区 10. 新田住宅自治会 11. 高橋東二区町内会 12. 高橋北区町内会 13. 城南自治会 14. 南宮自治会 15. 浮島地区自治会
【中部】	16. 高崎自治会 17. 東田中親交会 18. 東田中南自治会 19. 志引町内会 20. 旭ヶ岡町内会 21. 伝上山親和会 22. 八幡上一区町内会 23. 八幡下二区町内会

* 添付資料 ☐チラシ ☐当日配付資料

(3) 連携による課題解決を進める事業 1) 連携による課題解決を進める事業

目 的	○NPO、市民、企業、自治会・町内会等の多様な主体が地域や社会の課題を知るきっかけをつくり、お互いの理解を深めながら、連携して継続的に解決する場をつくることを目的とする。
背 景	○前年度はコロナ禍のため、対面の集まる場を設けることは難しかったが、オンライン会議システム Zoom を活用し、多様な主体で地域課題を考えるTSR会議2020を開催した。「誰一人取り残さない」地域を目指し、6つのテーマについて当事者や活動団体の話を聞きながら、ゲストの寛裕介氏（NPO法人 issue+design）を交えて課題を深掘りした。会議のゴールを「まちの課題を知る」「これからの課題解決の実践に向けて、対話と協働が生まれる下準備ができる」とした。 それぞれ異なるテーマについて同じ場で共有したことで、団体のメンバーや参加者の中に共通の課題が見出せ新たな気づきがあった（A団体が抱える課題を解決したら、A団体とは分野の異なるB団体の課題も解決！ということも起こり得るのかもしれない、など）。 ○コロナ禍でこれまで当たり前だった生活はなくなり、地域の課題も増加かつ複雑になってきている。本年度は、コロナ禍で出てきた新たな課題も含めて、ひとつの団体や組織では解決が困難な地域や社会の課題について、多様な主体が互いの理解を深めながら、連携して解決する場が主体的につくられるよう取り組みを継続し、地域が連携して課題解決に向けて進んでいくようサポートしていく。そして本年度の取り組みを踏まえて次年度開催のTSR会議につなげていく。
対 象	○市民 ○企業 ○NPO ○自治会・町内会 ○左記以外の様々なセクター
成果目標	○多様な主体同士のアイデアを出し合う場が生まれ、3件の実践が始まっている。 ○これまでTSC事業や他セクター間の連携等に関わりのなかった企業や寺院など3団体が新たに連携の取り組みに参加している。
成 果	○これまでの取り組みをきっかけに、多文化共生事業や防災の取り組みなど多様な主体の関係性をつくり、13件の実践の場を設けることができた。 ○多賀城高等学校や多賀城近辺の郵便局、まめまめ保育園、小野屋ホテル、株式会社共和電業などが連携の取り組みに参加をした。 ○TSR会議含め、年間を通して、防災をテーマに多様な主体で考え、共有・発信する場を持つことができた。 ○多文化共生事業やこども防災の日をつくる会など、主体を団体や地域が担い、TSCはコーディネイト役を担う場面も出てきた。
次年度に 向けた課題	○地域で課題解決を目指しているが、地域の課題が一部の限定した人たちのものになっていて、市民に広く知ってもらう機会が少ない。 ○多文化共生事業やこども防災の日をつくる会など、地域課題解決に向けて一部地域で行ってきた連携の取り組みを他の地域に展開するきっかけをつくる。 ○これまで関わりのなかったセクターとの関係を構築し、地域資源を活用しながら課題解決に向けた取り組みを行う。

実施概況（3）連携による課題解決を進める事業 1）連携による課題解決を進める事業

1. 各テーマで課題を深掘りし、実践に向けての具体的なアイデアを出し合う場

（1）Tagajo Sustainable Relationship 2021

多賀城から、持続可能な関係性を探る会議

日 時：令和3年9月25日（土）14:00～17:00

会 場：オンライン（Zoom 使用）

テーマ：防災とインクルーシブなまちを考える

内 容：多様なゲストと「防災」をテーマに課題を共有し、セクターを超えたアイデア出しをする。

ゲスト：・ J. F. モリス氏（東北大学/宮城学院女子大学）

・ 神桂子氏（言語聴覚士/のび塾）

・ 藤本菜月氏（一般社団法人 tenten）

・ 佐藤夏色氏（てんでん宮城）

・ 佐藤美奈子氏（NPO法人筋強直性ジストロフィー患者会）

・ 外国人技能実習生（ユニバーサル株式会社）

サポーター：多賀城高等学校災害科学科生徒7名

参 加：71名（企業、NPO、市民、自治会、学生、行政等）

成 果：「防災」「インクルーシブなまち」をテーマに市民活動以外のセクターの方も参加した。

本シンポジウムを契機に新たなつながりができた。

（2）水辺の防災SUP体験×ミニ防災まちあるき

日 時：令和3年10月31日（日）9:00～12:00

場 所：砂押川周辺

内 容：①ミニ防災まちあるき

多賀城高等学校災害科学科の生徒の案内のもと、防災視点で砂押川周辺をまちあるき。コースはJR多賀城駅→砂押川→多賀城郵便局→末の松山→国道45号線→砂押川。

②水辺の防災SUP体験

ゲストの太見氏の指導の下、砂押川でSUP体験をした。身近にあるが、普段近くで観察することが少ないと思われる川目線で水辺の防災についての理解を深めた。

ゲスト：太見洋介氏（NPO法人海族DMC）

案内人：多賀城高等学校災害科学科生徒8名

参 加：10名



1. (1) 基調講演はJ. F. モリス氏による「転勤族とはマイノリティか」



1. (1) 多様なゲストがそれぞれの立場で防災について課題を共有し、インクルーシブなまちについてのアイデアを考えた



1. (2) 津波プレートの前で生徒が東日本大震災時に津波がここまで来たことを説明した



1. (2) 砂押川でSUP体験をしながら水位や水の流れなどを感じ、楽しみながら防災の理解を深めた

成 果：多賀城高等学校と連携できた。

SUPで楽しみながら、防災の理解を深めてもらうことができた。

(3) 多賀城みんなの防災ワークショップ

日 時：令和3年11月6日（土）14:00～16:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：多賀城に暮らす多様なセクターの皆さんと「誰も取り残さない地域」を目指してのアイデア出し。

ゲスト：太見洋介氏（NPO法人海族DMC）

参 加：20名（NPO、町内会、企業、市民等）

成 果：（1）（2）の事業内容と自治会・町内会事業の情報交換の内容を踏まえてのワークショップができた。

2. 深掘りした課題やアイデアを実践する場

(1) 多文化共生事業

1) 多文化共生についての課題&アイデア出しの場

日 時：1回目	6月15日（火）	19:30～20:30	参加：6名
2回目	6月29日（火）	19:00～20:00	：15名
3回目	7月20日（火）	19:30～20:30	：7名
4回目	8月17日（火）	19:30～20:30	：8名
5回目	11月16日（火）	14:00～15:00	：4名
6回目	12月10日（金）	15:00～16:00	：6名
7回目	3月4日（金）	14:00～15:00	：6名

会 場：オンライン（Zoom）

内 容：地域で暮らす外国人と地域住民との共生にあたっての課題や解決のためのアイデア出し、交流の場で何をして理解を深めるかなど話し合い

参 加：

- ・大代地区公民館 ・公益財団法人宮城県国際化協会
- ・多賀城市国際交流協会
- ・ともだち・カワン・コミュニティ
- ・多賀城イングリッシュ・サポーターズ
- ・ユニバーサル株式会社（ミャンマー人技能実習生）
- ・多賀城市地域コミュニティ課 ほか

※回毎に参加団体は異なる

成 果：多セクターが協働して多文化共生について考えを共有する場を定期的に持つことができた。



1. (3) グループごとにアイデアを出した



1. (3) グループごとに出したアイデアを全体で共有した



2. (1) -1) ミャンマー人の技能実習生も一緒にオンラインでアイデア出しをした (6/29)



2 (1) -1) 地域で国際交流の活動をしているともだち・カワン・コミュニティ、多賀城市国際交流協会ジュニア部、多賀城イングリッシュ・サポーターズも一緒にアイデア出しをした (7/20)

2) 外国人技能実習生との交流サポーター養成講座

①1回目

日 時：令和3年7月4日（日）13:30～16:30

会 場：大代地区公民館

内 容：

- ・地域の国際化の現状と外国人技能実習制度について
- ・技能実習生の出身国の生活習慣と言葉（ベトナム編）
- ・「やさしい日本語」について（その1）

参 加：23名

②2回目

日 時：令和3年7月11日（日）13:30～16:30

会 場：大代地区公民館

内 容：

- ・地域における技能実習生の受け入れについて
毛利誠氏
(ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場)
- ・「やさしい日本語」について（その2）
- ・技能実習生の出身国の生活習慣と言葉（ミャンマー編）

参 加：27名

●①、②共通

成 果：幅広い世代の人が参加した。

地域の中で多文化共生に関心のある人を発掘できた。

3) サポーターと外国人技能実習生との交流の場

①ミンガラバ（ミャンマー語でこんにちは）ミーティング

日 時：令和3年7月31日（土）13:00～15:00

会 場：大代地区公民館

内 容：サポーターと技能実習生の混成グループごとにテーマを決めて互いの国や地域のことを紹介し、理解を深めた。

参 加：39名

②日本の正月あそび

日 時：令和4年1月10日（月・祝）10:00～12:00

会 場：大代地区公民館

内 容：書き初め・カルタ・すごろく・福笑い・バドミントン（羽子板の代替）の5つの日本の正月あそびを通してサポーターと技能実習生が交流をし、互いの理解を深めた。あそびの紹介はサポーターが行い、多賀城高等学校語学研究部の生徒と技能実習



2. (1) -2) ① 参加者同士自己紹介をしながら交流をした



2. (1) -2) ① ベトナムの生活と文化について学んだ



2. (1) -3) ① グループごとにテーマを決めてやさしい日本語を使いながら交流した



2. (1) -3) ② 多賀城すごろく。サポーターが説明しながら一緒に遊び交流した

生が数名でグループになり各ブースを周った。

参 加：40 名

●①、②共通

成 果：やさしい日本語を使いながら日本人のサポーターとミャンマー人の技能実習生が互いの理解を深められた。日本人同士の交流もできた。

②では、サポーターが主体となって開催できた。

○（１）共通

- ・主催：大代地区コミュニティ推進協議会
公益財団法人宮城県国際化協会
- ・共催：多賀城市国際交流協会
多賀城市市民活動サポートセンター

（２）未就学児の防災について

１）こども防災の日をつくる会

①保育園の避難訓練についての意見交換・情報交換

日 時：令和3年10月25日（月）10:00～11:00

会 場：さくらビレッジ

内 容：

- ・園の避難訓練の時期や方法、避難訓練時の保育士の不安や心配事などのヒアリング
- ・防災士の資格を持つ地域の郵便局長とともに避難訓練を実施する方法の情報交換

参 加：5 名

- ・まめまめ保育園
- ・株式会社 Season さくらビレッジ
- ・アイリンブループロジェクト

②第2回こども防災の日をつくる会

日 時：令和3年11月26日（金）10:00～12:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

内 容：佐藤美香氏（あいりちゃんの母親）から震災時の幼稚園の対応の話を聞き、未就学児に関わる参加者同士で未就学児を守るための避難訓練について情報交換・意見交換をした。

参 加：26 名（保育園、NPO、町内会、大学、企業、行政等）

③まめまめ保育園の避難訓練についての打ち合わせ

日 時：令和3年12月16日（木）14:00～15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 302 会議室

内 容：12月20日（月）に実施するまめまめ保育園の避難



2. (1) -3) ② 福笑い。でき上がった面白い顔を見て笑いが起こった



2. (1) -3) ② お手本を見ながら書き初めをした



2. (2) -1) ② 参加者同士で情報交換・意見交換をした



2. (2) -1) ② 佐藤美香氏もリモートで参加した

訓練の方法・避難経路についての打ち合わせ。

参 加：15名（保育園、NPO、郵便局、行政等）

④まめまめ保育園の避難訓練（防災士郵便局長同伴）

日 時：令和3年12月20日（月）9:30～11:00

会 場：まめまめ保育園

内 容：まめまめ保育園→うしちゃん多賀城緑地公園に散歩中の地震発生を想定し、公園近くの小野屋ホテル、株式会社共和電業に垂直避難をした。

参 加：31名参加（保育園、NPO、郵便局、行政等）

成 果：新しいセクターである郵便局と協働できた。

他セクターと未就学児の防災について互いの知識を共有し、アイデアを出した。

●①～④共通

- ・主催：アイリンプループロジェクト
- ・共催：多賀城市民活動サポートセンター

2）あいりちゃん（フランスギク）植栽活動

日 時：令和3年11月29日（月）13:30～14:30

会 場：多賀城市民活動サポートセンター駐輪場前花壇

内 容：アイリンプループロジェクトの取り組みの一環として、あいりちゃん（フランスギク）の植栽活動を実施。

参 加：6名

3）親子でつくろう！キラキラ光る防災バッグづくり

日 時：令和4年2月11日（金）10:00～11:00

会 場：オンライン（Zoom）

内 容：

- ・暗闇で光る反射シートを貼ってオリジナルの防災バッグをつくった。
- ・防災士から防災についてのアドバイスを聞き、作成した防災バッグに何を入れるかを全体で話した。

主 催：アイリンプループロジェクト

共 催：多賀城市民活動サポートセンター

協 力：郵便局長（多賀城・利府）

参 加：17名（親7名、子ども10名）

成 果：楽しみながら防災の理解を深めることができた。



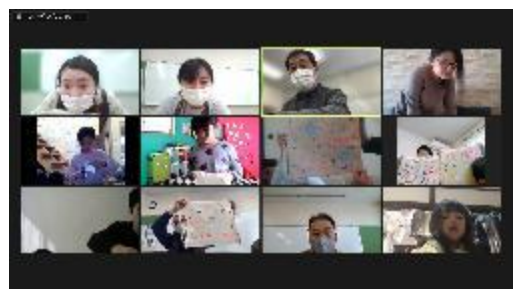
2. (2) -1) ④ 防災士の郵便局長と危険箇所を確認しながら歩いた



2. (2) -1) ④ 散歩中の近くの株式会社共和電業でも避難訓練をした



2. (2) -2) 佐藤美香氏と一緒にあいりちゃんの話の聞きながら植栽した

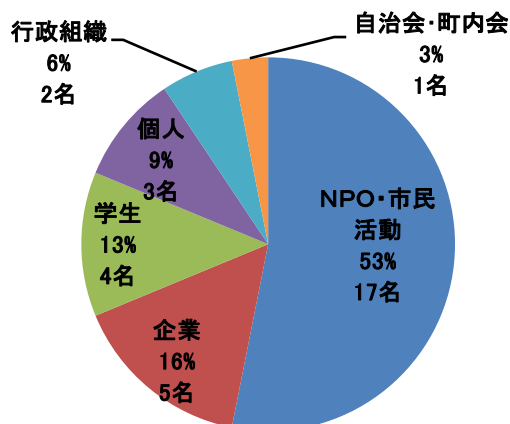


2. (2) -3) 防災バッグが完成した人から完成したバッグを全体に披露した

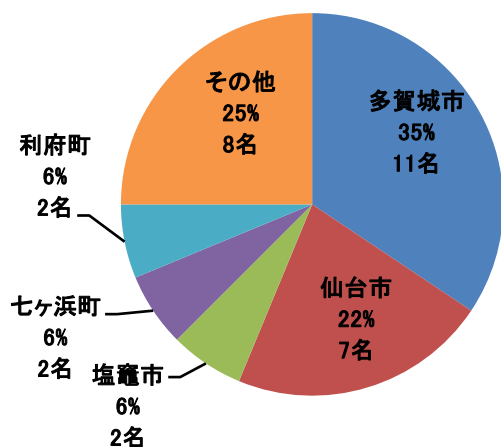
アンケート集計結果

1. (1) Tagajo Sustainable Relationship 2021 (32 件回収／71 名参加)

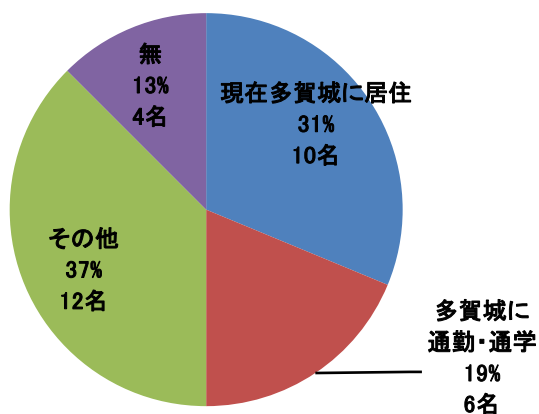
①参加者の所属



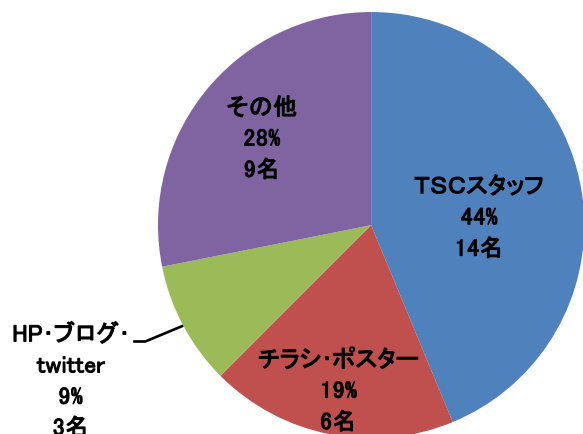
②住所



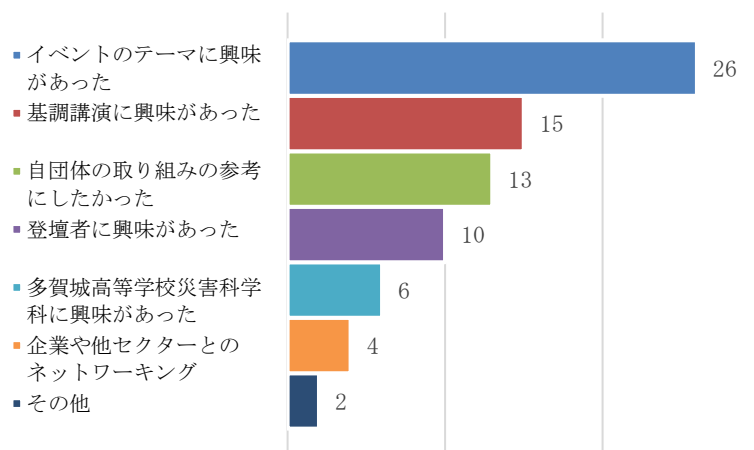
③多賀城との関わり



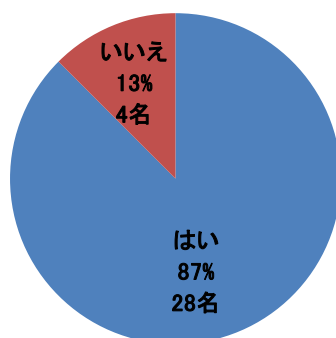
④イベントを知ったきっかけ



⑤参加の動機 ※複数回答



⑥参加の目的は達成できたか



○理由（抜粋）

- ・ 普段何気なく生活しているだけでは分からなかった「気づき」を発見することができ、今後の生活に対する意識が変わるきっかけとなった。
- ・ 転勤者がマイノリティだということは考えたことがなかった。
- ・ 参加者が多様化していて、同じ場にいらることを嬉しく思った。意外にも、みんな日常からの地域のつながりについて触れていて、いろいろな立場の人と同じ目標を共有できた。
- ・ 自分自身の防災に対する考えを改めるきっかけになりました。

⑦一番心に残ったこと（抜粋）

- ・合理的配慮の大切さ。日常の延長線上に非日常（災害）がある。
- ・「つながることが大切」という、モリス氏の講演のまとめ。
- ・私自身は外国人をめぐる課題のことに関心があるのですが、障害者や転勤族などの方々が抱える課題と共通することが多いということがわかり興味深かったです。
- ・グループワークのなかで、国籍であったり性別であったり、見た目と中身が自分自身で捉えているものと違うということが印象的でした。
- ・相手を知る、言葉がけ、日常から繋がること
- ・自分自身も県外からの転入者であり、転勤族（転入者）の問題は他人ごとではないということ。
- ・特別な事ではなく、誰でもがマイノリティになり得る。そして人がつながる事の大切さ。
- ・災害時には周りとの関わりやコミュニケーションを大切にすること。
- ・困り事を想像することも大切、そして当事者に聞くのが1番早い。
- ・マイノリティと言われている方々の心の内。いつか自分がそうなった時に皆さんの様に思いを伝える事が出来るか？
- ・「合理配慮」 マイノリティに対する発想に留まらない互いを活かし補う誰にでもできる発想で、それによるコミュニケーションは「互いを知ること」「互いを想像すること」につながり、形式的に行うことではなく「身につくこと（日常）」で非日常への備え・力になると感じた。

⑧今回のイベントに参加して、感想やアイデア、今後できると感じたこと（抜粋）

- ・小さなことですが、近所の方と触れ合うことがまずできることだと思いました。
- ・避難所で急に外国人の方に会ったときにアタフタしないよう、常日頃からご近所さんや散歩のときに会った方にこちらから声をかけようと思いました。やはり、ふだんの関係（つながり）が一番だと思いました。
- ・一つの話題にいろんな意見が出てきてそれに対して納得することもあればできないこともあり議論というものの難しさを改めて感じました。
- ・震災の経験を人に話す事は大切とあらためて感じた。

⑨登壇したゲスト、多賀城高等学校災害科学科の生徒、TSCへの質問など（抜粋）

- ・学校やセンター主催または共催で、自治会の方や障害者や外国人と一緒に災害避難訓練を行った経験はありますか？また、自治会に出向いて、災害訓練を行ったことはありますか？
- ・とても素敵な取り組みをされているなあとずっと興味を持っており、初めての参加となりました。（オンラインだと、地域外からの参加の敷居が低く感じます。）
- ・ゲスト・多高の皆さんへ：困った（助けてほしい）時以外に、近所や地域との関わりやコミュニケーションはどんなことがありますか。またそれはどんな会話ですか。 モリス先生へ：多賀城の地域性・市民性など特徴的だと感じることはありますか。
- ・話し合った内容は多岐にわたり良かったと思います。今後どのように深めていくかが問われてくると思います。

1. (2) 水辺の防災SUP体験×ミニ防災まちあるき

(19件回収/19名参加 ※多賀城高等学校生徒8名・先生1名含む)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
9名	2名	1名	2名	3名	2名	0名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
7名	2名	2名	0名	0名	3名	5名

③イベントを知ったきっかけ(複数回答可)

TSC スタッフ	チラシ	HP・ブログ	知人・友人	広報多賀城	その他
4名	4名	1名	4名	3名	3名

○チラシ・ポスターの場所：学校

○その他の記載内容：先生

④満足度(5段階評価)

5	4	3	2	1
15名	4名	0名	0名	0名

○理由(抜粋)

- ・SUP体験は普段出来ない貴重な体験なのでとてもいい経験になりました。
- ・地元にながら、地元のことを知らなかった。それを体験の中で知ることができた。
- ・「水辺の防災」の重要性を知ることができた。
- ・SUPができて、水上の難しさを知った。知識をつけることができた。

⑤本日のイベントに参加して得られたこと・感想など(抜粋)

- ・30cmの高さに津波の表示をしていたことは珍しく、参考になりました。
- ・末の松山の駐車場に10年前に付いた津波の痕跡が今も残って保存されていることに驚きました。
- ・まちを歩いていくと、だんだんと津波痕跡の位置が高くなっていくことがよく分かりました！今のハザードマップと照らし合わせながら今後の津波災害への備えを考えるようにすると教訓を活かせると思いました！！
- ・津波被災地に住む人間として水の事を理解し共に生きる考えを持つべきと思いました。まち歩きは定期的に開催いただき、多賀城の文化として市外の方にもどんどん広めていただければと思います。
- ・普段住んでいるまちでも見えていない所がいっぱいあった。水のこわさだけではなく、楽しさを知ること。初めてのSUP良かったです。
- ・まちに津波の到達地点の表示があるのを初めて知りました。
- ・普段見過ぎていた津波到達線の標識に改めて注目してみて、当時の様子が蘇ってきた。当時の写真を見ながら現地を歩くのは良い方法だ。歩道橋が避難場所として有効だったことはもっと知られていて良いと思う。
- ・太見さんの「気絶する」「三半規管に水が入って・・・」の話を聞いてSUPをやると、水に日頃から親しんでおくことがいかに大切か、身をしみて分かりました。

1. (3) 多賀城みんなの防災ワークショップ (18件回収/21名参加)

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
1名	0名	1名	3名	3名	6名	4名	0名

②住所

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
14名	1名	1名	1名	0名	1名	0名

③イベントを知ったきっかけ(複数回答可)

TSC スタッフ	チラシ	HP・ブログ	知人・友人	広報多賀城	その他
15名	3名	1名	1名	0名	2名

④満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
14名	3名	1名	0名	0名

○理由

- ・非常に参考になりました。活用方法は？
- ・どうしても時間が足りないですが、いろいろな意見がきけて良かったです。

⑤グループワークなどで心に残った話や取り組むべき課題、アイデアなど印象に残っているもの(抜粋)

- ・外国語への準備。夜間訓練。
- ・夏祭りで防災ゲームをしている地区の話が印象に残りました。
- ・個人情報に壁があって進みづらいことが多いのだなと気付かされた(難点)
- ・取り残さないゼッケンで「老人」「子ども」に関し情報がそもそも足りない。そこで民生委員とのコミュニケーションが大事ではとグループ内で出しました。
- ・日常のコミュニケーションの大切さ!! 見える化の大切さ!!
- ・参加された皆さんが、とても主体的に考え、お話されていた姿がとても印象的でした。
- ・支援者の個人情報を、どの様にすることが問題ということを考えました。
- ・リスク意識とコミュニケーションの大切。

⑥イベントに参加して得られたこと、感想など(抜粋)

- ・情報収集の格差が広がっている中で、どう周知していくか、見出していけないと感じました。ネット、SNSでも届いていないこともたくさん・・・
- ・町内会として準備すべき事に気付きました。
- ・住むところ、体験等で大きく考え方が違うこと。
- ・地域の人とのつながりをどうつくっていくか難しい問題です。
- ・地域の皆さんの防災についての実際の取り組みを「生の声」でできたことが有意義でした。
- ・地震の時のこと、多少時間のある津波、水害のことを分けて考える必要がある。

2. (1) - 3) ②多文化共生事業 日本の正月あそび

(1) 日本人参加者(サポーター、多賀城高等学校語学研究部、多賀城市国際交流協会) (17件回収/19名参加)

①満足度 (5段階評価)

5	4	3	2	1
14名	3名	0名	0名	0名

②今回の交流会について、意見・感想(抜粋)

- ・実習生の方とも楽しく交流できてよかったと思いました。
- ・ローテーションだったおかげで、全員と交流できてよかった。
- ・一緒に遊びをすることで、距離がとても近くなったと感じました。ミャンマーの皆さんが楽しそうだったの

が良かったです。

- ・多文化共生においてこのような事業はとても大事なことだと思います。

③今回の交流会のように、地域に暮らす外国人技能実習生と交流することについて、どう思うか。また、どんなことをすると思うか。(抜粋)

- ・お互いの仲を深めたり国について知ることのできるの良いと思います。
- ・とてもよかった。実際に会わないと、地域に暮らしていることがわからないことを実感しました。
- ・一方的な文化交流では無く、双方向の交流になれば更に良い！！
- ・今後も定期的に交流したいです。
- ・積極的に交流するべきだと思います。例えば、日本の遊びもいいですが。逆にミャンマーの事に触れてみるのも面白いと思います。
- ・自分から外国へ行かなくても、色々な方と交流することができるので、とても良い取り組みだと思います。コロナが落ちついたら、一緒に料理などをすると楽しいのではないかな。

④サポーターとして、地域に暮らす外国人とどう関わっていききたいか(複数回答可)

○なにか企画したい！(4名)

→具体的なアイデアがあればおしえてください！(抜粋)

- ・今日をキッカケに日本の四季のサイクルで(季節ごとに)まずは集まる。
- ・3カ月に1回とか座談会？！
- ・定期的に続けていければ、また大代地区の方をもっと加えていければ、もっと交流が深まると思います
- ・生活に関する事業
- ・公民館のイベント(音楽会・お祭り等)に招待する。
- ・積極的に関わって行きたい！！日本(そして多賀城)に来て良かったと思って帰国して欲しい。

○今回のようなイベントがあれば参加したい(14人)

○その他の関わり方(0人)

(2) 技能実習生 (12件回収/12名参加)

①満足度(5段階評価)

5	4	3	2	1
4名	8名	0名	0名	0名

②今回の交流会について、ご意見・ご感想(抜粋)

- ・交流会について私の感想は日本人たちと親しくなれると思います。楽しかったです。日本人たちがミャンマー人に対してここまで大切に思ってくれるのは、うれしくてたまりません。
- ・日本人たちと遊ぶのが一番楽しかったです。漢字を書く(書道)のは難しかったが、とても面白かった。機会があればまた再会したいと思います。
- ・日本人たちと楽しく遊びました。漢字を書くのは難しくて緊張しました。もう一度頑張って書きたいです。
- ・日本人の友達がたくさんできて楽しかったです
- ・とても良いと思います。気分転換になって楽しかったです。
- ・今回の交流会で漢字を書くのが楽しくて、「福笑い」と「かるた」は面白くて一番楽しかったです。

③今回の交流会のように、地域に暮らす日本人と交流することについて、どう思うか(抜粋)

- ・新しいゲームをたくさん知りました。日本人たちとも仲良く交流出来ました。
- ・日本人は親切でとても親しみやすいです。

- ・とても良いと思います。面白くて、楽しいことがたくさんあり、いろいろな知識や日本の文化も勉強出来ました。日本の文化が大好きです。
- ・同じ地域に暮らす日本人たちと親しくなるのは役に立ちます。
- ・今回のような交流会を時々行ってくれたら、近所の人たちと仲良くできるのでいい機会だと思います。
- ・日本人と付き合えるこの交流会はとても良いと思います。家族のような暖かさを感じられて感動しました。
- ・日本人と日本語で話ができ、新しい言葉もたくさん勉強出来ましたので、とてもいいと思います。

④日本人とさらに交流を深めるために、これからどんなことをしてみたいか（抜粋）

- ・日本語をもっと勉強し、日本人と仲良く色々な話をしたいです。日本の文化や習慣などをもっと学びたいです。
- ・日本とミャンマーの文化交流や知識交換をしたいです。
- ・これからも日本人たちと話をし、文化や知識の交流をしたいです。
- ・日本人たちと色々な話をしたり、母国の食べ物を紹介したり、ゲームしたり、文化交流したりしてみたいです。旅行もしたいです。
- ・今回のように日本人と会って話したり、遊んだりするのはいいことでしたので交流会をもっと行って欲しいです。
- ・運動会、料理会などをしたいです。

2. (2) - 3) 親子でつくろう！キラキラ光る防災バッグづくり 5件回収/7組参加

①本日のイベントを何で知ったか。（複数回答可）（人）

TSCスタッフ	チラシ	広報多賀城	多賀城市 Facebook	その他
1名	1名	1名	1名	1名

○チラシの場所→：多賀城市役所

②満足度（5段階評価）

5	4	3	2	1
2名	3名	0名	0名	0名

○理由（抜粋）

- ・初オンラインでちょっと大変かなと思ったけど、分かりやすくメールや宅急便で送ってくれた資料で何とか家でも楽しく出来ました。
- ・子どもたちが喜んでいて。中に入れる物を相談できた。

③防災について困っていること・不安なこと（抜粋）

- ・すぐに逃げられるか不安。日頃の訓練や防災意識はとても大切だと思います。
- ・防災については、日頃から準備しているつもりですが、防災士という資格を郵便局長の方々がもっていたりするの初めて知りました。日々アップデートしなきゃいけないことだと今回参加して気付かされました。

④感想（抜粋）

- ・楽しい時間を過ごしながら、防災について勉強出来ました！
- ・防災の話もためになりましたが、単純に子ども達は作業を楽しんでいました。様々な形の光るパーツが嬉しかったようです。
- ・防災のことを話しながら楽しく作ることが出来ました。
- ・作ったバッグを持って集まる会を開いてほしいです。

* 添付資料 ☐ チラシ ☐ 当日配付資料

(4) 情報発信事業 1) フリーペーパー「tag」発行

目 的	○市民が地域づくりについての幅広い情報を得られる環境を整え、地域活動に新たに参画する人が増えることを目的とする。 ○市民が市民活動に触れる機会を増やし、市民活動に興味を持つ人が増えることを目的とする。 ○各プロジェクトや連携に関する発信を行うことで、活動の幅が広がり、成果が上がる団体が増えることを目的とする。
背 景	○平成25年1月から発行してきた「tag」は、地域づくりに関するフリーペーパーとして定着を図りつつ、地域の魅力アップや課題解決に向けて働きかけてきた。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で、市民活動においては事業の中止や活動の縮小を余儀なくされている状況、また情報発信の面では紙媒体や人を介した情報流通が滞っている状況が続いている。これらを踏まえ、コロナ禍においても市民活動が衰退しないよう、さまざまな情報を市民に提供し、社会・地域の課題解決を進めるきっかけになるような企画を中心に据え、記事を練り上げる必要性を感じる。 ○「市民活動サポートセンターが発行している情報誌である」ということを念頭に置き、「多賀城をもっとよいまちにしていきたい」という人・団体・取り組みを取り上げ、活動が促進されるような記事、市民が参画したいと感じるような記事にすることで、地域づくりに関わる人材・資源を増やしていくことを目標とする。
対 象	○活動者（市民活動や地域活動に関して情報を得にくい環境にある方） ○無関心層、潜在的活動者（活動に関心のない方、活動のきっかけがつかめない方） ○受益者（コロナ禍で生活等に困りごとを抱えている方）
成果目標	○市民活動に対する意識が変化し、アクションを起こす市民・団体を生み出す。 ○市民が市民活動にふれる機会を増やすために、配置場所を15ヵ所増やす。
成 果	○掲載団体から「活動の幅を広げることができた」という声をいただいたほか、記事を参考にして団体や市民の活動に活かしてもらえた。 ○病院、郵便局、コンビニエンスストアなど、新規配置場所を22ヵ所増やすことができた、より多様な層の人が市民活動に触れる機会を増やすことができた。
次年度に 向けた課題	○TSC利用者アンケートの回答で、「tag」に関する設問で「利用なし」「初めて知った」の割合が前年度の52.0%から60.2%に増加した。こうした状況を踏まえ、より多くの市民に届けるための工夫、周知、利用促進を行っていくことが必要。 ○「tag」を読んだ市民から、感想・意見などをの声を集めることがあまりできなかったため、配架先や取材先へのヒアリングや講座参加者アンケートを通して市民の動きをしっかりと把握していきたい。 ○市民活動・地域活動のみならず地域づくりに関わる多様なセクターの取り組みを紹介し、セクターを越えた連携のきっかけをつくる。

実施概況（４）情報発信事業 １）フリーペーパー「tag」発行

１．発行形態

- 発行月：令和3年6月、9月、12月、令和4年3月
- 発行頻度：3ヵ月に1回
- 様式：A3二つ折り 全4ページ 両面カラー
- 発行部数：2,000部
- 誌面デザイン：合同会社 nekiwa、印刷は外注

２．内 容（各号の詳細は別項を参照）

- 1 ページ（表紙）
 - ・多賀城の地域資源（人・団体・できごと・もの）を紹介
- 2 ページ
 - ・特集1「みんなで考える多賀城のこと」 … 地域の課題を提示し、解決に取り組む団体を紹介
- 3 ページ
 - ・特集2「市民活動はじまりのはじまり」 … 市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介
 - ・ミニコーナー … 団体運営や活動に役立つツールや情報を掲載
- 4 ページ
 - ・たがさぼからのお知らせ … T S Cのサービスやイベント・講座などを紹介
 - ・ヒント from “たがさぼ Press” … T S Cのブログ記事を簡単に紹介

３．配架先（号別部数及び配架箇所数は別項を参照）

- 多賀城市内及び周辺市町公共施設
- 多賀城市内民間施設・店舗（病院、福祉施設、郵便局等）
- 県内外NPO支援センター
- マスコミ
- 学校
- 行政機関

4. 各号の掲載内容

(1) 94号(6月発行・夏号)

○1 ページ(表紙)

- 「自分と違うって面白いこと」
- ・紹介団体：ともだち・カワン・コミュニティ
- ・内容：令和3年1月16日に行われた「ともだち・カワン・カフェ」について。イベントの目的や活動への想いを紹介。

○2 ページ

- みんなで考える多賀城のこと
- 「顔の見える関係づくりで暮らしやすいまちに」
- ・紹介団体：大代地区公民館
- ・内容：令和2年度に大代地区公民館で開催された多文化共生事業について。事業を行ったきっかけや想いを紹介。

○3 ページ

- 市民活動はじまりのはじまり
- 「町内会新聞で見つける温故知新」
- ・紹介団体：旭ヶ岡町内会
- ・内容：令和3年4月に第1号を発行した町内会新聞について。作成することになったきっかけや想いを紹介。

●お役立ちアラカルト

- ・「やさしい日本語」に言い換えてみよう

○4 ページ

- たがさばからのお知らせ
- ・市民活動お役立ち情報をリニューアルしました。
- ヒント from “たがさばPress”
- ・多賀城の多文化共生を考える 日本語サポーター講座！
- ・おらいのまち(町内会)新聞をつくるコツ～まちの魅力を紙面に載せて～を開催しました。
- ・ブックレビュー『ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ』



94号 1ページ(表紙)



94号 2ページ



94号 3・4ページ

(2) 95号(9月発行・秋号)

○1 ページ(表紙)

- 「受け継がれるエステパンの想い」
- ・紹介団体：多賀城市ジュニアリーダー・エステパン
- ・内容：現在のエステパンを支える立場になっている元エステパン隊員の想いや今後の展望、現在の活動内容の紹介。

○2 ページ

- みんなで考える多賀城のこと
- 「一代限りの命を見守り、共存できる社会づくりへ」
- ・紹介団体：わんにゃん輪っか
- ・内容：動物保護活動・TNR活動・ボランティアを行っている団体。活動をはじめたきっかけ、想いの紹介。

○3 ページ

- 市民活動はじまりのはじまり
- 「化学物質に困っている人たちの羽休め場をめぐして」
- ・紹介団体：コトリじかん。
- ・内容：化学物質過敏症の当事者同士の交流の場づくりをしている団体。活動をはじめたきっかけ、想いの紹介。
- お役立ちアラカルト
- ・ボランティアはじめませんか？

○4 ページ

- たがさぼからのお知らせ
- ・たがさぼのYouTubeチャンネルをぜひご覧ください！
- ヒント from たがさぼ Press
- ・わが家に保護猫がやってくる！？～譲渡会編～
- ・学生が、学生のために。安心して学べるまちづくりを
- ・【レポート】化学物質過敏症を考える～TSR会議 2020⑥



95号 1ページ(表紙)



95号 2ページ



95号 3・4ページ

(3) 96号(12月発行・冬号)

〇1 ページ(表紙)

●「南門復元に対する市民の想い」

・紹介団体：NPOゲートシティ多賀城

多賀城南門復元の実現を目指す市民の会

コミュニティカフェ「タガの柵」

・内容：南門復元にかかわる団体を通して、南門とその復元に対する市民の想い、活動への想いを紹介。

〇2 ページ

●みんなで考える多賀城のこと

「聴覚障害者の困りごとと心に向け生まれる配慮」

・紹介団体：多賀城市身体障害者福祉協会聴覚部

・内容：団体の話を通して、ユニバーサルな社会の実現のために必要なことを考えるきっかけをつくる。

〇3 ページ

●市民活動はじまりのはじまり

「毛糸がつなぐ心と心～編み物が生きる目標に 支え合う力に～」

・紹介団体：一般社団法人 Yarn Alive (ヤーン・アライブ)

・内容：東日本大震災後のコミュニティの場として手編みを習う活動が、メンバーが制作した編み物を寄付する活動にまで進展した団体。活動の紹介、活動をはじめたきっかけ、想いを紹介。

●お役立ちアラカルト

・寄付月間一欲しい未来へ、寄付を贈ろう。一

〇4 ページ

●たがさばからのお知らせ

・「たがさば文庫」のご案内

●ヒント from たがさば Press

・地域課題を考える「ユニバーサルなまち」とは?～TSR会議 2020③

・毛糸で紡ぐコミュニティ、Yarn Alive ハウスに行ってきた

・手話サークルってどんなところ?



96号 1ページ(表紙)



96号 2ページ



96号 3・4ページ

(4) 97号 (3月発行・春号)

○1 ページ (表紙)

- 「咲かせよう、防災の種～子どもたちの未来を守るために～」
 - ・紹介団体：こども防災の日をつくる会
 - ・内容：アイリンプルプロジェクトと防災士の資格を持つ郵便局長が連携して行っている未就学時の防災活動、意識向上のための取り組みを紹介。

○2 ページ

- みんなで考える多賀城のこと
 - 「知ることからはじまる、困っている人への支援のつながり」
 - ・紹介団体：NPO法人いのちのパン
 - 高崎こども食堂らっこ広場
 - 多賀城市保健福祉部生活支援課
 - 社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会
 - ・内容：データを用いて多賀城市の貧困の現状を伝え、貧困問題を考えるきっかけをつくる。

○3 ページ

- 市民活動はじまりのはじまり
 - 「東北一小さい町の、子どもの心のよりどころ」
 - ・紹介団体：地球子屋 (てらこや)
 - ・内容：七ヶ浜の交流施設「みんなの家 きずなハウス」閉所後、後を継ぐように生まれた団体。活動内容や活動をはじめたきっかけ、想いを紹介。

●お役立ちアラカルト

- ・交流と防災・減災拠点「さんみらい多賀城イベントプラザ (STEP)」

○4 ページ

- たがさばからのお知らせ
 - ・市民活動団体、地域づくりに取りくむ団体を応援！ (事務用ブース/事務用ロッカー/レターケース)
- ヒント from たがさば Press
 - ・未就学児の防災を地域で考える一第2回こども防災の日をつくる会—
 - ・たがさばで「あいりちゃん」(フランスギク) の植栽をしました
 - ・フードボックスへのご協力、ありがとうございました！



97号 1ページ (表紙)



97号 2ページ



97号 3・4ページ

５．配架部数及び配架個所数

配架部数										
号数	館内	公共 施設	民間 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	その他	配架部 数合計	発行 部数
94号（夏号）	200	594	389	165	40	120	80	126	1,714	2,000
95号（秋号）	200	594	389	165	40	120	80	126	1,714	2,000
96号（冬号）	200	594	445	165	40	120	80	126	1,770	2,000
97号（春号）	200	594	445	165	40	120	80	126	1,770	2,000
配架部数計	800	2,376	1,668	660	160	480	320	504	6,968	8,000
配架個所・配架部数 前年度末比										
号数	館内	公共 施設	民間 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	その他	配架部 数合計	発行 部数
本年度末（97号）										
配架部数	200	594	445	165	40	120	80	126	1,770	2,000
配架個所数		65	56	51	21	20	6	18	237	
前年度末（93号）										
配架部数	200	594	269	165	40	120	80	126	1,594	2,000
配架個所数		65	34	51	21	20	6	18	215	
配架部数増減	±0	±0	+176	±0	±0	±0	±0	±0	+176	±0
配架個所数増減	±0	±0	+22	±0	±0	±0	±0	±0	+22	±0

* 添付資料 □ 「tag」94号～97号

(4) 情報発信事業 2) コロナ禍における情報発信事業

目 的	○市民が市民活動に触れる機会を増やし、市民活動に興味を持つ人が増えることを目的とする。 ○市民が市民活動の情報を得ることができる環境を整え、市民活動に参画しようとする人が増えることを目的とする。 ○活動を始めようとしている市民が、そのために必要なノウハウを得ることができる環境を整え、活動への想いを整理し、準備が完了する人が増えることを目的とする。
背 景	○新型コロナウイルス感染症の拡大によって、市民が市民活動の情報を得て、さらに活動に参画する機会が減少し、ひいては市民活動全体の衰退にもつながる可能性がある。 ○感染予防対策として厚生労働省より提言された「新しい生活様式」において、動画配信やウェブ会議など新たな情報収集ツール・コミュニケーションツールも活用の幅が広がっている。これらは、単に新型コロナウイルス感染拡大防止という観点だけでなく、これまでの直接集まる講座や会議には参加できなかった方（遠方の方、時間が取れない方等）が新たに参画する機会にもなっている。 ○T S Cとしても、動画コンテンツを情報発信ツールとして活用することで、市民活動の活性化を図ると同時に、市民が市民活動を身近に感じられる状況をつくる。
対 象	○活動者（市民活動や地域活動に関して情報を得にくい環境にある方） ○無関心層、潜在的活動者（活動に関心のない方、活動のきっかけがつかめない方） ○受益者（コロナ禍で生活等に困りごとを抱えている方）
成果目標	○動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得るためのアクションとして、YouTubeのチャンネル登録をする人を19名以上（前年度比100%以上）生み出す。 ○動画コンテンツを通して市民活動に興味を持ち、市民活動に参画する人、参画する準備をする人を10名以上（1動画1名が目安）生み出す。T S C主催講座参加者へのアンケート、利用者アンケートで把握する。
成 果	○本年度中、新たにチャンネル登録を行ったのは12名。定期的な視聴を通して市民活動・地域活動やT S Cについて知るというアクションを起こす人が生まれた。 ○市民活動に参画した人、参画する準備をした人は確認できていないが、T S Cの施設紹介動画、事業紹介動画を通して、活動を始めようとしている市民に情報を提供することができた。
次年度に向けた課題	○チャンネル登録者は成果目標の63.1%であり、まだ認知度は十分とは言えない。さらなる周知を図り、より多くの市民にとっての市民活動に関する情報を得る媒体として定着させていく。 ○動画コンテンツを見た市民の感想や意見などを収集できなかったため、T S C主催講座参加者へのアンケートや利用者アンケートなどで把握し、今後の番組づくりに活かしていきたい。 ○企画力を向上させることで、動画を見た市民に、市民活動に対する意識の変化をもたらすような発信を行う。

実施概況（４）情報発信事業 ２）コロナ禍における情報発信事業

●YouTube「多賀城市民活動サポートセンターチャンネル」

- ・チャンネル登録者：31名（令和4年3月末時点）
- ・動画数：7本（令和3年度）

○投稿動画

1. 施設紹介① たがさぼってどんなところ？

- ・投稿日：令和3年6月20日（日）
- ・内容：TSC施設・機能紹介
（チャシラック、受付、たがさぼ文庫、会議室）
- ・再生回数：165回（令和4年3月末時点）

2. 施設紹介② たがさぼをのぞいてみよう！

- ・投稿日：令和3年8月15日（日）
- ・内容：TSC施設・機能紹介
（パソコン、印刷作業室、事務用ブース、事務用ロッカー、レターケース、フリースペース）
- ・再生回数：118回（令和4年3月末時点）

3. 事業紹介① 昭和初期の旭ヶ岡にタイムトラベル！

- ・投稿日：令和3年11月29日（月）
- ・内容：TSC事業「すえち少年になってまちを歩こう in 旭ヶ岡」（令和3年5月22日開催）の様子
- ・再生回数：75回（令和4年3月末時点）



1. 施設紹介動画①タイトル画面



1. 「会議室」の紹介の様子



2. 施設紹介動画②タイトル画面



2. 「事務用ロッカー」紹介の様子



3. 事業紹介動画①タイトル画面

4. 事業紹介② 自治会・町内会 わがまち情報交換会 ～水辺の防災編～

- ・投稿日：令和4年2月20日（日）
- ・内容：TSC事業「多賀城 自治会・町内会 わがまち情報交換会」（令和3年10月22日開催）より、鶴ヶ谷親和会、東田中南自治会、新田三区の発表の様子
- ・再生回数：38回（令和4年3月末時点）

5. 団体紹介 カワイイ雑貨にこめられた想いを紹介します！

- ・投稿日：令和4年2月27日（日）
- ・内容：TSC事業「たがさぼのクリスマス雑貨市」（令和3年12月11日開催）に出展した団体の活動内容、想いの紹介
- ・紹介団体：
 - ・NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ
 - ・多賀城市地域活動支援センター コスモスホール
 - ・多賀城高等学校語学研究部
 - ・本格遠赤焙煎珈琲まめ福
 - ・NPO法人創の会 メルヴェイユ仙台
 - ・珈琲豆と手しごとのモノ kyuu
 - ・生涯学習100年構想実践委員会
- ・再生回数：31回（令和4年3月末時点）



3. 旭ヶ岡のまちあるきの様子



4. 事業紹介動画②タイトル画面



4. 自治会・町内会の好事例の発表の様子



5. 団体紹介動画タイトル画面



5. 活動内容、想いを伺った

6. 事業紹介③ 自治会・町内会 わがまち情報交換会

～コロナ禍の情報発信編～

- ・投稿日：令和4年3月21日（月）
- ・内容：TSC事業「多賀城 自治会・町内会 わがまち情報交換会」（令和3年10月22日開催）より、旭ヶ岡町内会、七ヶ浜町湊浜区、高橋東二区町内会の発表の様子
- ・再生回数：19回（令和4年3月末時点）



6. 事業紹介動画③タイトル画面



6. 自治会・町内会の好事例の発表の様子

7. 事業紹介④ 自治会・町内会 わがまち情報交換会

～地域の人材発掘編～

- ・投稿日：令和4年3月28日（月）
- ・内容：TSC事業「多賀城 自治会・町内会 わがまち情報交換会」（令和3年10月22日開催）より、城南自治会、高橋北区町内会の発表の様子
- ・再生回数：9回（令和4年3月末時点）



7. 事業紹介動画④タイトル画面



7. 自治会・町内会の好事例の発表の様子

Ⅱ

令和 4 年度事業計画

大項目	対象	平成31年度末 現状（○）と課題（●）	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和4年度末に 目指す姿
		主なトピック	1. コロナ禍における市民活動・地域活動の状況に沿ったプログラムを実施した 2. Webを活用した情報発信を強化した 3. 具体的な課題に多様な主体で協力して取り組んだ	1. コロナ禍でも、団体や市民に必要とされている情報を届け続けた 2. 市民活動の多様な入口を示して、活動につなげることができた 3. 多様な主体による連携が広がり、実践につながった		
		利用状況	1. 総利用者数 のべ15,520人 2. 相談対応件数 のべ363件 3. 配架情報総数 1,224種類 4. 34本の企画を実施し、のべ1,416人、90団体が参加（共催含む） 5. 4団体が立ち上げ・法人化 6. 団体情報は12団体増え2,192団体 2市3町では9団体増えて316団体	1. 総利用者数 のべ18,893人 2. 相談対応件数 のべ358件 3. 配架情報総数 1,416種類 4. 67本の企画を実施し、のべ1,098人、78団体が参加（共催含む） 5. 7団体が立ち上げ・法人化に至る 6. 団体情報は55団体増えて2,247団体 二市三町では18団体増えて334団体		
	市民	○市民活動やボランティアを体験する場をつくることができた ○事業参加をきっかけに、課題解決につながるアクションを起こした人が増加し、またコミュニティも生まれた ○市内外のイベントに出展し、市民活動への理解を広めることができた ●TSCの認知度が低く、また市民活動に興味関心のない人の割合が高い	・地域課題を考える場に参加する ・現在活動している方の事例から学び、活動の入り口を見つける ○雑貨市出展団体告知のためにInstagramを新設し、1,500件のインプレッションがあった ⇒市民活動や活動者の想いを知る機会を創出した ○「小さなアクション講座」の参加者5人が自分なりの課題を見つけることができた ⇒何かやりたい人の想いを深掘りした ●「小さなアクション講座」「いちから塾」受講者13人のうち、アクションを起こしたのは1人 ⇒何かやりたい人の掘り起こしが不十分	・想いの整理から地域課題へ視野を広げていく ・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす ○活動立ち上げ、ボランティア、支援など市民活動への関わり方を多く示したことで関心を持つ人が増え、アクションも生まれた ⇒いちから塾等参加者のうち、寄付1人、ボランティア参加3団体のべ5人、1町内会がフードボックス設置 雑貨市来場者アンケート回答者の70%が今後も支援につながる買い物がしたいと回答 雑貨市来場者アンケートの約3割が新規来場者 ●活動に関わるさらなる後押しが必要	・想いの整理から地域課題へ視野を広げていく 【主な取り組み】いちから塾等 ・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす 【主な取り組み】雑貨市等	◎社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ人が増えている ◎多くの市民が、何らかの形で地域での活動に関わっている
	NPO	○情報発信の支援に重点を置き、講座などの成果を活かした団体が多かった ○団体運営に関する相談が高い割合を占めるようになっている ●担い手不足、資金調達などの課題を持つ団体が多い	・自団体の強み、弱みを分析する力を高め、実際に分析を行う ○フース利用団体などに対しインキュベート相談などと連携して継続した支援ができた ⇒人材の発掘や広報ツールの開発などの具体的な改善につながった ●日常的に相談対応できるような体制をさらに整え、団体の運営力がアップするタイミングにあわせた支援を行う	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図る ・団体が課題に対してのステップアップをより図れるようになる ○継続した支援により、チラシやFacebook等による情報発信や会員増など運営課題解決に向けた具体的なアクションが生まれた ●他団体と連携して課題解決に取り組むには至っていない	・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図る ・他団体や他セクターと連携し地域課題解決に取り組むために必要な力が培われている 【主な取り組み】NPO運営パワーアップ事業	◎団体の強み、弱みを自己分析し、発信できている ◎連携の対象として、信頼感が増している
	地域の担い手の育成	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ●自治会・町内会活動の担い手が不足している	・自分の自治会、町内会の現状を知る ・地域の現状や未来について、地域の多くの人が参加できる体制を整える ※TSCとして制度改正後の地域の現状を把握している、関わり方が見えてきている ○3町内会が新たに新聞発行に取り組み始めた⇒地域で当たり前と思っているものを見つけ出し、価値づけできた ●企業・団体とのつながりを広げること ●町内会同士の横のつながりをつくること	・現在の自治会・町内会の枠を超えて、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・地域内の情報発信を強化する中から、活動への関わり方が広がっている ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につなげる ○情報交換会やブログ「たがさぼPress」で自治会・町内会同士で課題や取り組みの共有ができ、新しいアクションが生まれた ⇒新聞発行、まちあるきの実施 ○多様な主体で防災について考える場や、大学の講義などを通して、セクターを越えた課題や取り組みの共有ができた ●自治会・町内会の現状の枠を超えたアクションには至っていない	・各地区の取り組みを共有することによって、課題解決に向けた新たなアクションを生み出す ・他の主体と連携した取り組みの実践が生まれる 【主な取り組み】自治会・町内会支援事業	◎多様な関わり方による事業が生まれている ◎いろいろな人の小さな力を集めて課題に向かっている ◎運営課題を解決できている
	企業	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ○調査をベースにTSCとの接点が増えた	・新しく知る機会、連携に加わる機会をつくる ○アンケートを送付した企業から46件の協力があり、コロナ禍における社会貢献活動の現状を把握でき、相談対応につながった			◎地域の課題解決の場面に参加している
	支える人材 ※包括支援0、公民館、行政など		・自治会、町内会支援の方向性を共有する ・自治を見つめ直す ・地域の取り組みに伴走する ○連携による実行委員会や会議3つに参加 ●地域の取り組みにTSCの視点での伴走を今後していく ●住民自治の方向性を共有する機会をつくることができなかった	・伴走を行うにあたって足りないスキルや知識に気づく ・TSCからNPOの発信だけでなく、多様性や課題の深掘りの視点を発信、共有する ○自治基盤、地域福祉、協働教育など、多様な機関が連携して取り組む場に参加し、人材育成やコーディネートで関わることもできた ●自治会・町内会の現状の枠を超えたアクションには至っていない	・人材育成や連携の視点を持ってネットワーク型会議に参加し、TSCの強みを活かす。他機関でも実践が広がっていく。 【主な取り組み】自治基盤、地域福祉、協働教育など、多様な機関が連携して取り組む場への参加	◎自治支援の方向性が共有され、連携ができている ◎支援者が、地域や市民からの相談に応じることができている
連携による課題解決を進める		○さまざまな主体が設定したテーマについて一緒に考え、課題解決に向けた基盤づくりができた ○企業とNPOとのマッチング事例が生まれた ○第六次総合計画の基本的姿勢の中に、「市民協働を推進する」ための計画であると明記されている	・地域の今（特に自治体・町内会から出るテーマ）を多様な主体で共有し考える ○当事者・市民・NPO・企業・行政職員など多様な主体が参加し、まちの課題を共有し、考える機会となった ○多文化共生をテーマに、多様な主体が参加し、実践する場を継続することができた ●自治会・町内会の課題や参加を軸にできなかった ●市民がより課題解決に向けた具体的なアプローチができるようにする	・地域の今（特にNPOの取り組み）を多様な主体で共有し考える ・課題に向けて効果的な関係をつくり、解決の実践の場につなげていく ○多文化共生、防災をテーマに多様な主体で課題を共有し、考える場づくりから、実践が生まれた ○多文化共生においては、持続可能な取り組みに向けた動きが出ている	・課題に向けて効果的な関係をつくり、解決の実践の場につなげていく ・連携事例を発信することで新たな連携のきっかけをつくる 【主な取り組み】連携による課題解決を進める事業	◎多様な主体による連携が進んでいる ◎各主体が、連携のよさを感じている
情報発信		○「tag」紙面をリニューアルした ○ウェブサイト、ブログの月平均訪問者数が増えている	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う ○紙媒体に加え、YouTubeチャンネル開設、Instagramの活用、Web会議ツールなど、市民が市民活動について知る機会が増えた ●各プロジェクトの発信を強化	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やし、アクションを起こす人が増える ○フリーペーパーの配架先を増やすことや、動画による発信により、市民が市民活動に触れる機会を増やすことができた ⇒フリーペーパー新規配架先数22ヵ所 ●さらなる周知や利用促進が必要	・市民活動や連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やす 【主な取り組み】フリーペーパー「tag」発行 YouTubeチャンネルによる動画発信 「たがさぼPress」による情報発信	◎地域づくりについて知る機会が設けられている
TSC運営主体を広げる			・他主体との連携を進める			
備考			・区長制度廃止、新たな自治会・町内会運営へ ・小学校新学習指導要領実施 ・国勢調査 ・東日本大震災から10年	・第六次総合計画の始まり（～令和12＝2030年度） ・中学校新学習指導要領実施 ・市制施行50周年	・高等学校新学習指導要領実施（2024＝令和6年度まで、年次進行で実施） ・中学校新学習指導要領実施	・東北学院大学工学部が移転（2023＝令和5年） ・多賀城創建1300年（2024＝令和6年）

2. 多賀城市市民活動サポートセンター 令和4年度事業計画

見直しを行ったロードマップに基づき、令和4年度の事業計画を立案した。

2022年3月

大事業	小事業	主な目的	概要(プログラム案)	主な対象	本数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域の担い手育成事業	1 雑貨市等	・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす	・市民が市民活動に触れる機会の提供 ・団体が市民向けに情報を発信する場の提供 ・市民が活動に参加する機会の提供	市民 (無関心層、役に立ちたい層)	2					キッズ●				クリスマス●			
	2 いちから塾等	・想いの整理から地域課題へ視野を広げていく	・NPO基礎講座 ・想いの整理や活動者の話を参考にし、アクションプランづくりを行う講座(TFL) ・活動者同士の交流する場	市民 (役に立ちたい層、気づいた層、ボランティアしたい層、学生等)	3		いちから●		TFL 1●	TFL 2○	TFL 3○		TFL 4○		交流発表会●		
	3 NPO運営パワーアップ事業	・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図る ・他団体や他セクターと連携し地域課題解決に取り組むために必要な発信が行われている	・インキュベート相談や窓口相談からのスキルアップ講座 ・運営力、発信力アップ講座 ・NPO・市民活動ボランティア情報の立ち上げ ・お役立ち情報の更新(2～3タイトル)	NPO・市民活動団体	5	ボラ情報収集●	お役立ち●		相談会●イン○			講座●	講座●	イン○	お役立ち○	イン○	お役立ち○
自治会・町内会支援事業	4 自治会・町内会支援事業	・各地区の取り組みを共有することによって、課題解決に向けた新たなアクションを生み出す ・他の主体と連携した取り組みの実践が生まれる	・役員以外が町内会の課題解決に参加する場づくり実践(1～2回) ・町内会活動のヒアリング、情報の蓄積 ・自分の地域を知る機会、発信する場 ・地域コミュニティ課主催の小学校区での情報交換会への参加とテーマ型情報交換会の実施(6地区×3回、テーマ型3回)	自治会・町内会役員でない地域の人	3		地コミ情報交換会●		実践夏祭り●		実践敬老会○	地域学●	実践防災○		※テーマ型		
連携による課題解決を進める事業	5 連携による課題解決を進める事業	・課題に向けて効果的な関係をつくり、解決の実践の場につなげていく ・連携事例を発信することで新たな連携のきっかけをつくる	・課題を深掘りし、アイデアを出しあう場 ・当事者視点での課題解決のための実践的な取り組み ・企業など連携に必要なセクターへのアプローチ ・ユニバーサル視点の発信 ・取り組みのまとめ冊子作成	NPO・企業・市民等	3	ヒアリング○	場●				TSR●				冊子●		
情報発信事業	6 フリーペーパー「tag」発行	・市民活動や連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やす	・情報紙tag発行(隔月A3両面) ・連携に関する発信 ・情報提供の場の開拓 ・100号記念冊子、展示等	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	6			●		●		100号発行●	100号展示●	●	100号冊子○	●	
	7 コロナ禍における情報発信事業	・市民活動や連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やす	・動画によるTSC、他事業との連携での発信、市民活動団体の発信	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	4				●		●		●		●		